

## Ⅲ 調査結果

### ～保護者調査～

### III. 調査結果 ～保護者調査～

#### 1. 子どものことについて

##### ① 調査票の記入者

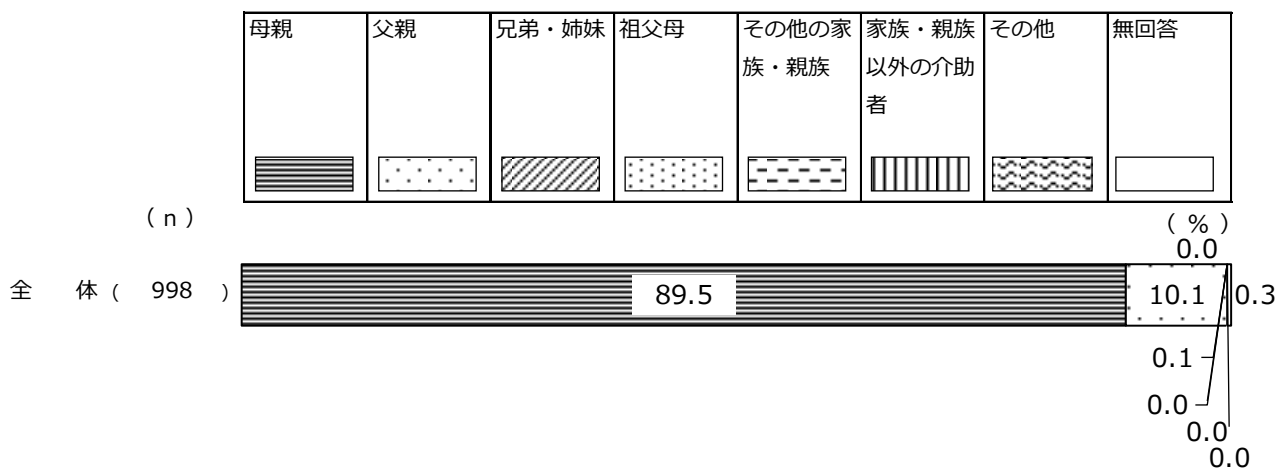
【全ての方にお伺いいたします】

問1. 調査を回答している方について、お子さまから見た続柄をお答えください。

【○は一つだけ】

調査票の記入者は、「母親」が89.5%、「父親」が10.1%と「母親」が大半を占めていた。  
クロス集計でも、傾向の変化はみられなかった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	母親	父親	兄弟・姉妹	祖父母	その他の家族・親族	家族・親族以外の介助者	その他	無回答
全体	998	89.5	10.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3
本人の年齢別	0～2歳	24	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3～5歳	247	87.4	12.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6～8歳	195	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9～11歳	189	91.5	8.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	12～14歳	161	89.4	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	15～17歳	174	89.1	10.3	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
地域別	町田地域	227	86.8	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	忠生地域	182	91.8	7.7	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
	南地域	297	91.2	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	鶴川地域	157	84.7	15.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	堺地域	128	94.5	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害種別	身体	127	90.6	9.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知的	422	89.3	10.4	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
	精神	64	82.8	17.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自立	31	93.5	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病	17	94.1	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	90.2	9.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	医療的ケアを受けている	73	87.7	11.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
	視覚障害	9	77.8	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚障害	35	91.4	8.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重度心身障害	126	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	90.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7
	核家族世帯	765	89.8	10.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	三世帯世帯	98	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス	利用している	839	90.0	9.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	利用していない	147	85.7	12.9	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	91.2	8.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.6
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	87.9	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	85.2	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

② 年齢

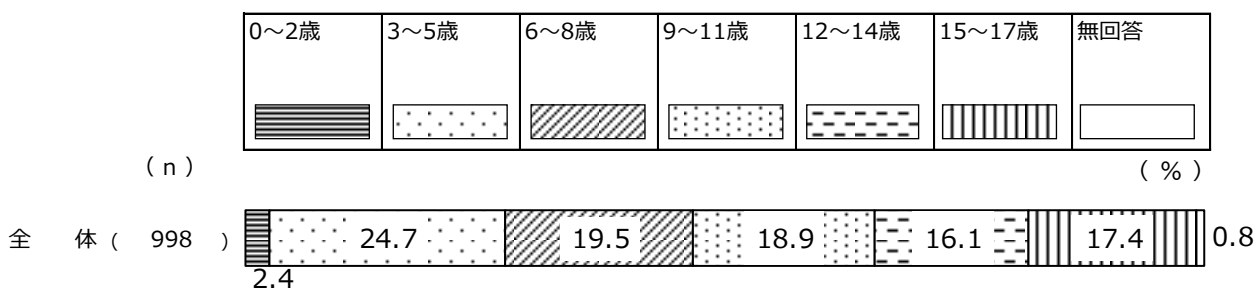
問2. 2023年4月1日時点の、お子さまの年齢をお答えください。 【数字をご記入ください】

年齢について、全体で見ると「3～5歳」が24.7%で最も高く、次いで「6～8歳」が19.5%、「9～11歳」で18.9%となっている。

サービス利用状況別にみると、『利用していない』は「12～14歳」「15～17歳」が大半を占めていた。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が3～6個と7～10個はともに「3～5歳」が40%程度であった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	0 5 2 歳	3 5 歳	6 8 歳	9 1 1 歳	1 2 5 1 4 歳	1 5 5 1 7 歳	無 回 答	
全体	998	2.4	24.7	19.5	18.9	16.1	17.4	0.8 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	3～5歳	247	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	6～8歳	195	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	9～11歳	189	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
	12～14歳	161	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
	15～17歳	174	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
地域別	町田地域	227	2.2	28.6	18.5	16.7	17.2	16.7	0.0
	忠生地域	182	1.6	16.5	15.4	23.1	19.2	23.1	1.1
	南地域	297	3.4	27.3	24.6	16.2	14.1	14.1	0.3
	鶴川地域	157	1.3	24.8	16.6	20.4	15.9	20.4	0.6
	堺地域	128	3.1	25.0	19.5	21.9	15.6	14.8	0.0
障害種別	身体	127	4.7	15.7	15.7	17.3	21.3	25.2	0.0
	知的	422	0.9	10.0	15.6	23.2	22.3	27.3	0.7
	精神	64	0.0	1.6	17.2	17.2	17.2	43.8	3.1
	自立	31	0.0	0.0	0.0	16.1	0.0	80.6	3.2
	難病	17	11.8	23.5	17.6	17.6	11.8	17.6	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	発達	672	2.1	23.5	22.3	20.7	15.9	14.9	0.6
	医療的ケアを受けている	73	8.2	20.5	11.0	28.8	13.7	16.4	1.4
	視覚障害	9	0.0	22.2	0.0	11.1	55.6	11.1	0.0
	聴覚障害	35	2.9	14.3	8.6	14.3	28.6	31.4	0.0
重度心身障害	126	2.4	13.5	11.1	26.2	27.8	19.0	0.0	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	2.5	10.8	21.7	16.7	22.5	24.2	1.7
	核家族世帯	765	2.6	27.3	20.0	18.0	15.9	15.6	0.5
	三世帯世帯	98	1.0	23.5	15.3	25.5	11.2	22.4	1.0
サービス	利用している	839	2.7	28.7	22.2	20.7	13.6	11.6	0.5
	利用していない	147	0.7	2.0	6.1	7.5	31.3	50.3	2.0
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	0.2	11.2	21.3	22.2	19.4	24.4	1.3
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	4.0	41.1	18.5	15.9	10.8	9.4	0.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	9.9	40.7	12.3	11.1	18.5	7.4	0.0

③ 居住地域

問3. お住いの地域をお選びください。

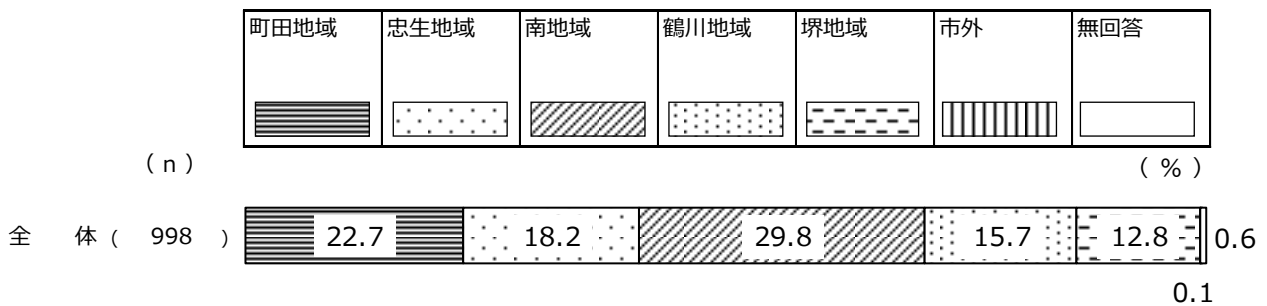
【○は一つだけ】

居住地域について、「町田地域」が22.7%、「忠生地域」が18.2%、「南地域」が29.8%、「鶴川地域」が15.7%、「堺地域」が12.8%となっている。

年齢別にみると、年齢が若いほど「南地域」の割合が高い傾向がみられた。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「南地域」の割合が高く、「鶴川地域」の割合が低かった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	町田地域	忠生地域	南地域	鶴川地域	堺地域	市外	無回答	
全体	998	22.7	18.2	29.8	15.7	12.8	0.1	0.6	(%)
本人の年齢別	0～2歳	24	20.8	12.5	41.7	8.3	16.7	0.0	0.0
	3～5歳	247	26.3	12.1	32.8	15.8	13.0	0.0	0.0
	6～8歳	195	21.5	14.4	37.4	13.3	12.8	0.0	0.5
	9～11歳	189	20.1	22.2	25.4	16.9	14.8	0.5	0.0
	12～14歳	161	24.2	21.7	26.1	15.5	12.4	0.0	0.0
	15～17歳	174	21.8	24.1	24.1	18.4	10.9	0.0	0.6
地域別	町田地域	227	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	忠生地域	182	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	南地域	297	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	鶴川地域	157	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	堺地域	128	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
障害種別	身体	127	26.0	18.1	29.1	18.9	7.9	0.0	0.0
	知的	422	22.3	21.1	27.0	15.9	13.0	0.2	0.5
	精神	64	23.4	21.9	31.3	14.1	9.4	0.0	0.0
	自立	31	16.1	25.8	29.0	16.1	12.9	0.0	0.0
	難病	17	35.3	35.3	17.6	11.8	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	22.9	18.3	30.2	15.2	12.9	0.1	0.3
	医療的ケアを受けている	73	27.4	15.1	27.4	13.7	15.1	0.0	1.4
	視覚障害	9	33.3	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0
	聴覚障害	35	25.7	20.0	20.0	28.6	5.7	0.0	0.0
重度心身障害	126	26.2	23.0	27.0	14.3	8.7	0.8	0.0	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	20.8	20.0	27.5	16.7	12.5	0.0	2.5
	核家族世帯	765	23.8	16.9	30.8	15.2	13.1	0.0	0.3
	三世帯世帯	98	19.4	24.5	27.6	20.4	8.2	0.0	0.0
サービス	利用している	839	23.0	18.0	31.6	14.3	12.6	0.0	0.5
	利用していない	147	21.1	20.4	20.4	23.1	13.6	0.0	1.4
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	21.3	19.1	28.4	17.2	13.0	0.0	0.9
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	23.7	18.0	31.2	13.4	13.4	0.0	0.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	28.4	13.6	32.1	16.0	8.6	1.2	0.0

④ 障がいについて

問4. 次のうち、お子さまにあてはまるものを全てお選びください。手帳をお持ちの方は等級・程度についてもお選びください。 【あてはまるもの全てに○】

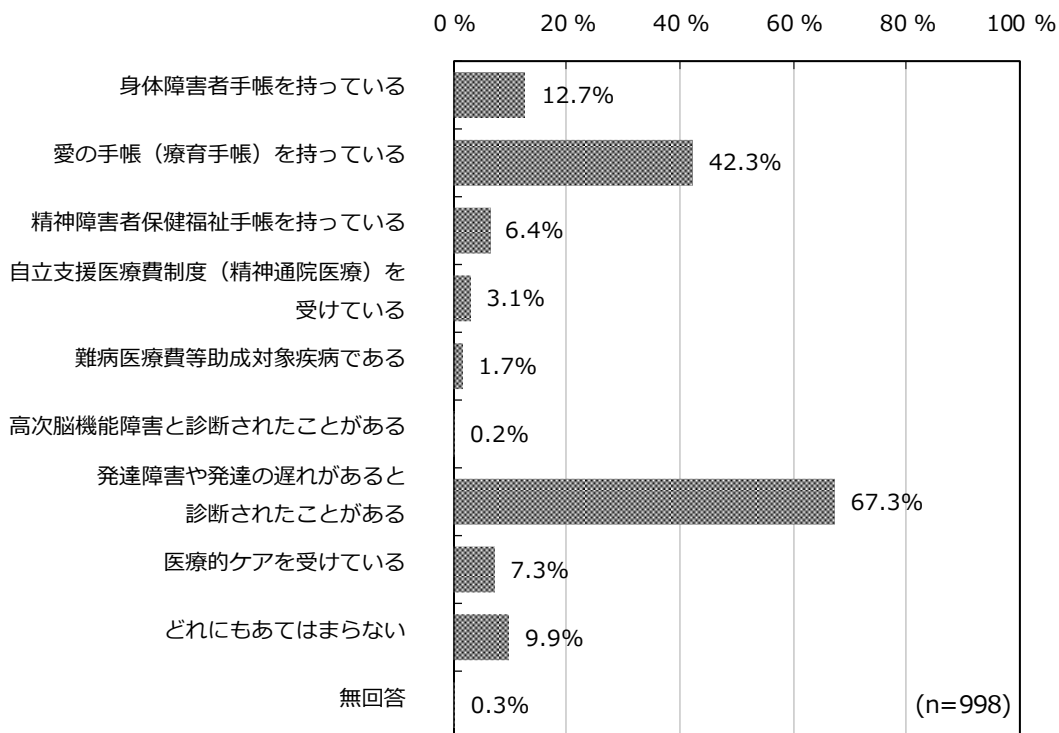
障がいについて、全体でみると「発達障害や発達の遅れがあると診断されたことがある」が最も高く 67.3%、次いで「愛の手帳（療育手帳）を持っている」が 42.3%、「身体障害者手帳を持っている」が 12.7%であった。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「愛の手帳（療育手帳）を持っている」の割合が高くなる傾向がみられた。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』より「発達障害や発達の遅れがあると診断されたことがある」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多くなるほど「愛の手帳（療育手帳）を持っている」の割合が高くなる傾向が、「発達障害や発達の遅れがあると診断されたことがある」の割合が低くなる傾向がそれぞれみられた。

【単純集計】





【クロス集計】

	回答数	身体障害者手帳を持っている	愛の手帳（療育手帳）を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている	難病医療費等助成対象疾病である	高次脳機能障害と診断されたことがある	発達障害や発達の遅れがあると診断されたことがある	医療的ケアを受けている	どれにもあてはまらない	無回答
全体	998	12.7	42.3	6.4	3.1	1.7	0.2	67.3	7.3	9.9	0.3
本人の年齢別	0～2歳	24	25.0	16.7	0.0	0.0	8.3	0.0	58.3	25.0	0.0
	3～5歳	247	8.1	17.0	0.4	0.0	1.6	0.0	64.0	6.1	26.7
	6～8歳	195	10.3	33.8	5.6	0.0	1.5	0.0	76.9	4.1	9.7
	9～11歳	189	11.6	51.9	5.8	2.6	1.6	0.0	73.5	11.1	1.1
	12～14歳	161	16.8	58.4	6.8	0.0	1.2	0.0	66.5	6.2	3.1
	15～17歳	174	18.4	66.1	16.1	14.4	1.7	1.1	57.5	6.9	0.6
地域別	町田地域	227	14.5	41.4	6.6	2.2	2.6	0.0	67.8	8.8	11.0
	忠生地域	182	12.6	48.9	7.7	4.4	3.3	0.0	67.6	6.0	6.0
	南地域	297	12.5	38.4	6.7	3.0	1.0	0.7	68.4	6.7	12.1
	錦川地域	157	15.3	42.7	5.7	3.2	1.3	0.0	65.0	6.4	8.9
	堺地域	128	7.8	43.0	4.7	3.1	0.0	0.0	68.0	8.6	10.2
障害種別	身体	127	100.0	42.5	0.8	1.6	7.9	0.8	39.4	22.0	0.0
	知的	422	12.8	100.0	2.1	4.3	2.1	0.5	64.0	7.3	0.0
	精神	64	1.6	14.1	100.0	25.0	0.0	0.0	75.0	6.3	0.0
	自立	31	6.5	58.1	51.6	100.0	0.0	6.5	83.9	16.1	0.0
	難病	17	58.8	52.9	0.0	0.0	100.0	0.0	58.8	35.3	0.0
	高次脳機能障害	2	50.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0
	発達	672	7.4	40.2	7.1	3.9	1.5	0.1	100.0	7.9	0.0
	医療的ケアを受けている	73	38.4	42.5	5.5	6.8	8.2	0.0	72.6	100.0	0.0
	視覚障害	9	100.0	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	22.2	0.0
	聴覚障害	35	100.0	22.9	0.0	0.0	5.7	0.0	22.9	17.1	0.0
重度心身障害	126	47.6	85.7	0.8	2.4	4.8	0.0	54.8	15.1	0.0	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	13.3	41.7	13.3	5.0	1.7	0.0	66.7	10.0	4.2
	核家族世帯	765	12.5	41.6	4.8	2.5	1.4	0.3	67.5	6.7	11.2
	三世帯世帯	98	14.3	46.9	9.2	6.1	4.1	0.0	70.4	10.2	8.2
サービス	利用している	839	11.7	41.0	4.3	2.4	1.9	0.2	69.6	7.9	11.6
	利用していない	147	19.7	49.0	18.4	6.8	0.7	0.0	52.4	4.8	1.4
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	10.8	32.3	9.2	4.2	1.3	0.4	70.3	7.0	7.3
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	7.3	50.5	3.5	1.6	1.1	0.0	65.1	4.0	14.8
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	50.6	71.6	1.2	2.5	7.4	0.0	58.0	24.7	4.9

⑤ 身体障害者手帳の等級

【問4で「1. 身体障害者手帳を持っている」を選択した場合】  
 問4-1. 身体障害者手帳の等級 【○は一つだけ】

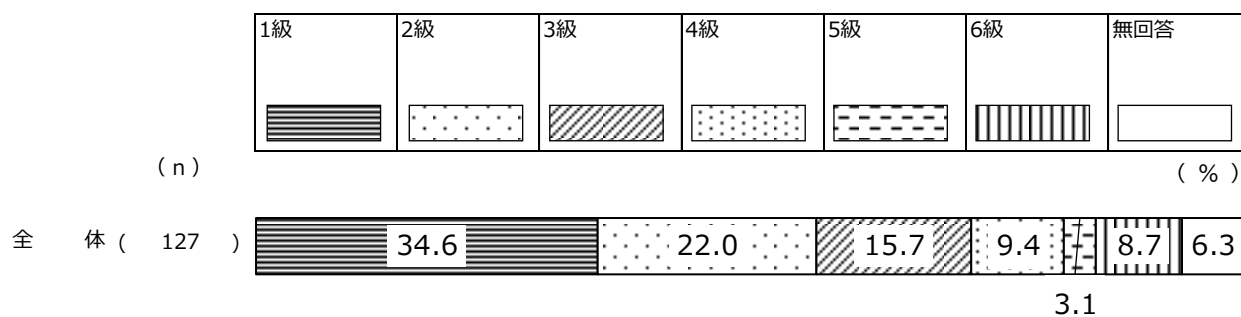
身体障害者手帳の等級について、全体でみると「1級」が最も高く 34.6%、次いで「2級」が 22.0%、「3級」が 15.7%であった。

地域別にみると、『鶴川地域』は他の地域よりも「1級」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「1級」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど「1級」の割合が高い傾向がみられた。

【単純集計】



【クロス集計】

		回 答 数	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	無 回 答
全体		127	34.6	22.0	15.7	9.4	3.1	8.7	6.3
本人 の 年 齢 別	0～2歳	6	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7
	3～5歳	20	70.0	15.0	5.0	0.0	0.0	5.0	5.0
	6～8歳	20	35.0	35.0	15.0	10.0	0.0	0.0	5.0
	9～11歳	22	18.2	27.3	36.4	4.5	0.0	9.1	4.5
	12～14歳	27	33.3	11.1	22.2	11.1	3.7	11.1	7.4
	15～17歳	32	21.9	28.1	3.1	18.8	9.4	12.5	6.3
地 域 別	町田地域	33	33.3	21.2	15.2	12.1	3.0	9.1	6.1
	忠生地域	23	43.5	21.7	17.4	8.7	0.0	8.7	0.0
	南地域	37	37.8	18.9	10.8	8.1	2.7	5.4	16.2
	鶴川地域	24	16.7	29.2	29.2	8.3	4.2	12.5	0.0
	堺地域	10	50.0	20.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0
障 害 種 別	身体	127	34.6	22.0	15.7	9.4	3.1	8.7	6.3
	知的	54	46.3	20.4	16.7	5.6	5.6	0.0	5.6
	精神	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自立	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	難病	10	70.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	発達	50	42.0	22.0	16.0	6.0	6.0	6.0	2.0
	医療的ケアを受けている	28	67.9	7.1	17.9	3.6	3.6	0.0	0.0
	視覚障害	9	55.6	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2
	聴覚障害	35	14.3	28.6	8.6	17.1	0.0	22.9	8.6
重度心身障害	60	56.7	31.7	10.0	0.0	1.7	0.0	0.0	
世 帯 構 成 別	ひとり親世帯	16	31.3	6.3	18.8	31.3	0.0	12.5	0.0
	核家族世帯	96	33.3	24.0	16.7	7.3	4.2	7.3	7.3
	三世帯世帯	14	50.0	28.6	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1
サ ー ビ ス	利用している	98	41.8	23.5	15.3	5.1	3.1	5.1	6.1
	利用していない	29	10.3	17.2	17.2	24.1	3.4	20.7	6.9
自 立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	59	8.5	25.4	18.6	20.3	3.4	15.3	8.5
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	27	33.3	33.3	18.5	0.0	3.7	3.7	7.4
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	41	73.2	9.8	9.8	0.0	2.4	2.4	2.4

⑥ 愛の手帳（療育手帳）の程度

【問4で「2. 愛の手帳（療育手帳）を持っている」を選択した場合】  
 問4-2. 愛の手帳（療育手帳）の程度 【○は一つだけ】

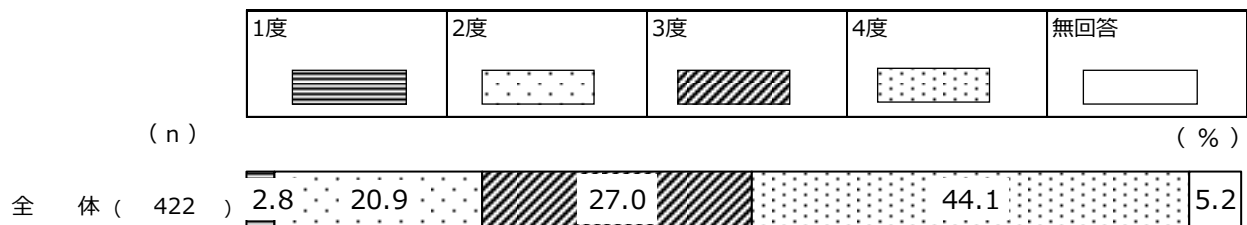
愛の手帳（療育手帳）の程度について、全体で見ると「4度」が最も高く44.1%、次いで「3度」が27.0%、「2度」が20.9%であった。

年齢別にみると、『6～8歳』は他の年齢よりも「2度」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用していない』は『利用している』よりも「4度」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど「1度」「2度」の割合が高い傾向がみられた。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	1度	2度	3度	4度	無回答
全体	422	2.8	20.9	27.0	44.1	5.2 (%)
本人の年齢別	0～2歳	4	0.0	25.0	25.0	25.0
	3～5歳	42	7.1	19.0	35.7	33.3
	6～8歳	66	3.0	9.1	40.9	39.4
	9～11歳	98	3.1	27.6	27.6	36.7
	12～14歳	94	4.3	29.8	18.1	43.6
	15～17歳	115	0.0	15.7	22.6	57.4
地域別	町田地域	94	5.3	25.5	31.9	28.7
	忠生地域	89	1.1	23.6	23.6	43.8
	南地域	114	2.6	18.4	28.9	46.5
	鶴川地域	67	3.0	19.4	20.9	53.7
	堺地域	55	1.8	14.5	27.3	54.5
障害種別	身体	54	16.7	46.3	16.7	14.8
	知的	422	2.8	20.9	27.0	44.1
	精神	9	0.0	11.1	44.4	44.4
	自立	18	0.0	16.7	33.3	50.0
	難病	9	33.3	22.2	0.0	44.4
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	50.0	50.0
	発達	270	2.6	18.9	27.8	46.7
	医療的ケアを受けている	31	19.4	29.0	25.8	22.6
	視覚障害	4	50.0	25.0	0.0	0.0
	聴覚障害	8	12.5	62.5	0.0	12.5
重度心身障害	108	11.1	81.5	4.6	2.8	
世帯構成別	ひとり親世帯	50	0.0	24.0	26.0	48.0
	核家族世帯	318	2.5	22.3	27.4	42.8
	三世帯世帯	46	8.7	8.7	21.7	52.2
サービス	利用している	344	2.9	24.4	30.5	36.9
	利用していない	72	2.8	4.2	11.1	76.4
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	176	0.6	2.3	16.5	73.9
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	188	0.0	27.1	39.9	28.7
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	58	19.0	56.9	17.2	3.4

⑦ 精神障害者保健福祉手帳の等級

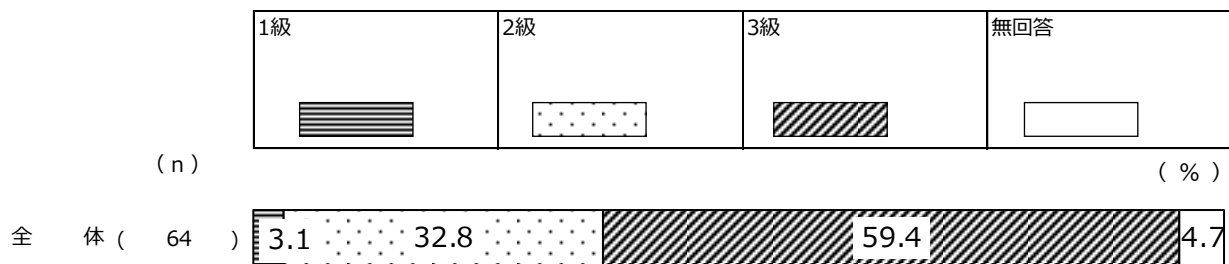
【問4で「3. 精神障害者保健福祉手帳を持っている」を選択した場合】  
 問4-3. 精神障害者保健福祉手帳の等級 【〇は一つだけ】

精神障害者保健福祉手帳の等級について、全体で見ると「3級」が最も高く59.4%、次いで「2級」が32.8%、「1級」が3.1%であった。

世帯構成別にみると、『核家族世帯』は他の世帯よりも「2級」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用していない』は『利用している』よりも「3級」の割合が高かった。

【単純集計】



【クロス集計】

		回 答 数	1 級	2 級	3 級	無 回 答
全体		64	3.1	32.8	59.4	4.7 (%)
本人の 年齢別	0～2歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3～5歳	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	6～8歳	11	0.0	18.2	72.7	9.1
	9～11歳	11	0.0	54.5	45.5	0.0
	12～14歳	11	0.0	18.2	81.8	0.0
	15～17歳	28	7.1	32.1	53.6	7.1
地域別	町田地域	15	6.7	20.0	66.7	6.7
	忠生地域	14	0.0	28.6	57.1	14.3
	南地域	20	0.0	45.0	55.0	0.0
	鶴川地域	9	11.1	22.2	66.7	0.0
	堺地域	6	0.0	50.0	50.0	0.0
障害種別	身体	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	知的	9	22.2	55.6	22.2	0.0
	精神	64	3.1	32.8	59.4	4.7
	自立	16	6.3	56.3	37.5	0.0
	難病	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達	48	2.1	35.4	58.3	4.2
	医療的ケアを受けている	4	0.0	50.0	50.0	0.0
	視覚障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	重度心身障害	1	0.0	100.0	0.0	0.0
世帯 構成別	ひとり親世帯	16	0.0	50.0	37.5	12.5
	核家族世帯	37	2.7	21.6	73.0	2.7
	三世帯世帯	9	11.1	44.4	44.4	0.0
サー ビス	利用している	36	5.6	38.9	50.0	5.6
	利用していない	27	0.0	25.9	70.4	3.7
自立 状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	50	0.0	28.0	66.0	6.0
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	13	7.7	53.8	38.5	0.0
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	1	100.0	0.0	0.0	0.0

⑧ 子どもの身体障害の状況

【問4で「1. 身体障害者手帳を持っている」を選択した方にお伺いいたします】  
 問5. お子さまの身体障害であてはまるものを全てお選びください。【あてはまるもの全てに○】

身体障害者の状況について、「肢体不自由」が最も高く59.8%、次いで「聴覚・平衡機能障害」が27.6%、「内部障害」が18.9%であった。

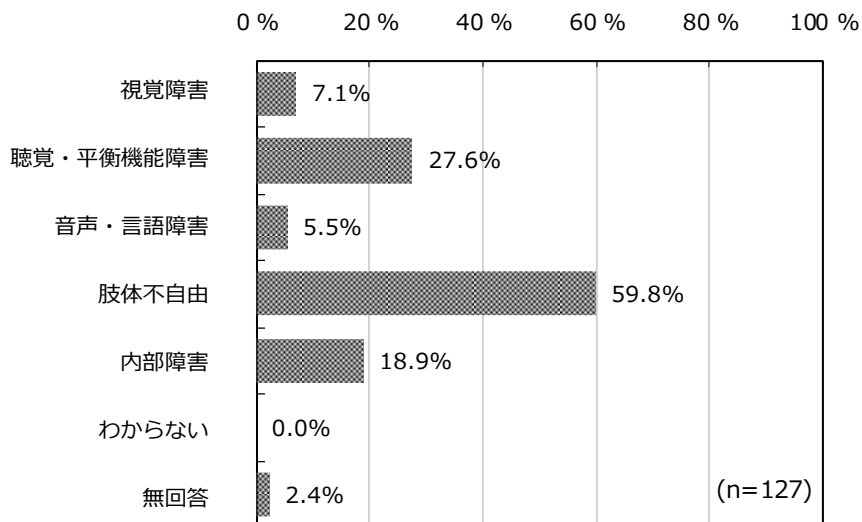
地域別にみると、『南地域』は他の地域よりも「肢体不自由」の割合が高かった。

世帯構成別にみると、『核家族世帯』は他の世帯よりも「肢体不自由」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「肢体不自由」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど、「肢体不自由」の割合が高くなる傾向がみられた。

【単純集計】





【クロス集計】

	回答数	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語障害	肢体不自由	内部障害	わからない	無回答	
全体	127	7.1	27.6	5.5	59.8	18.9	0.0	2.4	
本人の年齢別	0～2歳	6	0.0	16.7	0.0	33.3	33.3	0.0	16.7
	3～5歳	20	10.0	25.0	0.0	65.0	40.0	0.0	0.0
	6～8歳	20	0.0	15.0	5.0	70.0	25.0	0.0	0.0
	9～11歳	22	4.5	22.7	9.1	72.7	9.1	0.0	0.0
	12～14歳	27	18.5	37.0	7.4	51.9	3.7	0.0	3.7
	15～17歳	32	3.1	34.4	6.3	53.1	18.8	0.0	3.1
地域別	町田地域	33	9.1	27.3	6.1	63.6	15.2	0.0	0.0
	忠生地域	23	8.7	30.4	4.3	52.2	30.4	0.0	0.0
	南地域	37	5.4	18.9	5.4	75.7	16.2	0.0	5.4
	鶴川地域	24	4.2	41.7	4.2	45.8	16.7	0.0	0.0
	堺地域	10	10.0	20.0	10.0	40.0	20.0	0.0	10.0
障害種別	身体	127	7.1	27.6	5.5	59.8	18.9	0.0	2.4
	知的	54	7.4	14.8	9.3	81.5	16.7	0.0	3.7
	精神	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	自立	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	難病	10	0.0	20.0	0.0	50.0	40.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	発達	50	6.0	16.0	10.0	64.0	22.0	0.0	4.0
	医療的ケアを受けている	28	7.1	21.4	14.3	67.9	39.3	0.0	3.6
	視覚障害	9	100.0	33.3	33.3	66.7	22.2	0.0	0.0
	聴覚障害	35	8.6	100.0	8.6	25.7	5.7	0.0	0.0
重度心身障害	60	8.3	13.3	11.7	93.3	11.7	0.0	1.7	
世帯構成別	ひとり親世帯	16	6.3	31.3	0.0	50.0	0.0	0.0	12.5
	核家族世帯	96	7.3	29.2	7.3	63.5	18.8	0.0	1.0
	三世帯世帯	14	7.1	14.3	0.0	42.9	42.9	0.0	0.0
サービス	利用している	98	8.2	22.4	7.1	70.4	17.3	0.0	1.0
	利用していない	29	3.4	44.8	0.0	24.1	24.1	0.0	6.9
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	59	5.1	42.4	0.0	33.9	18.6	0.0	3.4
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	27	3.7	7.4	7.4	66.7	33.3	0.0	0.0
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	41	12.2	19.5	12.2	92.7	9.8	0.0	2.4

(%)

⑨ 子どもに発達の遅れや障がいがあると気がついたきっかけ

【問4で「7. 発達障害や発達の遅れがあると診断されたことがある」を選択した方にお伺いいたします】

問6. お子さまに発達の遅れや障がいがあると気がついた、最初のきっかけを教えてください。

【○は一つだけ】

子どもに発達の遅れや障がいがあると気がついたきっかけについて、全体でみると「お子さまの保護者が気づいた」が46.3%と最も高く、次いで「保育園や幼稚園、学校の助言」が22.3%であった。

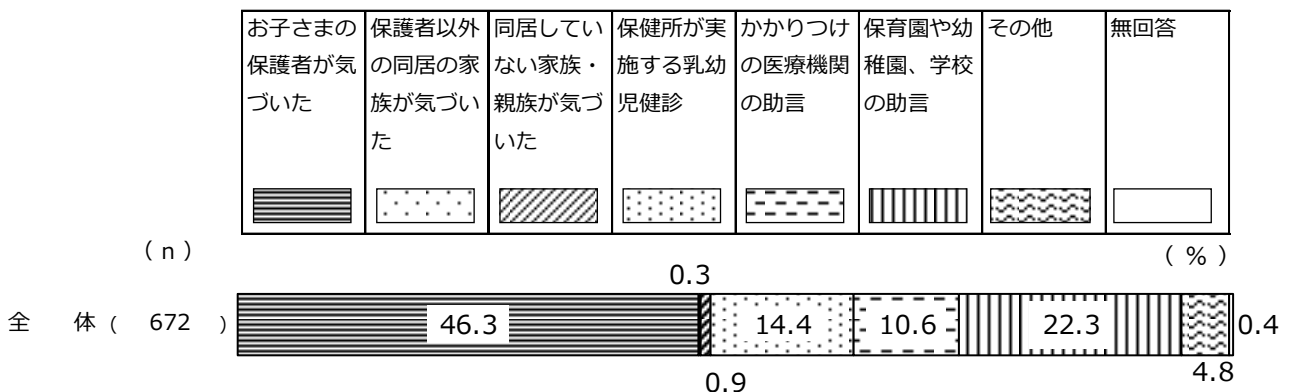
年齢別にみると、『9～11歳』は他の年齢よりも「お子さまの保護者が気づいた」の割合が低かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は他の世帯よりも「保育園や幼稚園、学校の助言」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用していない』は『利用している』よりも「保育園や幼稚園、学校の助言」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど「かかりつけの医療機関の助言」の割合が高くなり、「保育園や幼稚園、学校の助言」の割合が低くなる傾向がみられた。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	お子さまの保護者が気づいた	保護者以外の同居の家族が気づいた	同居していない家族・親族が気づいた	保健所が実施する乳幼児健診	かかりつけの医療機関の助言	保育園や幼稚園、学校の助言	その他	無回答	
全体	672	46.3	0.3	0.9	14.4	10.6	22.3	4.8	0.4	
本人の年齢別	0～2歳	14	57.1	0.0	0.0	7.1	21.4	7.1	7.1	0.0
	3～5歳	158	46.8	0.0	0.6	19.0	10.1	18.4	5.1	0.0
	6～8歳	150	52.0	0.7	0.7	12.7	7.3	22.7	3.3	0.7
	9～11歳	139	38.1	0.0	0.7	15.1	10.8	28.1	5.8	1.4
	12～14歳	107	47.7	0.0	0.9	15.0	12.1	20.6	3.7	0.0
	15～17歳	100	45.0	1.0	2.0	10.0	11.0	25.0	6.0	0.0
地域別	町田地域	154	42.9	0.6	1.3	13.6	11.0	24.0	5.8	0.6
	忠生地域	123	50.4	0.8	0.8	12.2	10.6	20.3	4.1	0.8
	南地域	203	49.3	0.0	0.5	13.8	8.9	22.7	4.9	0.0
	鶴川地域	102	41.2	0.0	2.0	17.6	13.7	22.5	2.9	0.0
	堺地域	87	46.0	0.0	0.0	16.1	10.3	20.7	5.7	1.1
障害種別	身体	50	54.0	0.0	0.0	4.0	30.0	0.0	12.0	0.0
	知的	270	44.4	0.4	1.1	15.9	16.3	14.8	7.0	0.0
	精神	48	56.3	2.1	2.1	2.1	10.4	25.0	2.1	0.0
	自立	26	38.5	3.8	3.8	7.7	15.4	23.1	7.7	0.0
	難病	10	30.0	0.0	0.0	10.0	60.0	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	46.3	0.3	0.9	14.4	10.6	22.3	4.8	0.4
	医療的ケアを受けている	53	28.3	1.9	1.9	7.5	20.8	28.3	11.3	0.0
	視覚障害	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	聴覚障害	8	62.5	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0
重度心身障害	69	49.3	0.0	2.9	13.0	24.6	4.3	5.8	0.0	
世帯構成別	ひとり親世帯	80	42.5	0.0	0.0	8.8	3.8	37.5	7.5	0.0
	核家族世帯	516	46.9	0.4	1.0	15.5	10.7	20.9	4.3	0.4
	三世帯世帯	69	44.9	0.0	1.4	14.5	17.4	14.5	5.8	1.4
サービス	利用している	584	46.7	0.3	1.0	15.1	10.8	20.9	4.8	0.3
	利用していない	77	44.2	0.0	0.0	11.7	6.5	35.1	2.6	0.0
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	383	43.3	0.0	0.5	13.8	7.0	31.3	3.4	0.5
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	242	50.0	0.8	1.2	16.9	12.4	12.0	6.2	0.4
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	47	51.1	0.0	2.1	6.4	29.8	2.1	8.5	0.0

⑩ 専門機関などへ相談したタイミング

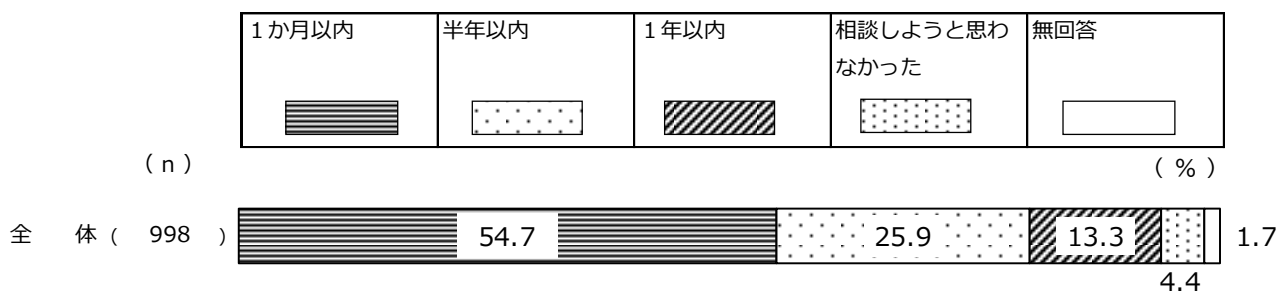
【改めて全ての方にお伺いいたします】

問7. お子さまに発達の遅れや障がいがあると気がついてから、専門機関などへ相談しようと思ったのはどのくらいですか。 【○は一つだけ】

専門機関などへ相談したタイミングについて、全体でみると「1か月以内」が54.7%と最も高く、次いで「半年以内」が25.9%であった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が7~10個の場合、他の状況よりも「1か月以内」の割合が高かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	1か月以内	半年以内	1年以内	相談しようと思わなかった	無回答	
全体	998	54.7	25.9	13.3	4.4	1.7 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	50.0	33.3	8.3	4.2	4.2
	3～5歳	247	51.0	34.0	10.5	3.6	0.8
	6～8歳	195	53.3	29.7	12.8	3.1	1.0
	9～11歳	189	59.3	19.0	14.3	5.3	2.1
	12～14歳	161	54.7	23.0	16.1	4.3	1.9
	15～17歳	174	57.5	20.1	14.9	6.3	1.1
地域別	町田地域	227	55.1	27.3	12.8	3.5	1.3
	忠生地域	182	53.3	24.2	13.7	6.6	2.2
	南地域	297	54.9	26.3	11.4	5.4	2.0
	鶴川地域	157	57.3	24.2	15.3	3.2	0.0
	堺地域	128	53.9	28.1	15.6	1.6	0.8
障害種別	身体	127	70.1	12.6	10.2	3.1	3.9
	知的	422	57.3	24.9	12.6	4.0	1.2
	精神	64	56.3	25.0	15.6	3.1	0.0
	自立	31	54.8	29.0	9.7	6.5	0.0
	難病	17	58.8	5.9	17.6	11.8	5.9
	高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	58.3	25.4	12.6	3.3	0.3
	医療的ケアを受けている	73	63.0	12.3	16.4	5.5	2.7
	視覚障害	9	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0
	聴覚障害	35	80.0	5.7	8.6	2.9	2.9
重度心身障害	126	65.1	21.4	7.9	3.2	2.4	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	55.0	21.7	15.8	5.0	2.5
	核家族世帯	765	54.6	26.5	12.9	4.2	1.7
	三世帯世帯	98	56.1	23.5	13.3	6.1	1.0
サービス	利用している	839	54.7	26.8	12.9	4.1	1.5
	利用していない	147	54.4	20.4	17.0	6.8	1.4
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	54.9	21.8	15.4	5.7	2.2
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	53.0	32.5	11.3	2.4	0.8
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	61.7	22.2	8.6	4.9	2.5

⑪ すぐに専門機関などへ相談しなかった理由

【問7で「2」～「4」を選択した方（1か月以内に相談しようと思わなかった方）にお伺いいたします】

問8. すぐに専門機関などへ相談しようと思わなかった理由を全てお選びください。

【あてはまるもの全てに○】

すぐに専門機関などへ相談しなかった理由について、全体で見ると「少し成長が遅いだけ、成長すれば変わると思った」が55.9%と最も高く、次いで「相談先が分からなかった」が26.7%であった。

年齢別にみると、『3～5歳』は他の年齢よりも「相談先が分からなかった」の割合が低かった。

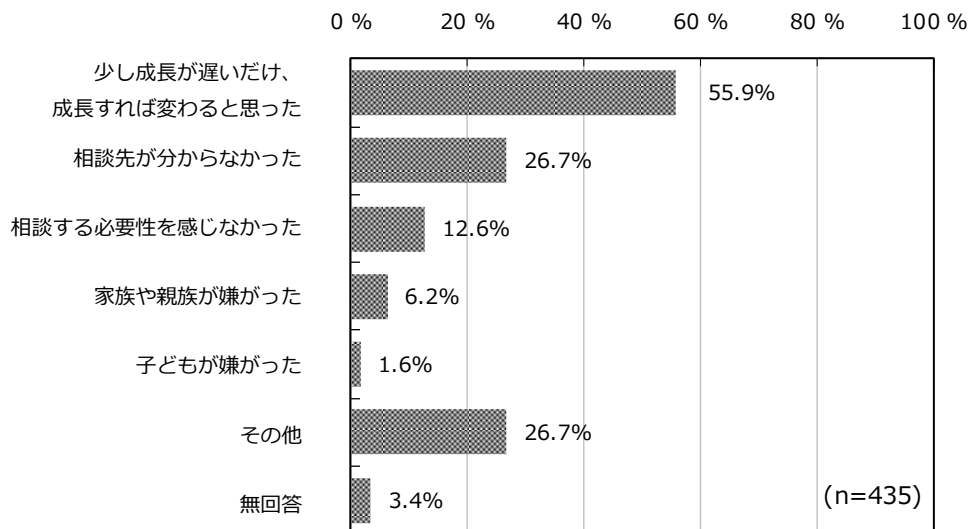
地域別にみると、『忠生地域』は他の地域よりも「相談先が分からなかった」の割合が高かった。

障害種別にみると、『発達』は他の種別よりも「少し成長が遅いだけ、成長すれば変わると思った」の割合が高かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は他の世帯よりも「相談先が分からなかった」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が0～2個の場合、他の状況よりも「相談先が分からなかった」の割合が高かった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	少し成長が遅いだけ、成長すれば変わると思った	相談先が分からなかった	相談する必要性を感じなかった	家族や親族が嫌がった	子どもが嫌がった	その他	無回答	
全体	435	55.9	26.7	12.6	6.2	1.6	26.7	3.4	
本人の年齢別	0～2歳	11	54.5	36.4	9.1	0.0	0.0	45.5	0.0
	3～5歳	119	63.0	16.0	12.6	5.0	0.0	28.6	3.4
	6～8歳	89	56.2	25.8	7.9	5.6	1.1	31.5	1.1
	9～11歳	73	50.7	34.2	17.8	6.8	1.4	26.0	2.7
	12～14歳	70	52.9	34.3	14.3	10.0	1.4	17.1	4.3
	15～17歳	72	51.4	27.8	12.5	5.6	5.6	25.0	6.9
地域別	町田地域	99	54.5	24.2	13.1	8.1	3.0	24.2	5.1
	忠生地域	81	51.9	32.1	8.6	6.2	1.2	25.9	3.7
	南地域	128	54.7	26.6	9.4	4.7	0.0	32.0	3.9
	鶴川地域	67	61.2	23.9	17.9	10.4	0.0	28.4	0.0
	堺地域	58	58.6	27.6	19.0	1.7	5.2	17.2	3.4
障害種別	身体	33	27.3	21.2	6.1	6.1	3.0	57.6	3.0
	知的	175	52.6	29.1	11.4	5.1	1.7	28.6	4.0
	精神	28	39.3	42.9	17.9	7.1	3.6	10.7	10.7
	自立	14	42.9	21.4	28.6	14.3	7.1	14.3	0.0
	難病	6	16.7	16.7	33.3	0.0	0.0	50.0	0.0
	高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達	278	58.3	25.2	11.5	6.8	1.8	26.3	2.9
	医療的ケアを受けている	25	44.0	24.0	16.0	8.0	4.0	48.0	8.0
	視覚障害	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚障害	6	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
重度心身障害	41	41.5	31.7	7.3	7.3	0.0	36.6	4.9	
世帯構成別	ひとり親世帯	51	52.9	43.1	17.6	9.8	5.9	15.7	5.9
	核家族世帯	334	56.0	24.0	12.0	4.8	0.6	28.7	3.3
	三世帯世帯	42	64.3	23.8	11.9	14.3	4.8	23.8	0.0
サービス	利用している	367	56.9	25.9	11.4	5.7	0.8	28.1	3.0
	利用していない	65	50.8	30.8	18.5	9.2	6.2	20.0	4.6
自立状況	「全部介助」が必要な動作が0～2個	234	58.5	30.8	15.4	8.1	3.0	22.2	3.4
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	172	55.2	21.5	11.0	4.1	0.0	30.2	2.9
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	29	37.9	24.1	0.0	3.4	0.0	41.4	6.9

(%)

⑫ 相談した専門機関

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問9. お子さまに発達の遅れや障がい、疾病などがあると気がついたときに、保護者や家族の方が相談した機関をお答えください。 【あてはまるもの全てに○】

発達の遅れや障がい、疾病などがあると気がついたときに相談した専門機関について、全体で見ると「子ども発達センター」が58.0%と最も高く、次いで「かかりつけの医療機関」が37.2%、「保育園や幼稚園、学校」が20.6%となっている。

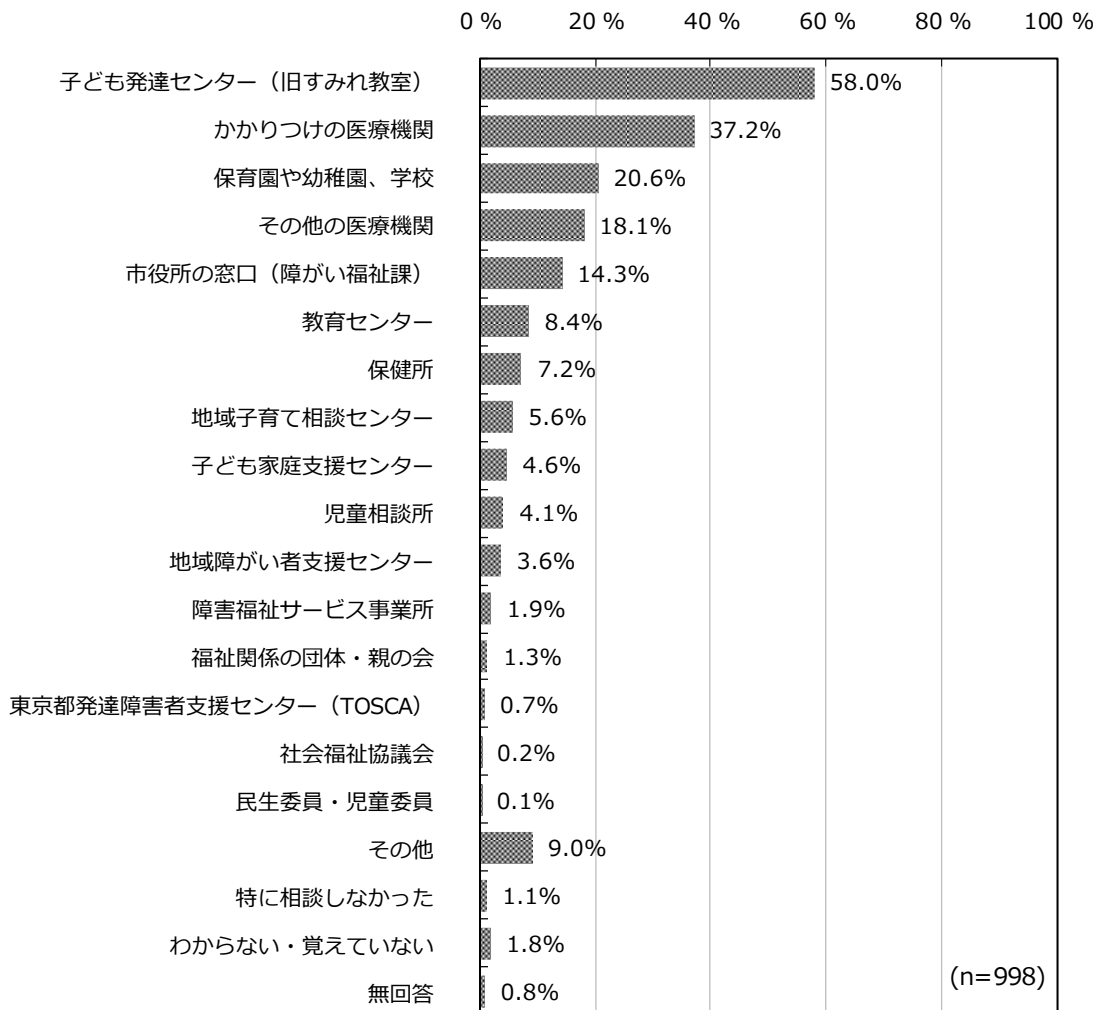
年齢別にみると、『6～8歳』は他の年齢よりも「かかりつけの医療機関」の割合が低かった。

障害種別にみると、『精神』『発達』は他の種別よりも「かかりつけの医療機関」の割合が低かった。

サービス利用別では、『利用している』は『利用していない』よりも「子ども発達センター」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど、「かかりつけの医療機関」「市役所の窓口（障がい福祉課）」の割合が高かった。

【単純集計】





【クロス集計】

	回答数	子ども発達センター（旧すみれ教室）	かかりつけの医療機関	保育園や幼稚園、学校	その他の医療機関	市役所の窓口（障がい福祉課）	教育センター	保健所	地域子育て相談センター	子ども家庭支援センター	児童相談所	地域障がい者支援センター	障害福祉サービス事業所	福祉関係の団体・親の会（TOSCA）	東京都発達障害者支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	その他	特に相談しなかった	わからない・覚えていない	無回答	
全体	998	58.0	37.2	20.6	18.1	14.3	8.4	7.2	5.6	4.6	4.1	3.6	1.9	1.3	0.7	0.2	0.1	9.0	1.1	1.8	0.8	
本人の年齢別	0～2歳	24	62.5	66.7	8.3	8.3	16.7	0.0	8.3	12.5	8.3	4.2	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	4.2	0.0	
	3～5歳	247	76.5	41.3	21.9	10.1	14.6	0.8	8.1	7.3	3.2	4.0	2.8	2.4	1.6	0.4	0.0	6.5	0.0	1.2	0.8	
	6～8歳	195	65.6	28.2	23.6	18.5	13.8	5.1	8.2	7.2	4.1	3.6	4.6	2.1	1.5	1.0	0.0	10.8	1.0	1.0	0.5	
	9～11歳	189	60.8	38.6	21.2	23.3	14.8	9.0	4.8	5.3	6.3	3.2	4.2	0.5	1.6	0.5	0.5	7.9	0.5	1.1	0.5	
	12～14歳	161	41.6	32.3	17.4	26.7	14.3	11.8	6.2	4.3	4.3	4.3	1.9	1.9	0.6	0.6	0.0	11.8	1.9	5.6	0.0	
	15～17歳	174	36.2	39.7	20.7	17.8	13.8	19.0	8.6	2.3	5.2	5.7	3.4	2.9	1.1	1.7	0.0	0.0	8.6	2.9	0.6	1.1
地域別	町田地域	227	63.0	40.1	20.7	16.3	12.8	6.2	7.5	7.9	4.4	4.0	3.1	1.8	0.4	0.9	0.0	6.2	0.9	2.2	1.3	
	忠生地域	182	52.7	38.5	20.9	17.0	12.6	12.6	8.8	4.4	4.9	4.9	1.6	2.7	1.1	1.6	0.0	9.9	0.5	1.6	0.5	
	南地域	297	60.6	38.4	17.5	17.5	15.8	7.1	6.4	5.4	4.7	3.4	2.7	1.3	1.3	0.0	0.0	10.4	0.3	2.0	0.7	
	鶴川地域	157	57.3	33.8	23.6	19.1	12.1	8.9	6.4	3.2	4.5	3.2	5.1	1.3	0.0	0.6	0.0	10.2	1.9	1.3	0.0	
	堺地域	128	52.3	32.0	25.0	24.2	19.5	8.6	7.0	7.0	4.7	6.3	7.8	3.1	4.7	0.8	1.6	0.0	8.6	2.3	1.6	0.0
障害種別	身体	127	29.1	74.0	7.1	31.5	18.1	3.1	6.3	0.8	2.4	3.9	6.3	3.1	0.8	2.4	0.8	6.3	1.6	3.1	1.6	
	知的	422	56.2	42.2	15.6	20.6	18.7	5.7	8.5	3.8	4.3	6.9	3.1	2.6	2.4	1.2	0.2	9.2	1.9	2.4	0.5	
	精神	64	35.9	31.3	23.4	26.6	9.4	18.8	4.7	6.3	12.5	7.8	1.6	0.0	1.6	1.6	0.0	6.3	3.1	4.7	1.6	
	自立	31	29.0	41.9	12.9	19.4	16.1	19.4	6.5	0.0	9.7	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	12.9	6.5	3.2	3.2	
	難病	17	64.7	88.2	11.8	29.4	17.6	0.0	11.8	5.9	5.9	11.8	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	
	高次脳機能障害	2	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	61.6	35.3	21.6	18.3	14.0	8.6	8.0	6.5	4.9	3.6	3.7	1.5	0.9	0.7	0.0	0.1	10.0	0.9	1.2	0.6
	医療的ケアを受けている	73	49.3	52.1	13.7	27.4	20.5	11.0	9.6	4.1	8.2	6.8	8.2	2.7	2.7	2.7	1.4	0.0	15.1	1.4	4.1	1.4
	視覚障害	9	22.2	55.6	11.1	33.3	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0
	聴覚障害	35	20.0	65.7	8.6	40.0	14.3	5.7	2.9	2.9	2.9	8.6	8.6	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.6	2.9	0.0	0.0
	重度心身障害	126	52.4	64.3	4.8	24.6	26.2	1.6	8.7	0.0	3.2	6.3	6.3	5.6	2.4	0.8	0.0	0.0	8.7	0.8	3.2	1.6
世帯構成別	ひとり親世帯	120	51.7	34.2	22.5	20.0	10.0	11.7	5.0	9.2	5.8	5.0	2.5	0.0	1.7	2.5	0.0	9.2	0.8	4.2	0.8	
	核家族世帯	765	59.3	37.3	20.5	17.8	14.6	7.2	7.6	5.2	4.2	3.4	4.3	2.1	1.3	0.4	0.1	9.0	1.0	1.6	0.7	
	三世帯世帯	98	57.1	39.8	20.4	20.4	15.3	14.3	8.2	4.1	5.1	5.1	0.0	2.0	0.0	1.0	1.0	9.2	1.0	1.0	1.0	
サービス	利用している	839	62.6	38.0	21.3	17.4	15.1	6.3	7.7	6.1	4.5	3.8	4.3	2.0	1.4	0.6	0.2	9.1	0.7	1.5	0.8	
	利用していない	147	32.7	31.3	17.7	23.8	9.5	20.4	4.8	2.7	4.8	5.4	0.0	1.4	0.7	1.4	0.0	8.8	3.4	3.4	0.7	
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	51.0	29.4	24.0	18.0	12.3	13.8	5.9	5.1	5.5	3.3	3.1	1.7	0.6	1.1	0.2	9.7	1.5	0.9	1.1	
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	67.5	42.7	17.7	16.1	16.4	2.2	8.1	6.7	3.2	3.2	2.7	1.6	1.3	0.0	0.3	8.3	0.5	2.7	0.5	
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	61.7	64.2	11.1	28.4	18.5	1.2	12.3	3.7	4.9	13.6	11.1	4.9	6.2	1.2	0.0	7.4	1.2	3.7	0.0	

(%)

⑬ 相談機関を知ったきっかけ

【問9で「1」～「16」のいずれかの相談機関を選択した方にお伺いいたします】  
 問10. 相談機関のことは何で知りましたか。あてはまるものを全てお選びください。  
 【あてはまるもの全てに○】

相談機関を知ったきっかけについて、全体で見ると「乳幼児健康診査・保健所の紹介」が30.0%と最も高く、次いで「保育園や幼稚園、学校の紹介」が23.8%であった。

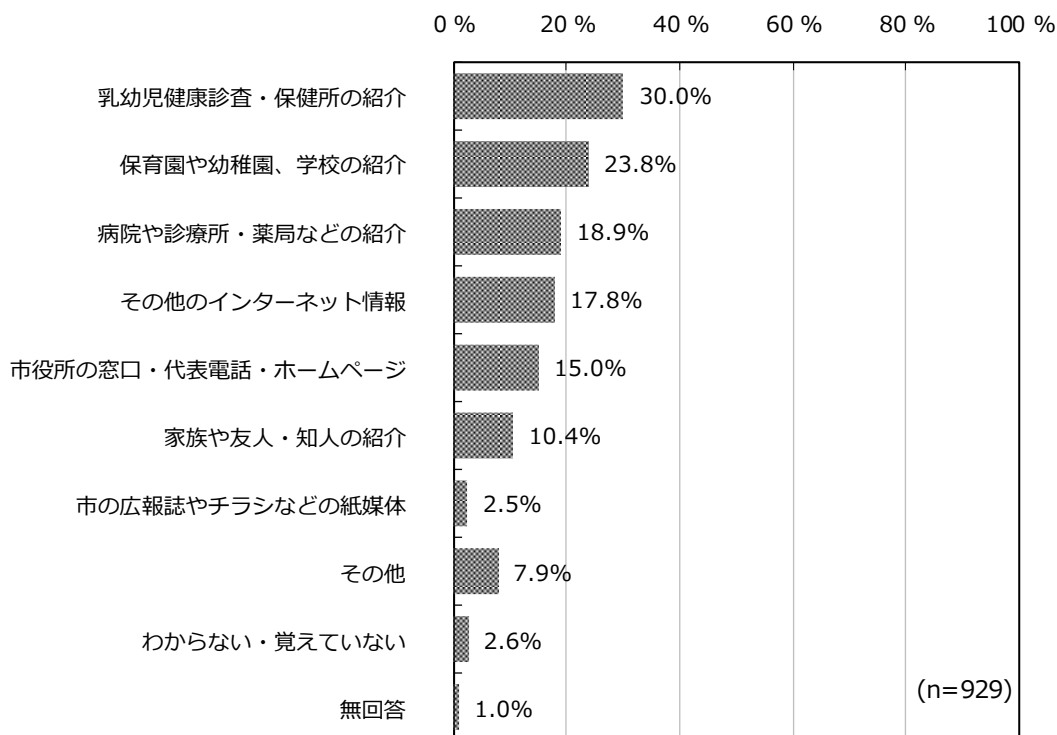
地域別にみると、『堺地域』は他の地域よりも「乳幼児健康診査・保健所の紹介」の割合が高かった。

障害種別にみると、『知的』『発達』は他の種別よりも「乳幼児健康診査・保健所の紹介」の割合が高かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は他の世帯よりも「保育園や幼稚園、学校の紹介」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「乳幼児健康診査・保健所の紹介」の割合が高かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	乳幼児健康診査・保健所の紹介	保育園や幼稚園、学校の紹介	病院や診療所・薬局などの紹介	その他のインターネット情報	市役所の窓口・代表電話・ホームページ	家族や友人・知人の紹介	市の広報誌やチラシなどの紙媒体	その他	わからない・覚えていない	無回答
全体	929	30.0	23.8	18.9	17.8	15.0	10.4	2.5	7.9	2.6	1.0
本人の年齢別	0～2歳	23	47.8	8.7	30.4	17.4	21.7	4.3	0.0	4.3	0.0
	3～5歳	241	32.8	19.9	15.8	17.0	17.8	7.1	2.1	13.3	0.8
	6～8歳	179	33.0	27.9	14.0	19.6	18.4	14.0	0.0	2.8	1.1
	9～11歳	180	24.4	22.8	23.9	17.2	14.4	11.1	2.8	7.2	4.4
	12～14歳	142	28.9	24.6	19.7	18.3	9.9	12.7	2.8	4.9	4.9
	15～17歳	159	28.3	27.7	22.0	15.1	10.7	10.1	5.7	8.8	3.1
地域別	町田地域	213	28.6	24.9	19.2	16.9	16.0	10.8	1.4	9.9	2.8
	忠生地域	169	26.0	26.0	24.3	15.4	12.4	9.5	3.0	7.7	1.2
	南地域	276	31.2	22.8	14.5	19.6	14.9	10.1	3.3	6.5	2.9
	鶴川地域	146	28.8	23.3	19.9	17.8	13.7	8.2	2.1	8.9	2.7
	堺地域	121	36.4	22.3	20.7	17.4	19.0	14.9	2.5	6.6	3.3
障害種別	身体	116	10.3	6.0	55.2	11.2	12.1	6.9	2.6	12.1	6.9
	知的	390	33.6	17.4	22.8	17.2	11.8	11.0	2.6	8.2	4.9
	精神	56	21.4	28.6	14.3	26.8	14.3	12.5	1.8	5.4	1.8
	自立	27	22.2	18.5	11.1	25.9	7.4	11.1	3.7	3.7	3.7
	難病	16	25.0	0.0	50.0	12.5	25.0	18.8	6.3	0.0	12.5
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	発達	635	32.8	24.6	16.4	18.1	15.3	10.4	3.1	7.9	2.0
	医療的ケアを受けている	68	14.7	22.1	41.2	16.2	22.1	8.8	2.9	10.3	1.5
	視覚障害	7	0.0	0.0	28.6	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
	聴覚障害	34	8.8	11.8	55.9	11.8	5.9	14.7	2.9	8.8	2.9
重度心身障害	112	29.5	3.6	44.6	14.3	17.0	8.9	1.8	9.8	8.0	
世帯構成別	ひとり親世帯	110	25.5	38.2	13.6	22.7	13.6	15.5	2.7	5.5	0.9
	核家族世帯	716	30.7	21.8	20.0	16.9	15.4	9.4	2.5	8.2	2.4
	三世帯世帯	91	30.8	23.1	18.7	17.6	13.2	12.1	2.2	7.7	5.5
サービス	利用している	785	32.5	22.5	18.3	18.9	15.9	10.3	2.4	8.2	2.4
	利用していない	132	17.4	33.3	22.7	12.1	7.6	11.4	3.0	6.1	2.3
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	504	24.6	32.5	14.7	17.9	13.1	10.7	2.6	7.1	2.0
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	349	38.4	15.8	21.2	18.3	17.2	9.7	2.3	7.7	2.0
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	76	27.6	2.6	36.8	14.5	17.1	11.8	2.6	13.2	9.2

⑭ 受けている医療的ケアの内容

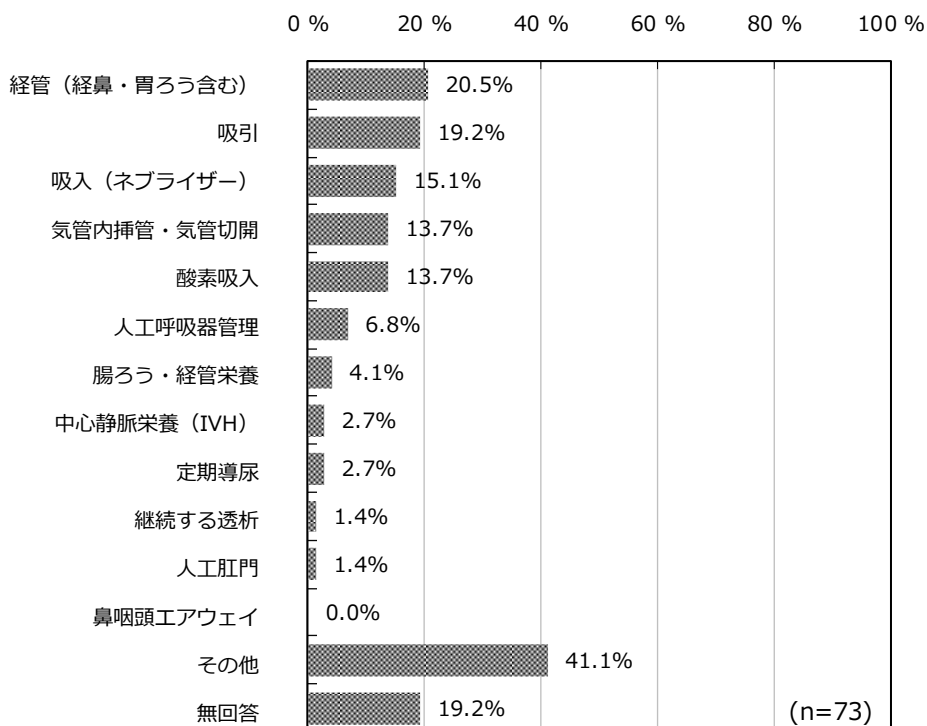
【問4で「8. 医療的ケアを受けている」を選択した方にお伺いいたします】

問 11. 現在、お子さまが受けている医療的ケアにあてはまるものを全てお選びください。

【あてはまるもの全てに○】

受けている医療的ケアの内容について、全体でみると「経管（経鼻・胃ろう含む）」が20.5%と最も高く、次いで「吸引」が19.2%であった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	経管（経鼻・胃ろう含む）	吸引	吸入（ネブライザー）	気管内挿管・気管切開	酸素吸入	人工呼吸器管理	腸ろう・経管栄養	中心静脈栄養（IVH）	定期導尿	継続する透析	人工肛門	鼻咽喉工アウェイ	その他	無回答	
全体	73	20.5	19.2	15.1	13.7	13.7	6.8	4.1	2.7	2.7	1.4	1.4	0.0	41.1	19.2	
本人の年齢別	0～2歳	6	33.3	50.0	50.0	16.7	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	
	3～5歳	15	33.3	33.3	20.0	20.0	20.0	13.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	20.0	26.7	
	6～8歳	8	25.0	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	25.0	12.5	
	9～11歳	21	23.8	19.0	19.0	19.0	9.5	4.8	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	42.9	23.8	
	12～14歳	10	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0	10.0	
	15～17歳	12	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	8.3	0.0	50.0	25.0
地域別	町田地域	20	35.0	25.0	20.0	15.0	20.0	10.0	5.0	5.0	0.0	0.0	5.0	0.0	35.0	5.0
	忠生地域	11	18.2	18.2	18.2	9.1	27.3	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	54.5	9.1	
	南地域	20	20.0	25.0	25.0	20.0	5.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	15.0	
	鶴川地域	10	20.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	50.0	30.0	
	堺地域	11	0.0	9.1	0.0	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	54.5
障害種別	身体	28	50.0	50.0	35.7	35.7	32.1	17.9	10.7	7.1	3.6	0.0	3.6	0.0	14.3	0.0
	知的	31	41.9	32.3	25.8	22.6	22.6	9.7	6.5	0.0	3.2	3.2	0.0	0.0	25.8	9.7
	精神	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
	自立	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	40.0	
	難病	6	33.3	33.3	33.3	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	
	高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	発達	53	13.2	13.2	11.3	9.4	11.3	0.0	1.9	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	45.3	24.5
	医療的ケアを受けている	73	20.5	19.2	15.1	13.7	13.7	6.8	4.1	2.7	2.7	1.4	1.4	0.0	41.1	19.2
	視覚障害	2	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚障害	6	66.7	66.7	50.0	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
重度心身障害	19	68.4	63.2	47.4	42.1	31.6	15.8	10.5	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
世帯構成別	ひとり親世帯	12	16.7	16.7	16.7	16.7	8.3	16.7	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	66.7	8.3	
	核家族世帯	51	23.5	23.5	17.6	13.7	13.7	3.9	2.0	2.0	2.0	2.0	0.0	35.3	17.6	
	三世帯世帯	10	10.0	0.0	0.0	10.0	20.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	
サービス	利用している	66	22.7	21.2	16.7	15.2	12.1	7.6	4.5	1.5	3.0	1.5	0.0	39.4	19.7	
	利用していない	7	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	57.1	14.3
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	38	0.0	0.0	2.6	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	2.6	2.6	0.0	63.2	23.7	
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	15	13.3	13.3	6.7	13.3	6.7	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	26.7	33.3	
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	20	65.0	60.0	45.0	40.0	35.0	20.0	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	

(%)

## 2. 子どもの生活環境について

### ① 同居人について

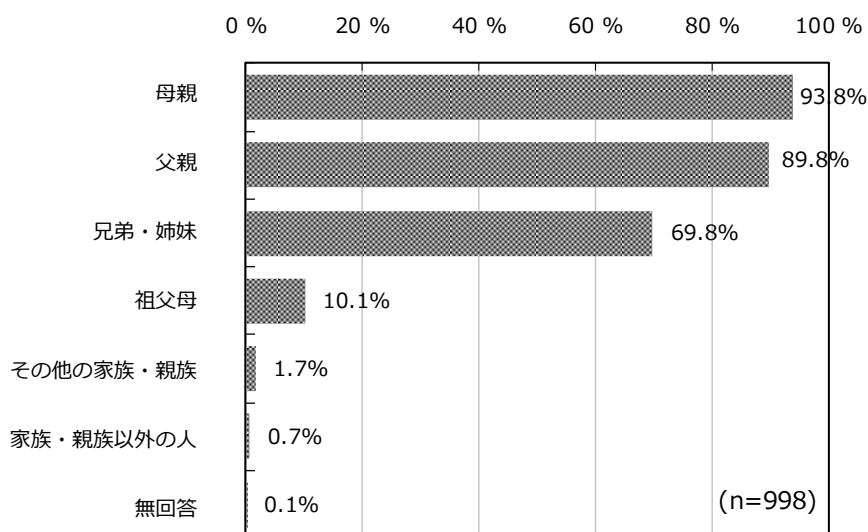
【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 12. 現在、お子さまと同居している人について、お子さまから見た続柄であてはまる人を全てお選びください。 【あてはまるもの全てに○】

同居人について、全体でみると「母親」が最も高く 93.8%、次いで「父親」が 89.8%、「兄弟・姉妹」が 69.8%、「祖父母」が 10.1%であった。

クロス集計でも、傾向の変化はみられなかった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	母親	父親	兄弟・姉妹	祖父母	その他の家族・親族	家族・親族以外の人	無回答
全体	998	93.8	89.8	69.8	10.1	1.7	0.7	0.1 (%)
本人の年齢別	0～2歳	24	95.8	91.7	41.7	4.2	0.0	0.0
	3～5歳	247	96.0	95.1	61.5	10.1	0.4	0.0
	6～8歳	195	92.8	91.8	74.9	7.7	2.1	0.5
	9～11歳	189	93.1	87.3	70.9	13.2	2.6	1.6
	12～14歳	161	93.2	88.8	72.0	6.8	2.5	0.6
	15～17歳	174	93.1	84.5	77.6	13.2	1.7	1.1
地域別	町田地域	227	95.6	91.2	67.4	8.4	1.3	0.4
	忠生地域	182	94.0	86.8	75.3	14.3	1.6	1.1
	南地域	297	94.3	91.2	68.0	9.1	1.0	0.0
	鶴川地域	157	93.0	89.8	68.8	12.7	2.5	0.6
	堺地域	128	91.4	91.4	72.7	7.0	3.1	1.6
障害種別	身体	127	93.7	89.8	69.3	11.0	4.7	0.0
	知的	422	93.1	89.8	71.8	11.1	1.9	1.2
	精神	64	87.5	81.3	73.4	14.1	3.1	1.6
	自立	31	96.8	83.9	77.4	19.4	0.0	0.0
	難病	17	100.0	76.5	64.7	23.5	5.9	0.0
	高次脳機能障害	2	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	94.5	89.3	67.6	10.6	1.5	0.6
	医療的ケアを受けている	73	93.2	87.7	63.0	13.7	4.1	0.0
	視覚障害	9	88.9	100.0	55.6	11.1	11.1	0.0
	聴覚障害	35	94.3	91.4	74.3	5.7	0.0	0.0
重度心身障害	126	94.4	91.3	69.0	8.7	2.4	0.8	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	59.2	40.8	60.0	0.0	0.0	0.0
	核家族世帯	765	100.0	100.0	72.0	0.0	0.0	0.0
	三世帯世帯	98	98.0	82.7	68.4	100.0	14.3	0.0
サービス	利用している	839	94.3	91.4	68.9	9.3	1.7	0.6
	利用していない	147	91.8	83.0	76.9	13.6	2.0	0.7
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	93.4	87.2	73.8	10.5	2.2	0.7
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	94.1	92.7	65.3	9.7	0.8	0.5
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	95.1	93.8	64.2	9.9	2.5	1.2

② 子どものきょうだい家庭内で担っている役割

【問 12 で「3. 兄弟・姉妹」を選択した方にお伺いいたします】

問 13. お子さまの兄弟・姉妹が家庭の中で担っている役割があれば、あてはまるものをお選びください。

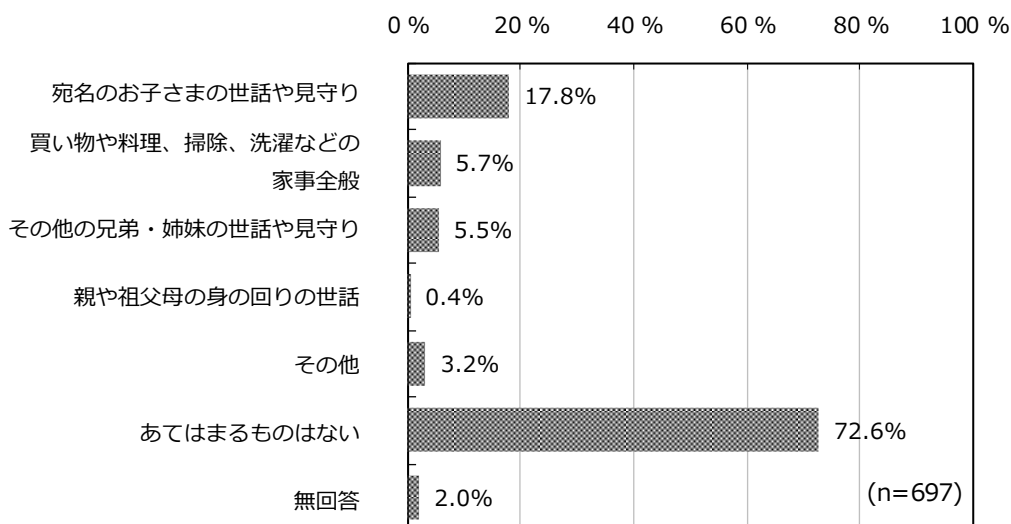
【あてはまるもの全てに○】

子どものきょうだい家庭内で担っている役割について、全体で見ると「宛名のお子さまの世話や見守り」が 17.8%と最も高かった。「あてはまるものはない」は 72.6%であった。

障害種別にみると、『重度心身障害』は他の種別よりも「宛名のお子さまの世話や見守り」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど「宛名のお子さまの世話や見守り」の割合が高くなる傾向がみられた。

【単純集計】





	回答数	宛名のお子さまの世話や見守り	買い物や料理、掃除、洗濯などの家事全般	その他の兄弟・姉妹の世話や見守り	親や祖父母の身の回りの世話	その他	あてはまるものはない	無回答	
全体	697	17.8	5.7	5.5	0.4	3.2	72.6	2.0	
本人の年齢別	0～2歳	10	30.0	0.0	0.0	0.0	10.0	60.0	0.0
	3～5歳	152	15.8	2.0	1.3	0.0	2.6	79.6	2.6
	6～8歳	146	14.4	1.4	6.2	0.0	2.7	76.7	0.7
	9～11歳	134	23.9	6.0	10.4	0.7	2.2	65.7	3.7
	12～14歳	116	19.0	9.5	6.9	0.9	5.2	70.7	0.9
	15～17歳	135	14.8	11.1	3.7	0.7	3.0	70.4	2.2
地域別	町田地域	153	20.9	5.2	4.6	0.7	5.2	69.9	2.0
	忠生地域	137	18.2	5.8	5.1	0.0	2.9	73.0	1.5
	南地域	202	15.8	5.0	5.4	1.0	2.0	76.2	1.5
	鶴川地域	108	15.7	6.5	6.5	0.0	2.8	72.2	1.9
	堺地域	93	17.2	5.4	5.4	0.0	3.2	69.9	4.3
障害種別	身体	88	18.2	8.0	5.7	0.0	3.4	72.7	1.1
	知的	303	26.4	7.9	5.6	0.7	3.6	63.7	2.0
	精神	47	14.9	10.6	8.5	0.0	4.3	66.0	4.3
	自立	24	16.7	16.7	12.5	4.2	12.5	54.2	0.0
	難病	11	18.2	9.1	9.1	0.0	18.2	54.5	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	発達	454	18.3	5.9	6.6	0.7	3.5	70.9	2.0
	医療的ケアを受けている	46	26.1	13.0	4.3	4.3	2.2	58.7	4.3
	視覚障害	5	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0
	聴覚障害	26	7.7	3.8	0.0	0.0	0.0	88.5	0.0
重度心身障害	87	34.5	8.0	6.9	0.0	8.0	56.3	1.1	
世帯構成別	ひとり親世帯	72	18.1	8.3	8.3	0.0	2.8	75.0	0.0
	核家族世帯	551	18.1	4.9	4.7	0.2	3.1	73.0	1.8
	三世帯世帯	67	14.9	10.4	9.0	3.0	4.5	65.7	6.0
サービス	利用している	578	18.9	4.5	5.2	0.3	3.1	72.3	1.9
	利用していない	113	12.4	12.4	6.2	0.9	3.5	74.3	1.8
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	402	11.4	6.5	6.7	0.7	2.0	77.4	2.5
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	243	24.7	4.5	4.1	0.0	4.5	68.3	0.8
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	52	34.6	5.8	1.9	0.0	5.8	55.8	3.8

(%)

### ③ 介助が必要な動作（全体）

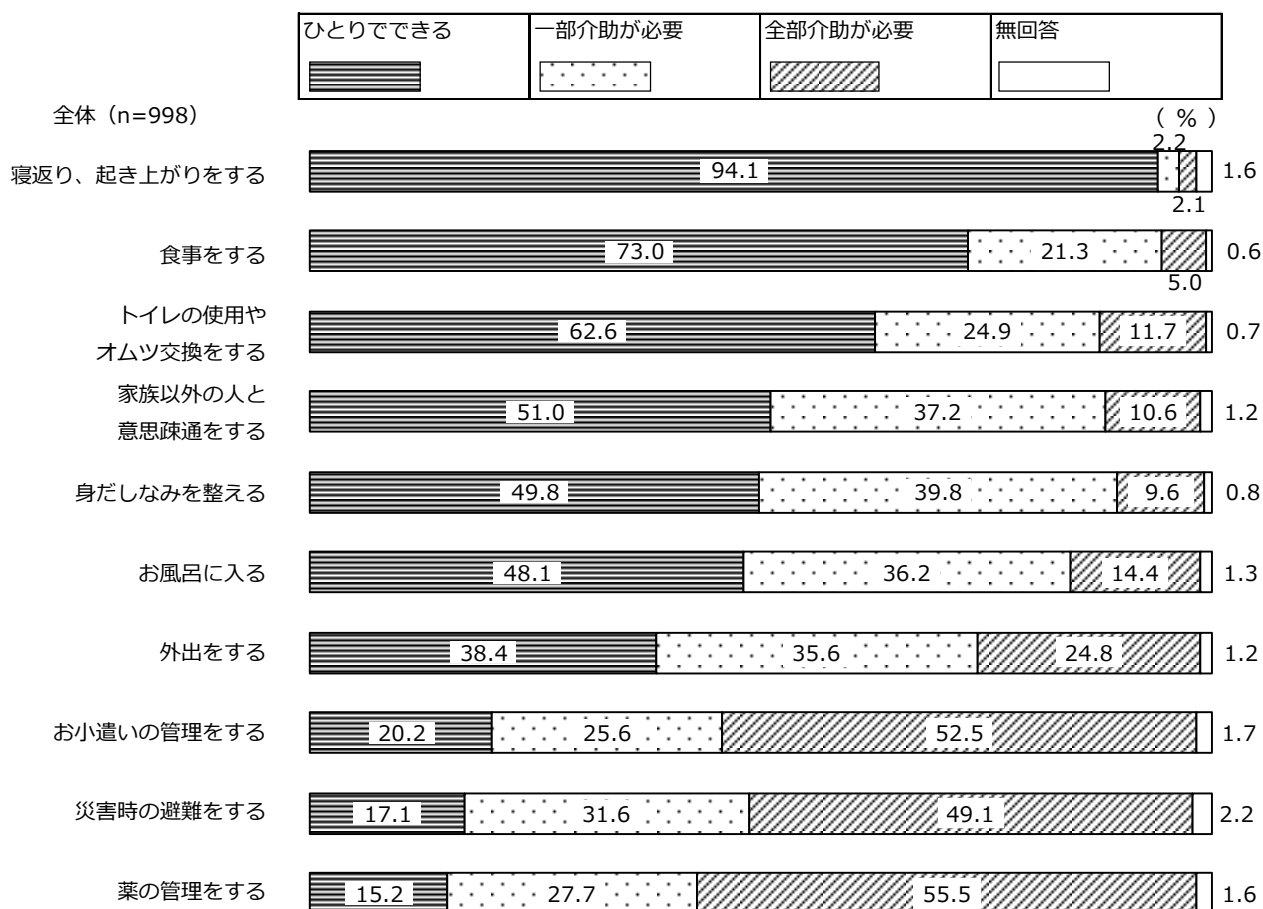
【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 14. お子さまは以下の動作について介助が必要ですか。①～⑩の動作について、それぞれのあてはまる状態をお選びください。【○はそれぞれに一つずつ】

介助が必要な動作な動作について、「ひとりでできる」動作は「寝返り、起き上がりをする」が94.1%と最も高く、次いで「食事をする」が73.0%であった。

「薬の管理をする」が15.2%と最も低く、次いで「災害時の避難をする」が17.1%であった。

【単純集計（全項目）】



※項目名は、調査票提示順ではなく「ひとりできる」の割合が高い順に並び替え

④ 介助が必要な動作（食事をする）

【改めて全ての方にお伺いいたします】

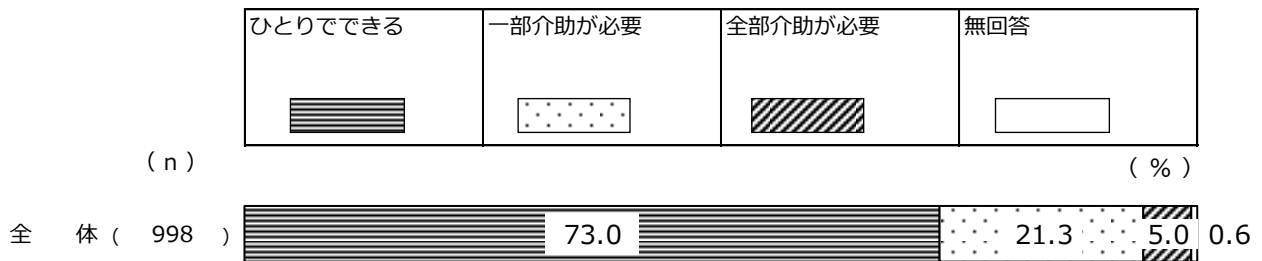
問 14. お子さまは以下の動作について介助が必要ですか。①～⑩の動作について、それぞれのあてはまる状態をお選びください。【○はそれぞれに一つずつ】

介助が必要な動作な動作のうち「食事をする」について、全体でみると「ひとりでできる」は73.0%で、「一部介助が必要」は21.3%、「全部介助が必要」は5.0%であった。

障害種別にみると、『精神』は他の種別よりも「ひとりでできる」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

		回 答 数	ひ と り で で き る	一 部 介 助 が 必 要	全 部 介 助 が 必 要	無 回 答
全体		998	73.0	21.3	5.0	0.6
本人の 年齢別	0～2歳	24	12.5	66.7	20.8	0.0
	3～5歳	247	61.1	31.6	6.9	0.4
	6～8歳	195	79.0	17.4	3.6	0.0
	9～11歳	189	73.5	20.6	4.2	1.6
	12～14歳	161	78.3	16.1	5.6	0.0
	15～17歳	174	85.6	11.5	2.3	0.6
地域別	町田地域	227	71.8	20.3	7.9	0.0
	忠生地域	182	72.5	24.2	2.7	0.5
	南地域	297	71.4	22.6	5.1	1.0
	鶴川地域	157	74.5	21.0	4.5	0.0
	堺地域	128	77.3	18.0	3.1	1.6
障害 種別	身体	127	50.4	19.7	29.1	0.8
	知的	422	62.1	28.2	9.5	0.2
	精神	64	87.5	10.9	0.0	1.6
	自立	31	77.4	19.4	3.2	0.0
	難病	17	47.1	17.6	29.4	5.9
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0
	発達	672	74.4	21.1	4.0	0.4
	医療的ケアを受けている	73	54.8	16.4	27.4	1.4
	視覚障害	9	33.3	11.1	55.6	0.0
	聴覚障害	35	74.3	5.7	20.0	0.0
	重度心身障害	126	24.6	41.3	33.3	0.8
世帯 構成別	ひとり親世帯	120	75.8	20.8	2.5	0.8
	核家族世帯	765	72.0	22.1	5.4	0.5
	三世帯世帯	98	75.5	18.4	5.1	1.0
サー ビス	利用している	839	69.1	24.7	5.7	0.5
	利用していない	147	95.2	3.4	0.7	0.7
自立 状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	92.8	6.2	0.0	0.9
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	59.1	40.3	0.5	0.0
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	3.7	35.8	59.3	1.2

⑤ 介助が必要な動作（トイレの使用やオムツ交換をする）

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 14. お子さまは以下の動作について介助が必要ですか。①～⑩の動作について、それぞれのあてはまる状態をお選びください。 【○はそれぞれに一つずつ】

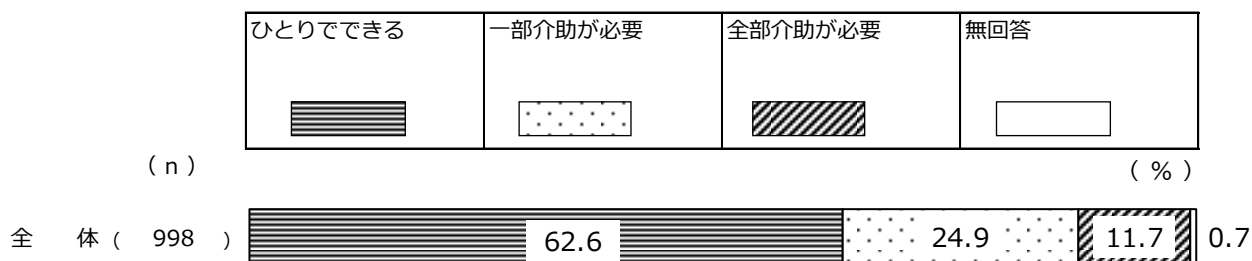
介助が必要な動作な動作のうち「トイレの使用やオムツ交換をする」について、全体でみると「ひとりでできる」は 62.6%で、「一部介助が必要」は 24.9%、「全部介助が必要」は 11.7%であった。

年齢別にみると、『6～8歳』以降は「ひとりでできる」の割合は7割以上であった。

障害種別にみると、『重度心身障害』は他の種別よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

		回 答 数	ひ と り で で き る	一 部 介 助 が 必 要	全 部 介 助 が 必 要	無 回 答
全体		998	62.6	24.9	11.7	0.7
本人の 年齢 別	0～2歳	24	0.0	45.8	54.2	0.0
	3～5歳	247	36.0	41.7	22.3	0.0
	6～8歳	195	70.8	23.6	5.6	0.0
	9～11歳	189	70.4	21.7	6.9	1.1
	12～14歳	161	71.4	17.4	10.6	0.6
	15～17歳	174	82.8	11.5	4.6	1.1
地域 別	町田地域	227	59.0	26.0	14.5	0.4
	忠生地域	182	63.2	24.2	11.5	1.1
	南地域	297	62.0	25.9	11.4	0.7
	鶴川地域	157	66.2	21.7	12.1	0.0
	堺地域	128	64.1	27.3	7.0	1.6
障害 種別	身体	127	44.1	17.3	38.6	0.0
	知的	422	52.4	30.1	16.6	0.9
	精神	64	81.3	14.1	1.6	3.1
	自立	31	83.9	9.7	6.5	0.0
	難病	17	41.2	17.6	41.2	0.0
	高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	64.4	24.4	10.4	0.7
	医療的ケアを受けている	73	53.4	13.7	31.5	1.4
	視覚障害	9	33.3	0.0	66.7	0.0
	聴覚障害	35	74.3	2.9	22.9	0.0
	重度心身障害	126	11.1	41.3	46.8	0.8
世帯 構成 別	ひとり親世帯	120	70.0	21.7	8.3	0.0
	核家族世帯	765	60.8	26.5	12.2	0.5
	三世帯世帯	98	66.3	17.3	13.3	3.1
サ ー ビ ス	利用している	839	57.4	28.4	13.7	0.5
	利用していない	147	92.5	5.4	0.7	1.4
自 立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	90.3	8.6	0.0	1.1
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	35.8	53.8	10.2	0.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	0.0	2.5	97.5	0.0

⑥ 介助が必要な動作（お風呂に入る）

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 14. お子さまは以下の動作について介助が必要ですか。①～⑩の動作について、それぞれのあてはまる状態をお選びください。【○はそれぞれに一つずつ】

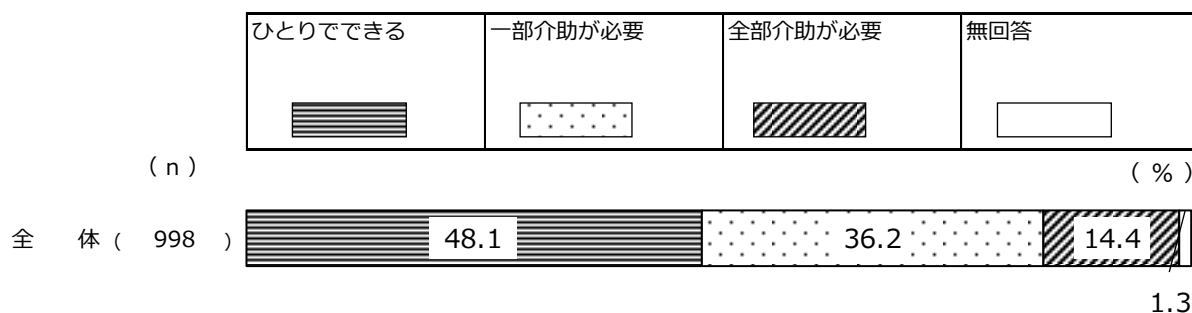
介助が必要な動作な動作のうち「お風呂に入る」について、全体でみると「ひとりでできる」は48.1%で、「一部介助が必要」は36.2%、「全部介助が必要」は14.4%であった。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「ひとりでできる」の割合が高くなる傾向がみられた。

障害種別にみると、『重度心身障害』は他の種別よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

【単純集計】





## 【クロス集計】

		回 答 数	ひ と り で で き る	一 部 介 助 が 必 要	全 部 介 助 が 必 要	無 回 答
全体		998	48.1	36.2	14.4	1.3
本人の 年齢 別	0～2歳	24	0.0	50.0	45.8	4.2
	3～5歳	247	14.6	60.7	24.3	0.4
	6～8歳	195	49.2	35.9	12.3	2.6
	9～11歳	189	55.6	34.9	8.5	1.1
	12～14歳	161	65.2	22.4	12.4	0.0
	15～17歳	174	75.9	14.9	7.5	1.7
地域 別	町田地域	227	41.9	41.4	15.0	1.8
	忠生地域	182	51.6	34.6	12.1	1.6
	南地域	297	46.5	36.4	16.5	0.7
	鶴川地域	157	51.0	33.8	14.6	0.6
	堺地域	128	53.1	32.8	11.7	2.3
障害 種別	身体	127	39.4	19.7	39.4	1.6
	知的	422	41.0	35.3	22.0	1.7
	精神	64	67.2	29.7	1.6	1.6
	自立	31	67.7	22.6	6.5	3.2
	難病	17	29.4	17.6	47.1	5.9
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0
	発達	672	48.7	36.6	13.7	1.0
	医療的ケアを受けている	73	42.5	24.7	28.8	4.1
	視覚障害	9	33.3	0.0	66.7	0.0
	聴覚障害	35	71.4	5.7	22.9	0.0
	重度心身障害	126	7.1	37.3	54.0	1.6
世帯 構成 別	ひとり親世帯	120	54.2	31.7	12.5	1.7
	核家族世帯	765	46.3	37.6	14.8	1.3
	三世帯世帯	98	53.1	30.6	15.3	1.0
サー ビス	利用している	839	41.1	41.0	16.8	1.1
	利用していない	147	86.4	10.2	1.4	2.0
自立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	77.6	20.7	0.2	1.5
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	15.3	66.4	17.2	1.1
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	0.0	1.2	97.5	1.2

⑦ 介助が必要な動作（寝返り、起き上がりをする）

【改めて全ての方にお伺いいたします】

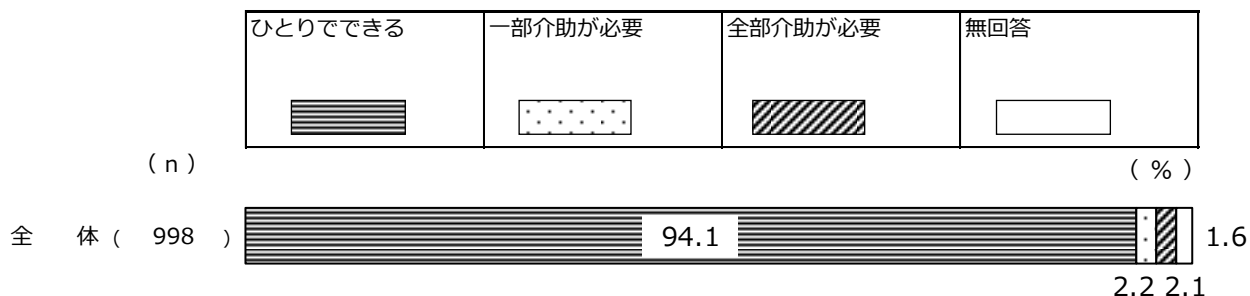
問 14. お子さまは以下の動作について介助が必要ですか。①～⑩の動作について、それぞれのあてはまる状態をお選びください。 【○はそれぞれに一つずつ】

介助が必要な動作な動作のうち「寝返り、起き上がりをする」について、全体でみると「ひとりでできる」は 94.1%で、「一部介助が必要」は 2.2%、「全部介助が必要」は 2.1%であった。

障害種別にみると、『身体』『医療的ケアを受けている』『重度心身障害』は他の種別よりも「全部介助が必要」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が 7～10 個は他の状況よりも「ひとりでできる」の割合が低かった

【単純集計】



## 【クロス集計】

		回 答 数	ひ と り で で き る	一 部 介 助 が 必 要	全 部 介 助 が 必 要	無 回 答
全体		998	94.1	2.2	2.1	1.6
本人の 年齢 別	0～2歳	24	87.5	0.0	12.5	0.0
	3～5歳	247	93.1	2.4	3.2	1.2
	6～8歳	195	96.4	1.0	2.1	0.5
	9～11歳	189	93.1	1.6	2.1	3.2
	12～14歳	161	95.7	2.5	1.2	0.6
	15～17歳	174	93.7	4.0	0.0	2.3
地域 別	町田地域	227	92.5	3.1	3.5	0.9
	忠生地域	182	94.5	2.2	0.5	2.7
	南地域	297	93.9	2.4	2.7	1.0
	鶴川地域	157	94.9	1.3	1.9	1.9
	堺地域	128	95.3	1.6	0.8	2.3
障害 種別	身体	127	77.2	9.4	12.6	0.8
	知的	422	92.4	2.8	3.6	1.2
	精神	64	89.1	4.7	0.0	6.3
	自立	31	87.1	6.5	0.0	6.5
	難病	17	76.5	0.0	17.6	5.9
	高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	95.2	1.6	1.6	1.5
	医療的ケアを受けている	73	76.7	4.1	16.4	2.7
	視覚障害	9	44.4	33.3	22.2	0.0
	聴覚障害	35	88.6	11.4	0.0	0.0
	重度心身障害	126	77.0	9.5	12.7	0.8
世帯 構成 別	ひとり親世帯	120	93.3	2.5	1.7	2.5
	核家族世帯	765	94.4	2.2	2.1	1.3
	三世帯世帯	98	91.8	2.0	3.1	3.1
サ ー ビ ス	利用している	839	93.8	2.4	2.5	1.3
	利用していない	147	95.9	1.4	0.0	2.7
自 立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	97.4	0.6	0.0	2.0
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	96.8	2.2	0.3	0.8
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	59.3	13.6	24.7	2.5

⑧ 介助が必要な動作（身だしなみを整える）

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 14. お子さまは以下の動作について介助が必要ですか。①～⑩の動作について、それぞれのあてはまる状態をお選びください。【○はそれぞれに一つずつ】

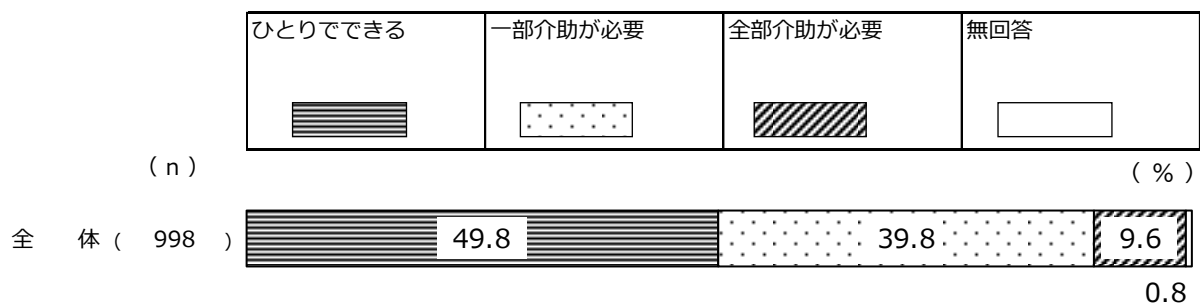
介助が必要な動作な動作のうち「身だしなみを整える」について、全体でみると「ひとりでできる」は49.8%で、「一部介助が必要」は39.8%、「全部介助が必要」は9.6%であった。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「ひとりでできる」の割合が高くなる傾向がみられた。

障害種別にみると、『重度心身障害』は他の種別よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

		回 答 数	ひ と り で で き る	一 部 介 助 が 必 要	全 部 介 助 が 必 要	無 回 答
全体		998	49.8	39.8	9.6	0.8
本人の 年齢 別	0～2歳	24	0.0	54.2	45.8	0.0
	3～5歳	247	34.4	50.2	15.0	0.4
	6～8歳	195	52.3	41.0	6.2	0.5
	9～11歳	189	51.9	39.7	6.9	1.6
	12～14歳	161	57.8	31.7	9.9	0.6
	15～17歳	174	66.1	29.3	4.0	0.6
地域 別	町田地域	227	45.8	43.2	10.6	0.4
	忠生地域	182	52.2	39.6	7.7	0.5
	南地域	297	51.2	37.4	10.8	0.7
	鶴川地域	157	50.3	38.2	10.8	0.6
	堺地域	128	50.0	41.4	6.3	2.3
障害 種 別	身体	127	42.5	22.0	34.6	0.8
	知的	422	37.7	45.5	15.9	0.9
	精神	64	57.8	37.5	3.1	1.6
	自立	31	64.5	25.8	9.7	0.0
	難病	17	29.4	29.4	35.3	5.9
	高次脳機能障害	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	発達	672	50.3	40.6	8.5	0.6
	医療的ケアを受けている	73	43.8	21.9	31.5	2.7
	視覚障害	9	33.3	11.1	55.6	0.0
	聴覚障害	35	68.6	8.6	22.9	0.0
	重度心身障害	126	8.7	46.8	43.7	0.8
世帯 構 成 別	ひとり親世帯	120	54.2	35.0	10.0	0.8
	核家族世帯	765	49.0	40.8	9.5	0.7
	三世帯世帯	98	50.0	37.8	10.2	2.0
サ ー ビ ス	利用している	839	44.2	44.0	11.2	0.6
	利用していない	147	81.6	16.3	0.7	1.4
自 立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	75.2	23.5	0.0	1.3
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	23.4	71.2	5.1	0.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	0.0	4.9	95.1	0.0

⑨ 介助が必要な動作（外出をする）

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 14. お子さまは以下の動作について介助が必要ですか。①～⑩の動作について、それぞれのあてはまる状態をお選びください。【○はそれぞれに一つずつ】

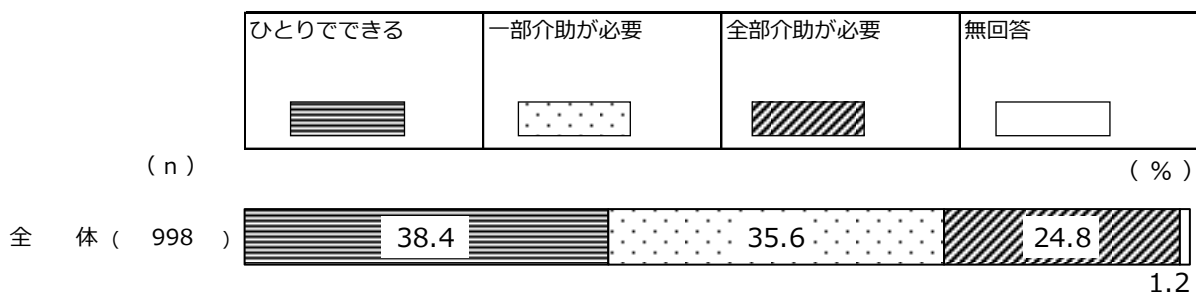
介助が必要な動作な動作のうち「外出をする」について、全体で見ると「ひとりでできる」は38.4%で、「一部介助が必要」は35.6%、「全部介助が必要」は24.8%であった。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「ひとりでできる」の割合が高くなる傾向がみられた。

障害種別にみると、『重度心身障害』は他の種別よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

		回 答 数	ひ と り で で き る	一 部 介 助 が 必 要	全 部 介 助 が 必 要	無 回 答
全体		998	38.4	35.6	24.8	1.2 (%)
本人の 年齢 別	0～2歳	24	0.0	50.0	50.0	0.0
	3～5歳	247	18.6	43.3	36.4	1.6
	6～8歳	195	40.5	41.5	16.9	1.0
	9～11歳	189	37.0	36.5	24.9	1.6
	12～14歳	161	48.4	26.1	24.8	0.6
	15～17歳	174	59.8	24.7	14.9	0.6
地域 別	町田地域	227	33.5	39.6	25.6	1.3
	忠生地域	182	41.8	35.7	22.0	0.5
	南地域	297	37.0	34.7	26.9	1.3
	鶴川地域	157	40.8	33.1	25.5	0.6
	堺地域	128	42.2	32.8	22.7	2.3
障害 種別	身体	127	33.9	18.9	46.5	0.8
	知的	422	25.8	35.5	38.2	0.5
	精神	64	42.2	37.5	15.6	4.7
	自立	31	45.2	38.7	16.1	0.0
	難病	17	29.4	29.4	35.3	5.9
	高次脳機能障害	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	発達	672	39.0	36.9	23.2	0.9
	医療的ケアを受けている	73	30.1	27.4	39.7	2.7
	視覚障害	9	11.1	22.2	66.7	0.0
	聴覚障害	35	62.9	14.3	22.9	0.0
	重度心身障害	126	4.0	22.2	73.0	0.8
世帯 構成 別	ひとり親世帯	120	41.7	32.5	24.2	1.7
	核家族世帯	765	37.8	35.9	25.4	0.9
	三世帯世帯	98	37.8	36.7	22.4	3.1
サ ー ビ ス	利用している	839	32.7	37.4	29.0	1.0
	利用していない	147	70.7	24.5	2.7	2.0
自 立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	65.9	31.0	1.3	1.8
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	6.5	49.2	43.8	0.5
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	0.0	3.7	96.3	0.0

⑩ 介助が必要な動作（家族以外の人と意思疎通をする）

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 14. お子さまは以下の動作について介助が必要ですか。①～⑩の動作について、それぞれのあてはまる状態をお選びください。 【○はそれぞれに一つずつ】

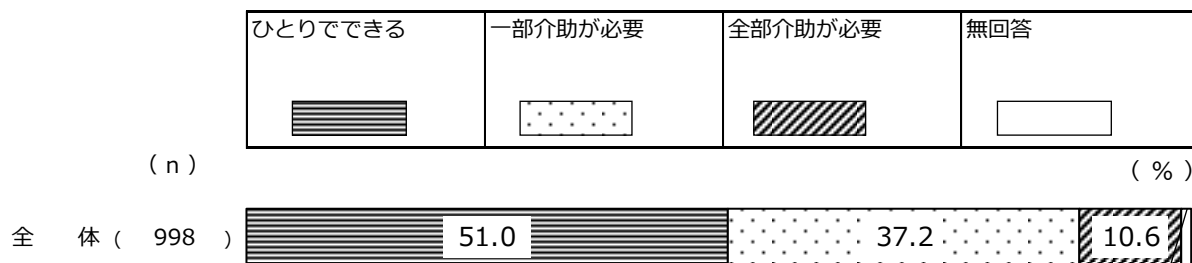
介助が必要な動作な動作のうち「外出をする」について、全体でみると「ひとりでできる」は51.0%で、「一部介助が必要」は37.2%、「全部介助が必要」は10.6%であった。

年齢別にみると、『15～17歳』は他の年齢よりも「ひとりでできる」の割合が高かった。

障害種別にみると、『重度心身障害』は他の種別よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

【単純集計】





## 【クロス集計】

		回 答 数	ひ と り で で き る	一 部 介 助 が 必 要	全 部 介 助 が 必 要	無 回 答
全体		998	51.0	37.2	10.6	1.2 (%)
本人の 年齢 別	0～2歳	24	12.5	54.2	33.3	0.0
	3～5歳	247	41.7	45.3	13.0	0.0
	6～8歳	195	58.5	34.4	7.2	0.0
	9～11歳	189	45.5	39.2	11.1	4.2
	12～14歳	161	52.8	32.9	13.7	0.6
	15～17歳	174	64.9	28.7	5.2	1.1
地域 別	町田地域	227	50.2	35.7	13.2	0.9
	忠生地域	182	50.0	40.1	8.2	1.6
	南地域	297	51.5	34.3	13.5	0.7
	鶴川地域	157	51.6	39.5	7.6	1.3
	堺地域	128	51.6	39.8	6.3	2.3
障害 種 別	身体	127	49.6	19.7	29.9	0.8
	知的	422	33.2	45.7	19.9	1.2
	精神	64	60.9	32.8	3.1	3.1
	自立	31	54.8	32.3	9.7	3.2
	難病	17	29.4	29.4	35.3	5.9
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0
	発達	672	50.6	38.5	9.5	1.3
	医療的ケアを受けている	73	43.8	31.5	23.3	1.4
	視覚障害	9	33.3	11.1	55.6	0.0
	聴覚障害	35	54.3	25.7	20.0	0.0
	重度心身障害	126	15.1	32.5	50.8	1.6
世帯 構 成 別	ひとり親世帯	120	56.7	35.0	7.5	0.8
	核家族世帯	765	50.1	37.3	11.5	1.2
	三世帯世帯	98	50.0	39.8	8.2	2.0
サ ー ビ ス	利用している	839	46.5	40.0	12.4	1.1
	利用していない	147	76.2	21.8	0.7	1.4
自 立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	73.9	24.4	0.0	1.7
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	28.0	60.5	10.8	0.8
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	2.5	16.0	81.5	0.0

⑪ 介助が必要な動作（お小遣いの管理をする）

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 14. お子さまは以下の動作について介助が必要ですか。①～⑩の動作について、それぞれのあてはまる状態をお選びください。【○はそれぞれに一つずつ】

介助が必要な動作な動作のうち「お小遣いの管理をする」について、全体で見ると「ひとりでできる」は20.2%で、「一部介助が必要」は25.6%、「全部介助が必要」は52.5%であった。

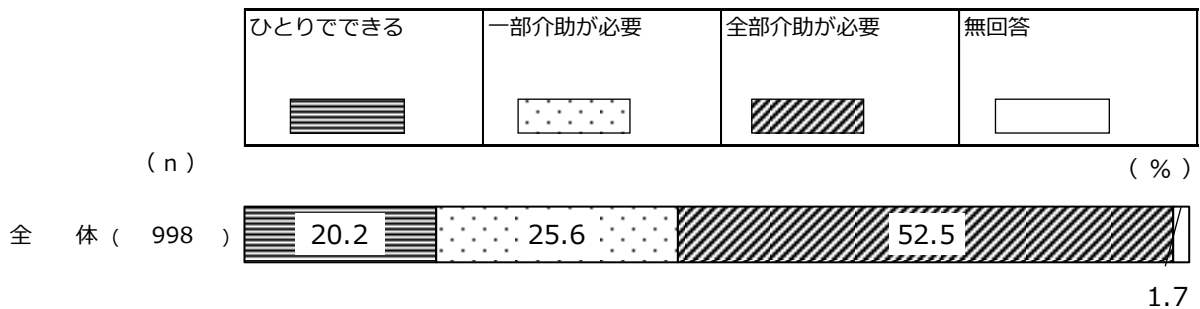
年齢別にみると、『6～8歳』から『15～17歳』にかけて「一部介助が必要」の割合が同程度であった。

障害種別にみると、『聴覚障害』は他の種別よりも「ひとりでできる」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が0～2個は他の状況よりも「全部介助が必要」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

		回 答 数	ひ と り で で き る	一 部 介 助 が 必 要	全 部 介 助 が 必 要	無 回 答
全体		998	20.2	25.6	52.5	1.7 (%)
本人の 年齢 別	0～2歳	24	0.0	0.0	100.0	0.0
	3～5歳	247	3.2	10.9	83.0	2.8
	6～8歳	195	13.3	33.8	50.8	2.1
	9～11歳	189	16.4	35.4	46.0	2.1
	12～14歳	161	34.8	26.7	37.9	0.6
	15～17歳	174	44.8	28.2	26.4	0.6
地域 別	町田地域	227	17.6	25.1	54.6	2.6
	忠生地域	182	20.3	29.1	49.5	1.1
	南地域	297	19.2	23.9	55.6	1.3
	鶴川地域	157	25.5	26.8	46.5	1.3
	堺地域	128	19.5	25.0	53.1	2.3
障害 種 別	身体	127	30.7	12.6	55.1	1.6
	知的	422	12.8	21.8	63.7	1.7
	精神	64	34.4	40.6	25.0	0.0
	自立	31	38.7	32.3	29.0	0.0
	難病	17	11.8	11.8	70.6	5.9
	高次脳機能障害	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	発達	672	18.2	29.3	51.0	1.5
	医療的ケアを受けている	73	19.2	23.3	54.8	2.7
	視覚障害	9	11.1	22.2	66.7	0.0
	聴覚障害	35	54.3	14.3	31.4	0.0
	重度心身障害	126	4.0	4.0	90.5	1.6
世帯 構 成 別	ひとり親世帯	120	23.3	32.5	41.7	2.5
	核家族世帯	765	20.1	23.9	54.5	1.4
	三世帯世帯	98	17.3	27.6	52.0	3.1
サ ー ビ ス	利用している	839	13.7	24.7	60.0	1.7
	利用していない	147	56.5	30.6	11.6	1.4
自 立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	36.7	46.1	14.5	2.8
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	0.5	1.1	97.8	0.5
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	0.0	0.0	100.0	0.0

⑫ 介助が必要な動作（薬の管理をする）

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 14. お子さまは以下の動作について介助が必要ですか。①～⑩の動作について、それぞれのあてはまる状態をお選びください。【○はそれぞれに一つずつ】

介助が必要な動作のうち「薬の管理をする」について、全体でみると「ひとりでできる」は15.2%で、「一部介助が必要」は27.7%、「全部介助が必要」は55.5%であった。

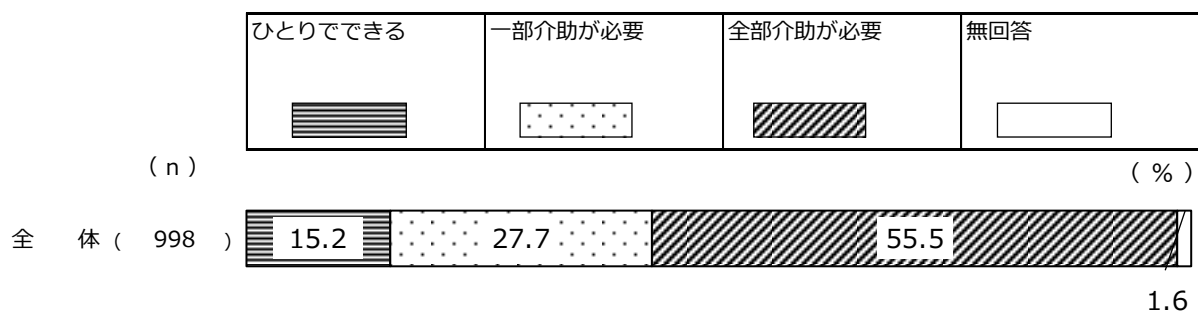
年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「ひとりでできる」の割合が高くなる傾向がみられた。

障害種別にみると、『聴覚障害』は他の種別よりも「ひとりでできる」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が 0～2 個は他の状況よりも「全部介助が必要」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

		回 答 数	ひ と り で で き る	一 部 介 助 が 必 要	全 部 介 助 が 必 要	無 回 答
全体		998	15.2	27.7	55.5	1.6
本人の 年齢 別	0～2歳	24	0.0	0.0	100.0	0.0
	3～5歳	247	2.4	7.7	87.9	2.0
	6～8歳	195	8.2	32.8	57.4	1.5
	9～11歳	189	11.1	38.6	48.7	1.6
	12～14歳	161	24.8	35.4	37.3	2.5
	15～17歳	174	38.5	34.5	26.4	0.6
地域 別	町田地域	227	11.0	26.0	60.4	2.6
	忠生地域	182	14.8	34.1	50.5	0.5
	南地域	297	16.8	23.2	58.9	1.0
	鶴川地域	157	15.9	33.8	49.0	1.3
	堺地域	128	17.2	25.0	54.7	3.1
障害 種別	身体	127	22.0	19.7	57.5	0.8
	知的	422	11.4	22.5	64.7	1.4
	精神	64	23.4	37.5	39.1	0.0
	自立	31	22.6	32.3	41.9	3.2
	難病	17	5.9	17.6	76.5	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	50.0	50.0	0.0
	発達	672	13.2	30.4	55.2	1.2
	医療的ケアを受けている	73	12.3	26.0	60.3	1.4
	視覚障害	9	11.1	22.2	66.7	0.0
	聴覚障害	35	42.9	28.6	28.6	0.0
	重度心身障害	126	4.0	4.8	90.5	0.8
世帯 構成 別	ひとり親世帯	120	17.5	33.3	47.5	1.7
	核家族世帯	765	14.8	26.9	56.7	1.6
	三世帯世帯	98	16.3	24.5	57.1	2.0
サー ビス	利用している	839	9.9	25.6	63.1	1.4
	利用していない	147	44.9	40.1	13.6	1.4
自立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	27.5	49.4	20.4	2.8
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	0.5	1.9	97.3	0.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	0.0	0.0	100.0	0.0

⑬ 介助が必要な動作（災害時の避難をする）

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 14. お子さまは以下の動作について介助が必要ですか。①～⑩の動作について、それぞれのあてはまる状態をお選びください。【○はそれぞれに一つずつ】

介助が必要な動作のうち「災害時の避難をする」について、全体で見ると「ひとりでできる」は17.1%で、「一部介助が必要」は31.6%、「全部介助が必要」は49.1%であった。

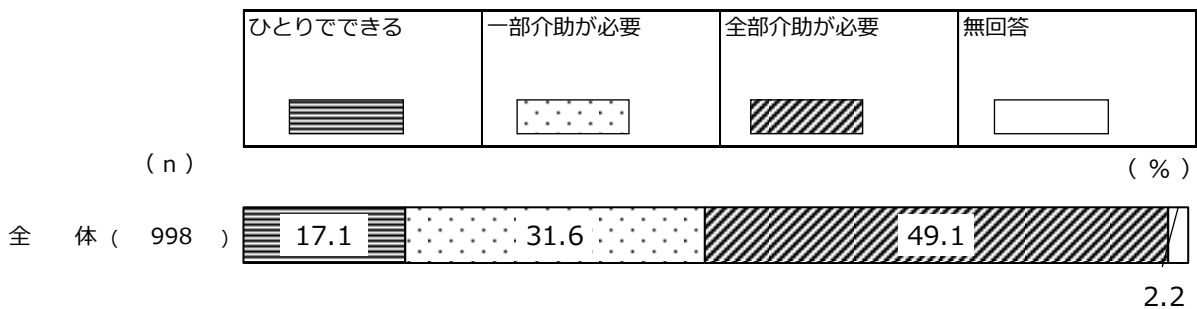
年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「ひとりでできる」の割合が高くなる傾向がみられた。

障害種別にみると、『自立』『聴覚障害』は他の種別よりも「ひとりでできる」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「ひとりでできる」の割合が低かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が0～2個は他の状況よりも「全部介助が必要」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

		回 答 数	ひ と り で で き る	一 部 介 助 が 必 要	全 部 介 助 が 必 要	無 回 答
全体		998	17.1	31.6	49.1	2.2 (%)
本人の 年齢 別	0～2歳	24	0.0	4.2	91.7	4.2
	3～5歳	247	5.3	15.8	77.7	1.2
	6～8歳	195	9.2	44.6	43.1	3.1
	9～11歳	189	13.8	41.3	42.3	2.6
	12～14歳	161	26.7	28.6	42.2	2.5
	15～17歳	174	39.1	35.6	24.1	1.1
地域 別	町田地域	227	14.5	28.2	55.1	2.2
	忠生地域	182	18.7	33.5	45.6	2.2
	南地域	297	16.2	31.6	50.5	1.7
	鶴川地域	157	22.3	31.8	43.9	1.9
	堺地域	128	14.8	33.6	47.7	3.9
障害 種 別	身体	127	22.0	22.0	53.5	2.4
	知的	422	9.7	26.5	60.9	2.8
	精神	64	29.7	35.9	31.3	3.1
	自立	31	35.5	32.3	29.0	3.2
	難病	17	5.9	41.2	52.9	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	50.0	50.0	0.0
	発達	672	16.1	35.0	47.0	1.9
	医療的ケアを受けている	73	15.1	30.1	52.1	2.7
	視覚障害	9	0.0	22.2	77.8	0.0
	聴覚障害	35	40.0	28.6	31.4	0.0
	重度心身障害	126	1.6	5.6	90.5	2.4
世帯 構 成 別	ひとり親世帯	120	21.7	40.0	36.7	1.7
	核家族世帯	765	16.3	29.8	51.5	2.4
	三世帯世帯	98	16.3	35.7	45.9	2.0
サ ー ビ ス	利用している	839	11.6	30.9	55.5	2.0
	利用していない	147	48.3	36.1	12.9	2.7
自 立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	31.2	56.9	9.0	2.9
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	0.3	1.3	97.0	1.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	0.0	0.0	98.8	1.2

⑭ 子育てで困っていること

問 15. 子育てをしている中で、困っていることがあれば、あてはまるものを全てお選びください。  
【あてはまるもの全てに○】

子育てで困っていることについて、全体で見ると「家族以外に隣近所で子どもを頼める人がいない」が 42.7%と最も高く、次いで「保護者が働けない」が 25.7%、「身近な場所に、子どもの病院や福祉サービス施設がない」が 25.6%であった。

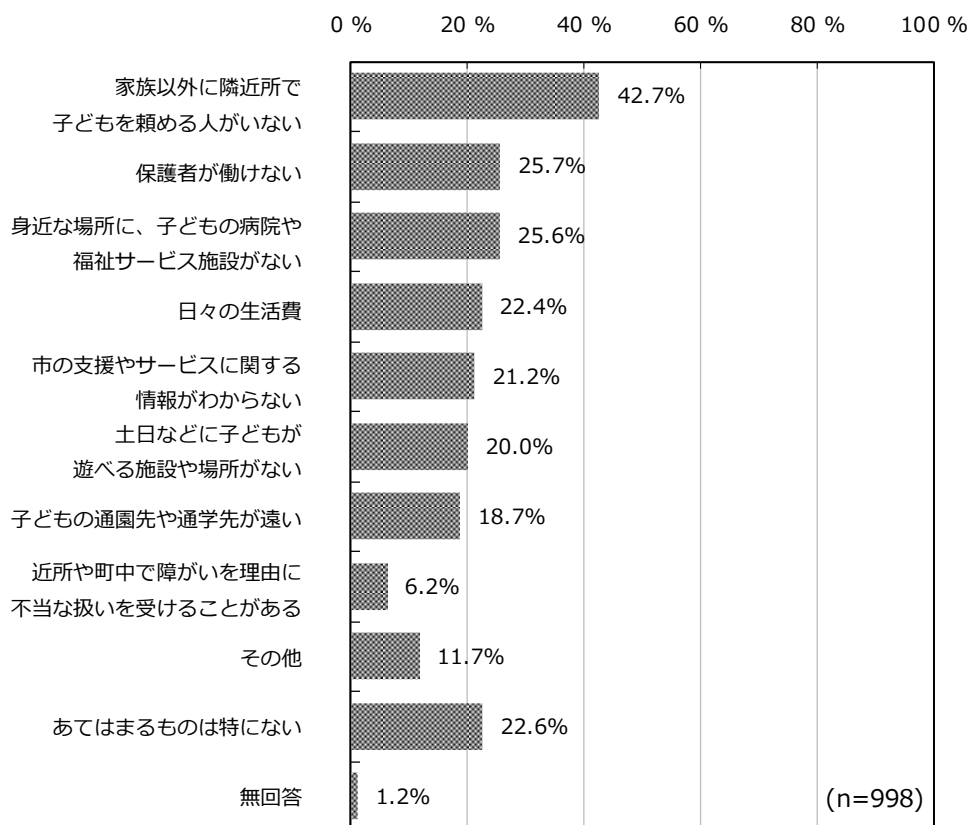
年齢別にみると、『15～17 歳』は他の年齢よりも「家族以外に隣近所で子どもを頼める人がいない」の割合が低かった。

障害種別にみると、『重度心身障害』は他の種別よりも「家族以外に隣近所で子どもを頼める人がいない」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「家族以外に隣近所で子どもを頼める人がいない」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど「家族以外に隣近所で子どもを頼める人がいない」の割合が高くなる傾向がみられた。

【単純集計】





【クロス集計】

	回答数	ない	家族以外に隣近所で子どもを頼める人がい	保護者が働けない	身近な場所に、子どもの病院や福祉サービ	ス施設がない	身	日々の生活費	ない	市の支援やサービスに関する情報がわから	い	土日などに子どもが遊べる施設や場所がな	子どもの通園先や通学先が遠い	受けることがある	近所や町中で障がい	その他	あてはまるものは特	無回答
全体	998	42.7	25.7	25.6	22.4	21.2	20.0	18.7	6.2	11.7	22.6	1.2	(%)					
本人の年齢別	0～2歳	24	62.5	41.7	16.7	29.2	16.7	12.5	4.2	12.5	25.0	0.0						
	3～5歳	247	42.5	23.9	23.1	21.5	23.5	18.2	3.2	12.1	25.5	0.4						
	6～8歳	195	43.1	30.8	27.2	22.6	20.0	22.1	7.2	9.2	21.0	0.5						
	9～11歳	189	52.4	27.5	32.3	23.8	23.8	22.2	6.3	13.8	14.8	3.2						
	12～14歳	161	43.5	24.2	24.8	25.5	19.9	23.0	9.3	16.1	21.1	0.6						
	15～17歳	174	28.7	20.1	22.4	19.0	17.2	16.7	6.9	8.0	29.9	1.7						
地域別	町田地域	227	45.4	27.3	25.6	21.6	22.0	16.7	5.7	11.5	22.0	2.2						
	忠生地域	182	41.8	23.6	19.8	29.1	14.8	17.6	6.0	14.3	26.9	1.1						
	南地域	297	42.8	30.6	24.9	21.2	22.2	23.2	6.1	11.8	19.9	1.3						
	鶴川地域	157	44.6	22.9	22.9	23.6	22.9	17.2	8.3	10.2	21.7	0.6						
	堺地域	128	37.5	18.0	39.8	16.4	23.4	25.0	4.7	10.9	25.0	0.0						
障害種別	身体	127	41.7	40.2	25.2	23.6	18.9	22.8	1.6	10.2	19.7	3.1						
	知的	422	48.1	32.5	29.9	25.8	20.4	26.1	9.5	13.3	17.5	0.9						
	精神	64	42.2	29.7	26.6	42.2	28.1	20.3	10.9	4.7	17.2	1.6						
	自立	31	35.5	32.3	22.6	51.6	16.1	19.4	9.7	12.9	16.1	3.2						
	難病	17	52.9	29.4	35.3	41.2	11.8	35.3	5.9	5.9	0.0	5.9						
	高次脳機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0						
	発達	672	45.7	25.9	27.1	24.0	21.0	20.7	7.1	13.1	19.3	1.3						
	医療的ケアを受けている	73	53.4	54.8	31.5	37.0	26.0	34.2	5.5	19.2	11.0	2.7						
	視覚障害	9	33.3	66.7	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	44.4	11.1	0.0						
	聴覚障害	35	34.3	34.3	11.4	20.0	14.3	17.1	2.9	8.6	28.6	2.9						
重度心身障害	126	64.3	52.4	37.3	27.8	14.3	35.7	8.7	16.7	4.0	0.8							
世帯構成別	ひとり親世帯	120	46.7	25.8	28.3	34.2	20.8	25.0	7.5	18.3	16.7	1.7						
	核家族世帯	765	42.4	25.4	25.1	19.5	21.3	18.4	5.9	11.0	23.5	0.8						
	三世帯世帯	98	38.8	28.6	26.5	29.6	22.4	24.5	5.1	10.2	24.5	4.1						
サービス	利用している	839	46.0	28.1	26.7	23.8	21.3	21.1	6.6	12.8	20.6	1.2						
	利用していない	147	25.2	12.2	19.7	15.0	19.0	13.6	3.4	6.1	34.7	0.7						
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	31.9	15.0	18.7	18.5	20.7	16.1	5.0	9.5	30.3	1.7						
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	54.3	34.7	34.9	23.9	21.8	22.3	8.1	13.2	15.6	0.8						
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	61.7	55.6	28.4	42.0	22.2	35.8	6.2	19.8	3.7	0.0						

⑮ お子さまの意見の尊重について

問 16. あなたは、お子さまのことについて決めるとき、お子さま自身の意見を尊重していますか。 【○は一つだけ】

子どもの意見を尊重しているかについて、全体で見ると「常に子どもの意見を尊重している」は18.9%で、「内容によって子どもの意見を尊重している」が73.6%、「あまり尊重していない」が2.6%であった。

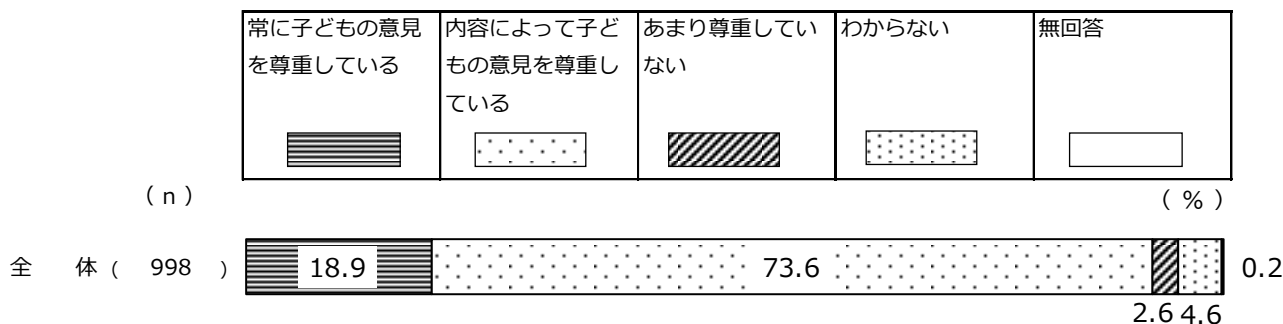
年齢別にみると、『15～17 歳』は他の年齢よりも「常に子どもの意見を尊重している」の割合が高かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は他の世帯よりも「常に子どもの意見を尊重している」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「常に子どもの意見を尊重している」の割合が低かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が 0～2 個の場合、他の自立状況よりも「常に子どもの意見を尊重している」の割合が高かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	常に子どもの意見を尊重している	内容によって子どもの意見を尊重している	あまり尊重していない	わからない	無回答	
全体	998	18.9	73.6	2.6	4.6	0.2 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	16.7	54.2	8.3	20.8	0.0
	3～5歳	247	14.2	76.5	3.6	5.3	0.4
	6～8歳	195	20.0	75.9	1.0	3.1	0.0
	9～11歳	189	14.8	75.1	3.7	5.8	0.5
	12～14歳	161	22.4	70.8	1.2	5.6	0.0
	15～17歳	174	25.9	71.3	1.7	1.1	0.0
地域別	町田地域	227	18.9	68.3	4.4	7.9	0.4
	忠生地域	182	22.0	72.5	2.7	2.7	0.0
	南地域	297	18.2	75.8	2.0	3.7	0.3
	鶴川地域	157	19.1	74.5	1.9	4.5	0.0
	堺地域	128	15.6	79.7	1.6	3.1	0.0
障害種別	身体	127	19.7	63.8	1.6	15.0	0.0
	知的	422	17.3	71.8	3.3	7.6	0.0
	精神	64	26.6	68.8	4.7	0.0	0.0
	自立	31	29.0	64.5	6.5	0.0	0.0
	難病	17	17.6	70.6	0.0	11.8	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	18.2	74.6	3.0	4.2	0.1
	医療的ケアを受けている	73	20.5	61.6	1.4	16.4	0.0
	視覚障害	9	0.0	55.6	0.0	44.4	0.0
	聴覚障害	35	20.0	62.9	0.0	17.1	0.0
	重度心身障害	126	14.3	61.1	2.4	22.2	0.0
世帯構成別	ひとり親世帯	120	22.5	70.8	1.7	5.0	0.0
	核家族世帯	765	19.1	73.2	2.9	4.7	0.1
	三世帯世帯	98	15.3	78.6	2.0	3.1	1.0
サービス	利用している	839	18.1	74.0	2.5	5.2	0.1
	利用していない	147	23.8	72.8	2.7	0.7	0.0
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	23.9	73.8	1.8	0.4	0.2
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	12.9	79.3	3.2	4.3	0.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	13.6	46.9	4.9	34.6	0.0

### 3. 子どもの通園・通学の状況について

#### ① 子どもの通園・通学先

問 17. お子さまが現在、通園・通学（主に在籍・所属）しているところはどこですか。

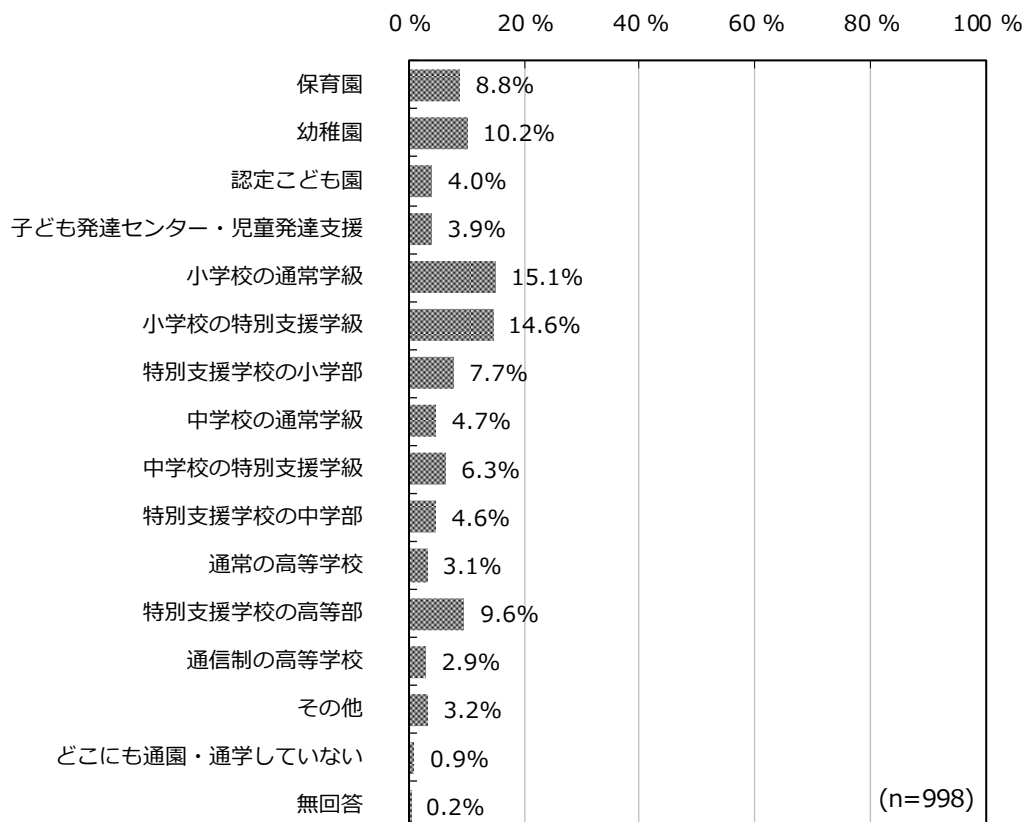
【○は一つだけ】

子どもの通園・通学先について、全体でみると「小学校の通常学級」が 15.1%と最も高く、次いで「小学校の特別支援学級」が 14.6%であった。

地域別にみると、『南地域』は他の地域よりも「小学校の通常学級」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「小学校の通常学級」「小学校の特別支援学級」の割合が高かった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	保育園	幼稚園	認定こども園	子ども発達センター・児童発達支援	小学校の通常学級	小学校の特別支援学級	特別支援学校の小学部	中学校の通常学級	中学校の特別支援学級	特別支援学校の中学部	通常の高等学校	特別支援学校の高等部	通信制の高等学校	その他	どこにも通園・通学していない	無回答	
全体	998	8.8	10.2	4.0	3.9	15.1	14.6	7.7	4.7	6.3	4.6	3.1	9.6	2.9	3.2	0.9	0.2	
本人の年齢別	0～2歳	24	25.0	8.3	4.2	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	
	3～5歳	247	32.4	38.9	15.0	11.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	0.4	
	6～8歳	195	0.5	2.1	1.0	0.0	46.7	32.3	14.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	
	9～11歳	189	0.5	0.0	0.0	0.5	29.6	42.3	24.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	
	12～14歳	161	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	1.2	1.2	28.0	37.3	26.7	0.0	0.0	3.7	0.6	0.0	
	15～17歳	174	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.7	1.7	17.8	54.0	16.1	5.7	1.7	0.0
地域別	町田地域	227	9.7	12.8	4.4	4.0	15.0	12.3	8.4	5.7	4.0	6.2	1.8	8.8	4.4	2.2	0.4	0.0
	忠生地域	182	5.5	5.5	4.4	3.8	9.3	19.2	8.2	5.5	7.7	4.9	5.5	13.2	1.6	4.4	1.1	0.0
	南地域	297	9.4	11.4	2.4	5.1	20.5	13.1	6.4	5.4	6.4	2.7	2.0	8.1	3.0	2.4	1.3	0.3
	鶴川地域	157	8.3	9.6	7.6	1.3	12.7	14.0	7.0	3.8	6.4	6.4	5.7	10.2	1.9	3.8	1.3	0.0
	堺地域	128	11.7	10.9	2.3	4.7	13.3	16.4	9.4	1.6	8.6	3.9	1.6	7.8	3.1	4.7	0.0	0.0
障害種別	身体	127	3.1	2.4	2.4	10.2	7.9	9.4	17.3	8.7	3.9	7.1	8.7	11.0	2.4	3.9	1.6	0.0
	知的	422	4.0	1.9	1.4	4.0	1.9	19.2	17.1	0.7	11.4	10.9	1.9	20.4	2.4	2.4	0.2	0.2
	精神	64	0.0	1.6	0.0	0.0	12.5	18.8	1.6	7.8	4.7	0.0	10.9	14.1	14.1	9.4	4.7	0.0
	自立	31	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	12.9	35.5	25.8	12.9	0.0	0.0
	難病	17	0.0	0.0	11.8	17.6	5.9	17.6	11.8	0.0	5.9	5.9	5.9	11.8	0.0	0.0	5.9	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	9.1	9.1	3.9	4.2	17.7	17.1	6.5	4.9	5.4	5.1	1.5	8.9	3.1	3.0	0.6	0.0
	医療的ケアを受けている	73	4.1	4.1	4.1	11.0	9.6	16.4	13.7	6.8	4.1	4.1	2.7	5.5	5.5	5.5	2.7	0.0
	視覚障害	9	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚障害	35	2.9	0.0	0.0	14.3	5.7	5.7	11.4	20.0	2.9	2.9	14.3	14.3	0.0	5.7	0.0	0.0
	重度心身障害	126	2.4	0.8	0.8	10.3	1.6	7.1	29.4	0.8	4.8	22.2	2.4	15.1	0.0	1.6	0.8	0.0
世帯構成別	ひとり親世帯	120	7.5	3.3	1.7	1.7	15.0	15.8	6.7	6.7	6.7	5.8	4.2	11.7	7.5	5.0	0.8	0.0
	核家族世帯	765	9.4	11.4	4.4	4.3	15.0	14.4	7.6	4.8	6.3	4.4	3.0	9.4	1.8	2.7	0.8	0.1
	三世帯世帯	98	5.1	11.2	4.1	4.1	16.3	15.3	8.2	1.0	6.1	5.1	2.0	9.2	5.1	5.1	2.0	0.0
サービス	利用している	839	10.3	11.7	4.6	4.6	16.6	16.4	8.8	3.3	5.0	5.0	1.2	7.4	1.8	2.4	0.6	0.2
	利用していない	147	0.0	2.0	0.7	0.0	6.8	4.8	1.4	12.2	14.3	2.7	13.6	21.8	8.8	8.2	2.7	0.0
自立状況	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	3.9	5.5	1.8	0.7	24.2	15.8	2.2	8.4	9.0	1.1	5.7	10.8	5.3	4.8	0.7	0.0
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	15.1	18.3	7.3	4.6	5.1	16.1	12.4	0.3	3.0	7.3	0.0	8.6	0.0	0.8	0.8	0.5
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	13.6	4.9	3.7	22.2	0.0	0.0	23.5	0.0	3.7	16.0	0.0	6.2	0.0	3.7	2.5	0.0

(%)

## ② 入園・入学時に困ったこと

問 18. お子さまの入園・入学時に困ったことはありましたか。 【あてはまるもの全てに○】

入園・入学時に困ったことについて、全体でみると「何度も同じ説明をした」が 20.5%で最も高く、前回調査よりも増加した。次いで「希望していた通園・通学先に、入園・入学を断られそうになった（断られた）」が 14.4%で、前回調査と同程度だった。

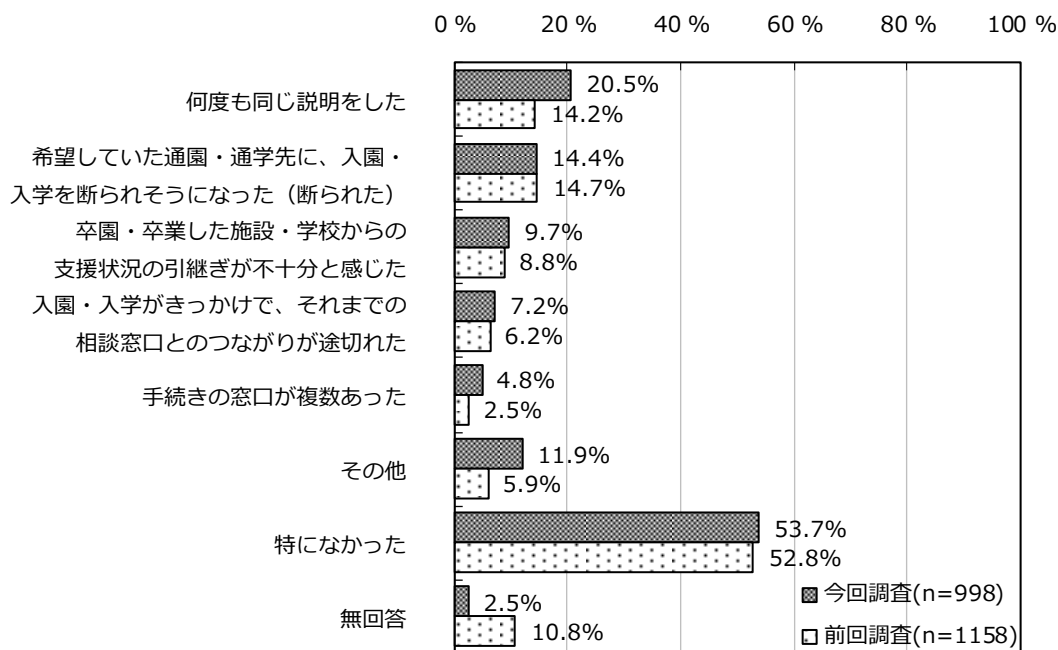
年齢別にみると、『9～11 歳』は他の年齢よりも「何度も同じ説明をした」の割合が高かった。

障害種別にみると、『医療的ケアを受けている』『重度心身障害』は他の種別よりも「何度も同じ説明をした」の割合が高かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は他の世帯よりも「希望していた通園・通学先に、入園・入学を断られそうになった（断られた）」の割合が低かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど「何度も同じ説明をした」の割合が高くなる傾向がみられた。

【前回調査との比較】



/

【クロス集計】

	回答数	何度も同じ説明をした	を断られそうになつた(断られた)	希望していた通園・通学先に、入園・入学の引継ぎが不十分と感じた	卒園・卒業した施設・学校からの支援状況	窓口とのつながりが途切れた	入園・入学がきっかけで、それまでの相談	手続きの窓口が複数あった	その他	特になかつた	無回答
全体	998	20.5	14.4	9.7	7.2	4.8	11.9	53.7	2.5	(%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	4.2	20.8	0.0	0.0	0.0	8.3	45.8	29.2	
	3～5歳	247	10.5	14.2	0.8	2.8	2.4	11.3	70.0	1.2	
	6～8歳	195	23.1	13.3	9.2	12.8	6.2	13.8	48.2	3.1	
	9～11歳	189	30.2	14.8	17.5	13.8	6.9	14.8	38.1	2.1	
	12～14歳	161	26.1	13.7	9.3	5.6	3.7	11.8	52.8	1.2	
	15～17歳	174	19.0	16.1	16.7	2.9	6.3	7.5	55.2	1.1	
地域別	町田地域	227	19.8	16.7	8.8	7.5	4.4	10.6	53.7	1.8	
	忠生地域	182	21.4	12.6	12.1	7.1	6.6	11.5	57.7	0.5	
	南地域	297	18.5	13.8	11.1	6.4	4.4	12.8	51.5	3.7	
	鶴川地域	157	23.6	15.9	8.3	7.0	5.7	15.3	51.0	1.9	
	堺地域	128	21.9	13.3	7.0	9.4	3.1	9.4	55.5	3.9	
障害種別	身体	127	32.3	17.3	7.9	2.4	6.3	9.4	52.8	3.1	
	知的	422	28.0	20.4	10.4	8.1	7.1	12.8	44.3	1.4	
	精神	64	29.7	14.1	20.3	14.1	7.8	14.1	37.5	1.6	
	自立	31	29.0	25.8	16.1	6.5	9.7	9.7	45.2	3.2	
	難病	17	35.3	29.4	11.8	0.0	11.8	17.6	35.3	0.0	
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	
	発達	672	20.7	13.5	11.2	8.2	4.8	13.2	51.5	2.7	
	医療的ケアを受けている	73	38.4	20.5	13.7	4.1	9.6	12.3	41.1	2.7	
	視覚障害	9	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	77.8	0.0	
	聴覚障害	35	25.7	2.9	5.7	0.0	5.7	8.6	68.6	0.0	
重度心身障害	126	38.9	21.4	11.9	6.3	11.9	7.9	39.7	2.4		
世帯構成別	ひとり親世帯	120	23.3	9.2	14.2	6.7	5.0	11.7	55.0	3.3	
	核家族世帯	765	20.1	14.8	8.6	7.5	4.7	12.2	53.3	2.5	
	三世帯世帯	98	18.4	18.4	12.2	6.1	4.1	10.2	55.1	1.0	
サービス	利用している	839	21.2	15.6	9.5	7.6	5.0	12.4	51.5	3.0	
	利用していない	147	15.6	8.8	10.2	4.1	4.1	8.8	67.3	0.0	
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	17.4	9.4	11.9	6.6	4.8	11.6	58.5	2.0	
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	23.1	21.0	7.3	8.1	4.3	12.9	48.1	2.7	
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	29.6	18.5	6.2	7.4	7.4	9.9	46.9	4.9	

③ 通園・通学先の希望

問 19. 現在の通園・通学先の他に希望していた施設はありましたか。 【○は一つだけ】

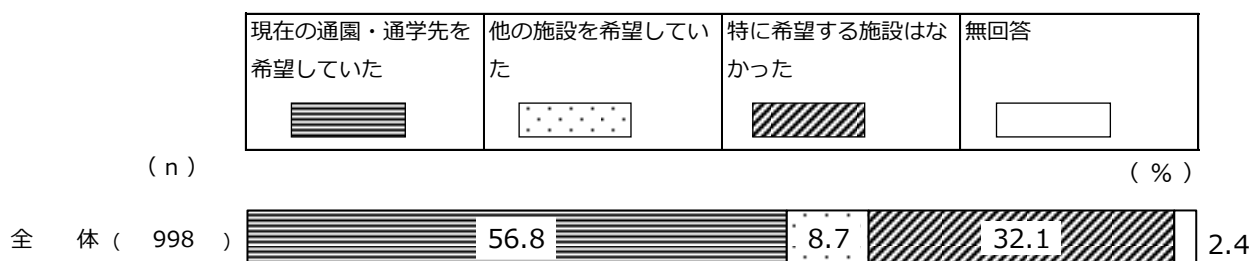
通園・通学先の希望について、全体でみると「現在の通園・通学先を希望していた」が 56.8% と最も高く、次いで「特に希望する施設はなかった」が 32.1%であった。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「特に希望する施設はなかった」の割合が高くなる傾向がみられた。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「現在の通園・通学先を希望していた」の割合が高く、「特に希望する施設はなかった」の割合が低かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど「他の施設を希望していた」の割合が高くなる傾向がみられた。

【単純集計】





## 【クロス集計】

	回答数	現在の通園・通学先を希望していた	他の施設を希望していた	特に希望する施設はなかった	無回答	
全体	998	56.8	8.7	32.1	2.4 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	25.0	20.8	25.0	29.2
	3～5歳	247	59.1	10.9	28.3	1.6
	6～8歳	195	65.6	7.7	26.2	0.5
	9～11歳	189	57.1	7.9	32.3	2.6
	12～14歳	161	52.8	6.8	39.1	1.2
	15～17歳	174	53.4	7.5	36.8	2.3
地域別	町田地域	227	59.0	9.3	30.0	1.8
	忠生地域	182	56.6	7.1	35.7	0.5
	南地域	297	56.2	8.8	31.0	4.0
	鶴川地域	157	58.0	8.9	31.8	1.3
	堺地域	128	54.7	8.6	33.6	3.1
障害種別	身体	127	44.9	11.0	42.5	1.6
	知的	422	56.4	10.0	31.8	1.9
	精神	64	51.6	7.8	37.5	3.1
	自立	31	61.3	3.2	32.3	3.2
	難病	17	29.4	11.8	58.8	0.0
	高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	57.4	9.4	31.3	1.9
	医療的ケアを受けている	73	49.3	13.7	31.5	5.5
	視覚障害	9	33.3	0.0	66.7	0.0
	聴覚障害	35	45.7	14.3	40.0	0.0
	重度心身障害	126	57.1	9.5	31.0	2.4
世帯構成別	ひとり親世帯	120	60.0	5.8	32.5	1.7
	核家族世帯	765	56.3	9.3	31.8	2.6
	三世帯世帯	98	60.2	8.2	30.6	1.0
サービス	利用している	839	59.0	9.2	29.2	2.6
	利用していない	147	46.3	6.1	47.6	0.0
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	56.0	5.9	36.7	1.5
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	59.9	11.6	25.3	3.2
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	48.1	14.8	32.1	4.9

④ 保護者の付き添いの有無

問 20. 現在の通園・通学先では、児童・生徒に保護者の付き添いは必要ですか。【○は一つだけ】

保護者の付き添いの有無について、全体でみると「付き添いの必要はない」が 44.3%と最も高く、次いで「送迎時のみ、付き添いが必要」が 42.9%であった。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「付き添いの必要はない」が高くなる傾向がみられた。

地域別にみると、『鶴川地域』は他の地域よりも「付き添いの必要はない」の割合が高く、「送迎時のみ、付き添いが必要」の割合が低かった。

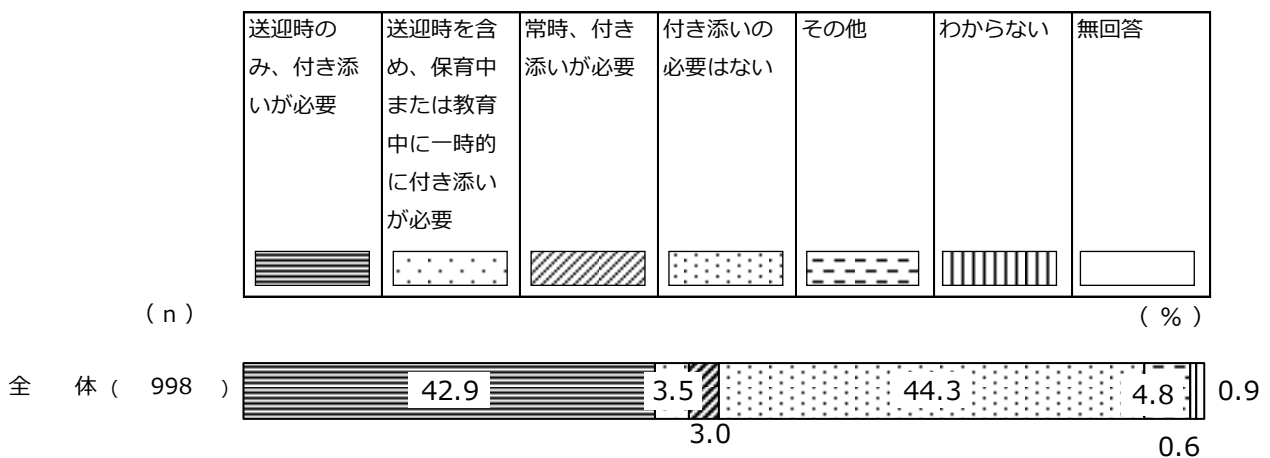
障害種別にみると、『重度心身障害』は他の種別よりも「送迎時のみ、付き添いが必要」の割合が高かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は『核家族世帯』よりも「付き添いの必要はない」の割合が高く、「送迎時のみ、付き添いが必要」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「付き添いの必要はない」の割合が低く、「送迎時のみ、付き添いが必要」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が 0～2 個の場合、他の状況よりも「付き添いの必要はない」の割合が高かった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	送迎時のみ、付き添いが必要	送迎時を含め、保育中または教育中に一時的に付き添いが必要	常時、付き添いが必要	付き添いの必要はない	その他	わからない	無回答
全体	998	42.9	3.5	3.0	44.3	4.8	0.6	0.9
本人の年齢別	0～2歳	24	45.8	0.0	25.0	0.0	4.2	20.8
	3～5歳	247	71.7	5.3	3.6	14.6	3.2	0.8
	6～8歳	195	46.7	2.1	2.6	40.0	7.2	0.5
	9～11歳	189	39.2	4.2	3.2	47.6	4.8	0.5
	12～14歳	161	25.5	4.3	1.2	66.5	2.5	0.0
	15～17歳	174	19.5	1.1	1.1	71.3	6.9	0.0
地域別	町田地域	227	47.6	4.4	4.0	40.5	3.5	0.0
	忠生地域	182	41.2	3.3	3.8	45.1	5.5	0.5
	南地域	297	44.1	3.4	2.4	42.4	5.1	2.0
	鶴川地域	157	38.9	3.2	1.9	49.7	5.1	1.3
	堺地域	128	41.4	2.3	2.3	46.1	5.5	0.8
障害種別	身体	127	37.8	9.4	2.4	42.5	4.7	1.6
	知的	422	47.9	4.0	3.1	40.0	4.5	0.5
	精神	64	31.3	1.6	1.6	57.8	7.8	0.0
	自立	31	22.6	3.2	3.2	58.1	12.9	0.0
	難病	17	29.4	5.9	5.9	41.2	11.8	5.9
	高次脳機能障害	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	発達	672	42.9	3.6	3.0	44.8	4.8	0.6
	医療的ケアを受けている	73	31.5	17.8	5.5	32.9	6.8	2.7
	視覚障害	9	22.2	22.2	0.0	55.6	0.0	0.0
	聴覚障害	35	25.7	5.7	5.7	60.0	2.9	0.0
重度心身障害	126	58.7	6.3	4.8	22.2	6.3	0.8	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	35.8	1.7	2.5	50.0	8.3	0.8
	核家族世帯	765	44.4	4.1	2.6	43.1	4.2	0.5
	三世帯世帯	98	40.8	1.0	6.1	48.0	3.1	1.0
サービス	利用している	839	48.5	3.8	3.2	38.1	4.8	0.6
	利用していない	147	11.6	2.0	1.4	78.9	5.4	0.7
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	23.3	2.4	1.1	67.3	4.8	0.7
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	68.8	4.3	3.8	17.2	4.8	0.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	55.6	7.4	12.3	13.6	4.9	1.2

⑤ 通園・通学先で困っていること

問 21. お子さまの、現在の通園・通学（主に在籍・所属）先の生活で困っていることはありますか。 【あてはまるもの全てに○】

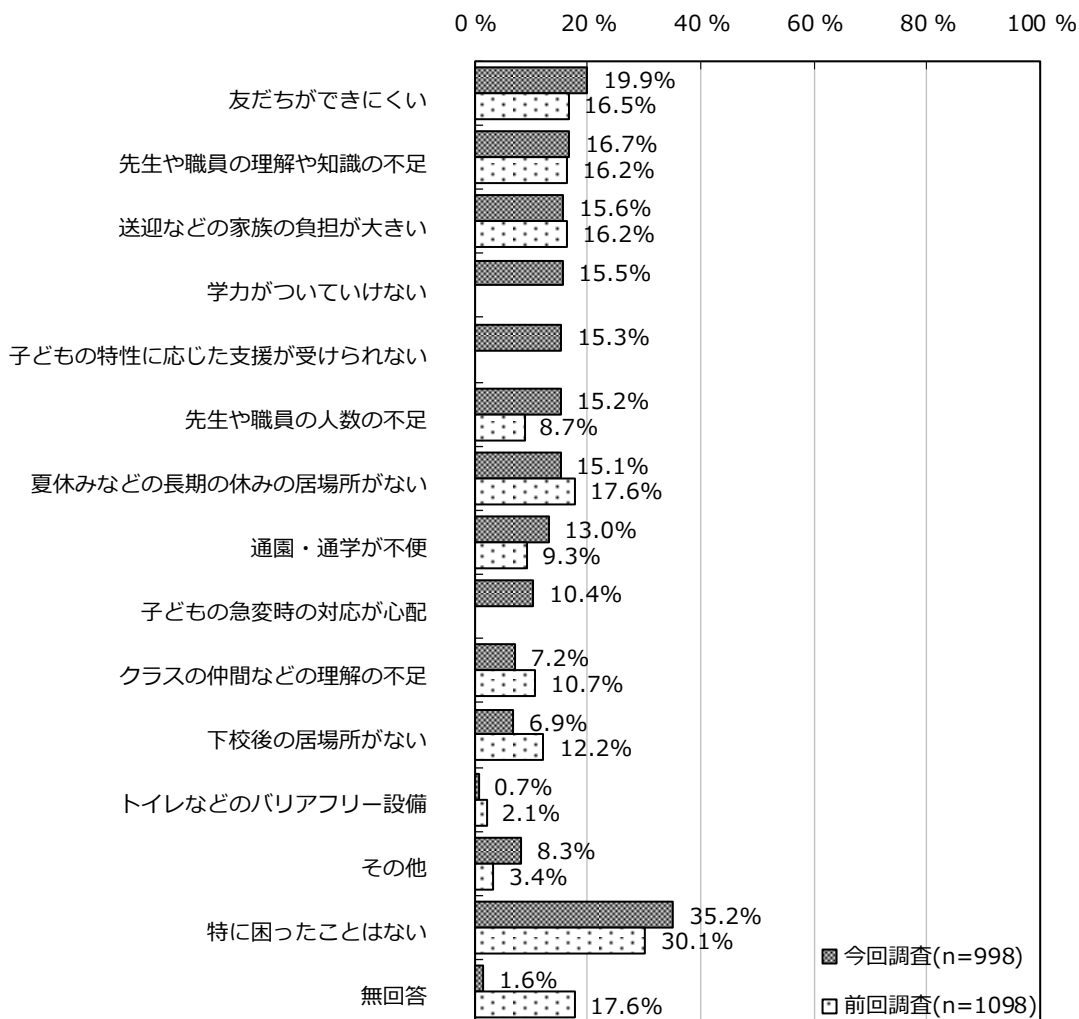
通園・通学先で困っていることについて、全体で見ると「友だちができにくい」が 19.9%で最も高く、前回調査よりも増加した。次いで「先生や職員の理解や知識の不足」が 16.7%で前回調査と同程度であった。

年齢別にみると、『9～11 歳』は他の年齢よりも「先生や職員の理解や知識の不足」の割合が高かった。

障害種別にみると、『精神』『自立』は他の種別よりも「先生や職員の理解や知識の不足」の割合が高かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は他の世帯よりも「友だちができにくい」の割合が高かった。

【前回調査との比較】



※前回調査はどこかに通園・通学している場合回答。今回調査は全員が回答。

※今回調査より「学力がついていけない」「子どもの特性に応じた支援が受けられない」「子どもの急変時の対応が心配」を追加

【クロス集計】

	回答数	友だちが できにくい	先生や 職員の 理解や 知識の 不足	送迎 などの 家族の 負担が 大きい	学力が ついて いけない	子ども の特性 に応じた 支援が 受けれ ない	先生や 職員の 人数の 不足	夏休 みなど の長期 の休みの 居場所 がない	通園・ 通学が 不便	子ども の急変 時の対応 が心配	クラス の仲間 などの 理解の 不足	下校後 の居場所 がない	トイレ などの バリア フリー 設備	その他	特に困 ったこ とはない	無回答	
全体	998	19.9	16.7	15.6	15.5	15.3	15.2	15.1	13.0	10.4	7.2	6.9	0.7	8.3	35.2	1.6	
本人の 年齢別	0～2歳	24	4.2	4.2	12.5	4.2	4.2	0.0	4.2	8.3	4.2	0.0	0.0	8.3	41.7	20.8	
	3～5歳	247	15.4	11.7	8.5	7.7	8.9	9.3	6.1	8.1	6.1	3.6	1.2	6.1	50.2	2.4	
	6～8歳	195	19.5	14.9	25.6	19.5	19.0	19.0	17.4	9.2	6.2	11.3	1.0	11.3	27.2	0.5	
	9～11歳	189	25.9	29.6	21.2	20.6	23.8	27.5	21.2	16.9	16.4	12.2	10.1	8.5	21.7	0.5	
	12～14歳	161	24.2	16.8	16.1	23.6	16.1	14.3	20.5	12.4	13.7	8.1	8.1	0.0	13.0	29.2	1.2
	15～17歳	174	19.0	13.8	9.2	10.3	12.6	9.8	13.8	12.6	9.2	4.6	2.9	0.6	4.0	42.0	0.0
地域別	町田地域	227	20.3	12.3	12.8	14.5	13.2	14.5	14.1	11.9	11.9	8.8	7.5	0.4	8.4	36.1	0.0
	忠生地域	182	22.5	19.2	18.1	17.6	15.9	17.0	13.2	11.0	9.3	6.6	3.8	2.2	7.7	39.0	1.1
	南地域	297	20.9	19.2	16.2	14.8	17.5	16.5	17.2	15.8	9.1	7.7	8.4	0.3	8.1	31.3	3.0
	鶴川地域	157	15.9	17.2	15.3	15.3	14.0	17.2	13.4	14.0	13.4	7.0	4.5	0.6	10.2	32.5	0.6
	堺地域	128	18.0	15.6	17.2	14.1	15.6	9.4	18.0	10.2	8.6	4.7	10.2	0.0	7.8	41.4	2.3
障害種別	身体	127	12.6	11.0	22.8	9.4	6.3	14.2	14.2	18.1	11.8	4.7	6.3	3.1	11.8	29.1	1.6
	知的	422	18.2	15.2	23.2	14.7	13.0	18.7	20.6	17.5	13.7	4.0	8.8	0.9	8.1	32.5	0.7
	精神	64	32.8	31.3	26.6	17.2	29.7	17.2	12.5	23.4	12.5	15.6	12.5	0.0	6.3	25.0	0.0
	自立	31	29.0	29.0	19.4	19.4	19.4	12.9	16.1	19.4	16.1	9.7	12.9	0.0	9.7	29.0	0.0
	難病	17	11.8	17.6	5.9	11.8	17.6	23.5	5.9	11.8	17.6	5.9	0.0	5.9	17.6	29.4	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	発達	672	21.9	18.5	14.7	17.6	18.3	17.0	16.1	12.6	11.5	8.0	7.4	0.6	8.9	32.6	1.2
	医療的ケアを受けている	73	20.5	19.2	31.5	21.9	15.1	13.7	21.9	17.8	20.5	12.3	9.6	0.0	11.0	26.0	2.7
	視覚障害	9	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	44.4	0.0
	聴覚障害	35	8.6	11.4	20.0	14.3	8.6	11.4	11.4	25.7	2.9	5.7	0.0	0.0	14.3	31.4	0.0
重度心身障害	126	7.9	13.5	31.0	7.1	9.5	25.4	17.5	15.1	19.8	2.4	8.7	1.6	12.7	26.2	1.6	
世帯 構成別	ひとり親世帯	120	28.3	18.3	15.0	20.8	20.0	13.3	15.0	13.3	10.8	9.2	10.0	1.7	9.2	30.0	1.7
	核家族世帯	765	18.8	15.9	15.9	14.5	14.8	15.0	14.8	13.2	10.2	6.5	6.4	0.4	8.6	36.2	1.4
	三世帯世帯	98	18.4	19.4	14.3	17.3	14.3	18.4	17.3	13.3	9.2	10.2	8.2	2.0	5.1	34.7	2.0
サー ビス	利用している	839	19.4	16.6	17.6	15.1	15.4	16.7	15.5	13.6	10.8	7.5	6.7	0.7	9.1	34.7	1.8
	利用していない	147	21.1	15.0	4.8	17.7	14.3	8.2	13.6	10.2	6.8	6.1	7.5	0.7	4.8	38.8	0.7
自立 状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	23.5	16.5	9.2	19.6	17.2	12.5	15.0	11.0	8.4	8.6	6.1	0.6	8.3	36.1	0.7
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	17.7	19.1	22.6	11.6	14.2	19.6	15.9	14.5	12.1	5.9	7.5	0.8	8.1	34.7	2.2
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	6.2	7.4	27.2	6.2	7.4	13.6	12.3	19.8	16.0	3.7	9.9	1.2	9.9	30.9	4.9

## ⑥ 高校卒業後の進路

問 22. お子さまの、高校卒業後の進路について、現時点で考えているものがあればお答えください。  
【あてはまるもの全てに○】

高校卒業後の進路について、全体で見ると、「進学する」が31.8%と最も高く、次いで「作業所などで福祉的就労をする」が21.8%、「企業などへ就職する」が21.6%であった。

年齢別にみると、年齢があがるにつれて「企業などへ就職する」の割合が高くなる傾向がみられた。

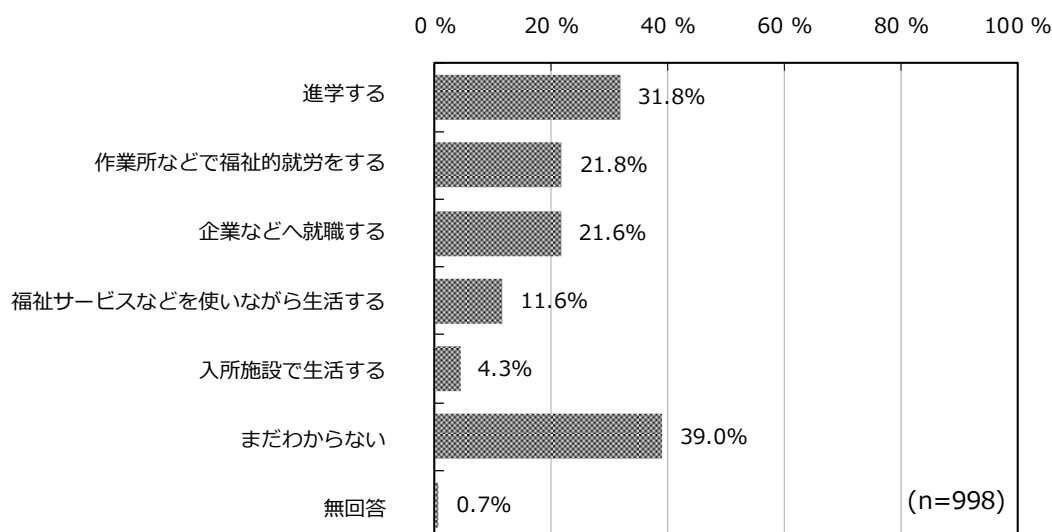
地域別にみると、『忠生地域』は他の地域よりも「進学する」割合が低く、「作業所などで福祉的就労をする」割合が高かった。

障害種別にみると、『精神』『聴覚障害』は他の種別よりも「進学する」の割合が高かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は他の世帯よりも「進学する」の割合が高く、「作業所などで福祉的就労をする」割合が低かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が少ないほど、「進学する」割合が高く、「全部介助」が必要な動作が多いほど、「福祉サービスなどを使いながら生活する」割合が高かった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	進学する	作業所などで福祉的就労をする	企業などへ就職する	福祉サービスなどを使いながら生活する	入所施設で生活する	まだわからない	無回答	
全体	998	31.8	21.8	21.6	11.6	4.3	39.0	0.7	
本人の年齢別	0～2歳	24	25.0	0.0	4.2	8.3	4.2	62.5	0.0
	3～5歳	247	32.8	9.7	11.7	4.9	2.4	59.1	0.8
	6～8歳	195	38.5	13.3	16.4	9.7	1.5	44.1	1.5
	9～11歳	189	27.0	30.2	24.3	15.3	6.3	39.7	0.5
	12～14歳	161	31.1	34.8	24.8	19.3	8.7	26.1	0.0
	15～17歳	174	28.7	29.9	36.8	11.5	4.0	14.4	0.6
地域別	町田地域	227	36.1	22.0	20.3	12.3	4.8	34.8	0.4
	忠生地域	182	20.3	27.5	25.3	13.2	5.5	42.3	0.5
	南地域	297	33.0	18.5	14.8	11.4	4.0	44.4	0.7
	鶴川地域	157	37.6	21.7	26.8	11.5	5.1	31.8	1.3
	堺地域	128	30.5	21.1	27.3	9.4	0.8	39.1	0.8
障害種別	身体	127	36.2	20.5	15.7	23.6	6.3	26.0	0.8
	知的	422	12.8	43.8	28.7	22.5	8.5	27.5	0.9
	精神	64	43.8	17.2	25.0	9.4	1.6	34.4	0.0
	自立	31	32.3	29.0	29.0	16.1	3.2	19.4	3.2
	難病	17	23.5	23.5	17.6	23.5	17.6	35.3	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	31.4	20.7	21.6	11.3	3.9	40.8	1.0
	医療的ケアを受けている	73	24.7	13.7	17.8	19.2	6.8	43.8	1.4
	視覚障害	9	22.2	11.1	11.1	11.1	22.2	33.3	0.0
	聴覚障害	35	51.4	11.4	20.0	8.6	11.4	22.9	2.9
重度心身障害	126	7.9	52.4	9.5	42.9	19.0	22.2	0.8	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	36.7	17.5	20.8	10.8	4.2	38.3	0.8
	核家族世帯	765	30.8	22.1	21.3	11.8	4.1	39.6	0.8
	三世帯世帯	98	30.6	25.5	22.4	11.2	4.1	38.8	0.0
サービス	利用している	839	29.7	23.4	19.9	12.8	4.6	41.2	0.8
	利用していない	147	44.2	14.3	30.6	5.4	2.0	25.9	0.0
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	43.3	13.0	28.3	5.9	1.1	34.3	0.9
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	20.7	32.8	15.6	12.9	5.1	46.0	0.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	4.9	30.9	4.9	44.4	22.2	38.3	1.2

## 4. 子どもの外出や社会参加について

### ① 子どもの外出頻度

問 23. お子さまは、通学・通園以外に、1週間にどの程度外出しますか。 【○は一つだけ】

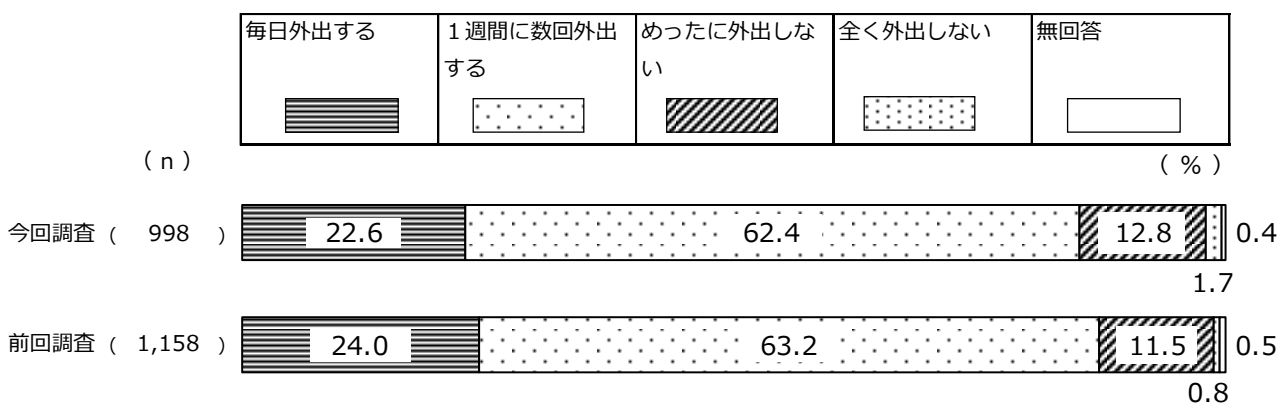
通学・通園以外の子どもの外出頻度について、「毎日外出する」の割合は22.6%で今回調査と前回調査で大きな変化はみられなかった。

年齢別にみると、『15～17歳』は他の年齢よりも「毎日外出する」の割合が低かった。

地域別にみると、『忠生地域』は他の地域よりも「毎日外出する」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「毎日外出する」の割合が高かった。

【前回調査との比較】





## 【クロス集計結果】

	回答数	毎日外出する	1週間に数回外出する	めったに外出しない	全く外出しない	無回答	
全体	998	22.6	62.4	12.8	1.7	0.4 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	41.7	41.7	12.5	0.0	4.2
	3～5歳	247	20.6	70.4	8.1	0.4	0.4
	6～8歳	195	30.3	62.6	6.2	1.0	0.0
	9～11歳	189	29.1	61.9	6.9	1.6	0.5
	12～14歳	161	16.1	57.8	23.6	2.5	0.0
	15～17歳	174	14.4	58.6	22.4	4.0	0.6
地域別	町田地域	227	24.7	61.7	12.3	1.3	0.0
	忠生地域	182	18.7	64.8	14.3	2.2	0.0
	南地域	297	22.2	63.0	12.5	1.7	0.7
	鶴川地域	157	22.3	58.6	16.6	1.9	0.6
	堺地域	128	26.6	63.3	7.8	1.6	0.8
障害種別	身体	127	22.0	59.1	15.7	3.1	0.0
	知的	422	23.2	58.3	16.4	1.9	0.2
	精神	64	17.2	56.3	23.4	3.1	0.0
	自立	31	12.9	71.0	6.5	9.7	0.0
	難病	17	23.5	64.7	11.8	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	23.4	62.4	12.1	1.8	0.4
	医療的ケアを受けている	73	12.3	64.4	17.8	5.5	0.0
	視覚障害	9	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	聴覚障害	35	14.3	65.7	20.0	0.0	0.0
	重度心身障害	126	25.4	61.9	10.3	2.4	0.0
世帯構成別	ひとり親世帯	120	25.8	54.2	17.5	2.5	0.0
	核家族世帯	765	22.6	63.1	12.3	1.6	0.4
	三世帯世帯	98	17.3	68.4	12.2	2.0	0.0
サービス	利用している	839	25.1	63.8	9.7	1.1	0.4
	利用していない	147	8.8	55.8	31.3	4.1	0.0
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	19.6	63.1	14.7	2.2	0.4
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	27.2	61.8	9.7	0.8	0.5
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	22.2	60.5	14.8	2.5	0.0

② 子どもの主な外出先

【問 23 で「1」～「3」を選んだ方にお伺いいたします】

問 24. 主な行先はどこですか。あてはまるものを全てお選びください。 【○は一つだけ】

子どもの主な外出先について、全体で見ると「スーパーやお店（お買い物など）」が61.5%と最も高く、次いで「子ども発達センター・放課後等デイサービス・児童発達支援サービス」が56.5%であった。

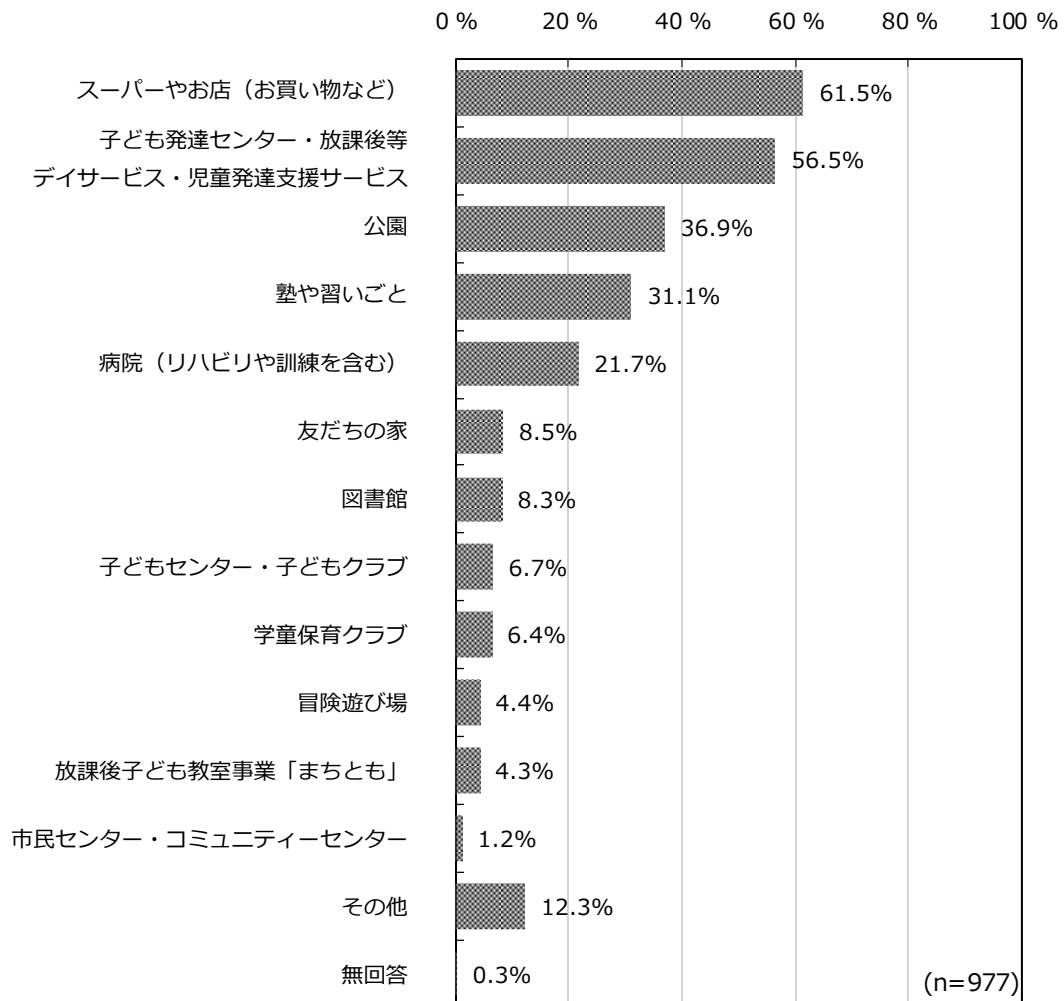
年齢別にみると、『3～5 歳』は他の年齢よりも「スーパーやお店（お買い物など）」の割合が高く、『6～8 歳』『9～11 歳』は「子ども発達センター・放課後等デイサービス・児童発達支援サービス」の割合が高かった。

地域別にみると、『鶴川地域』は他の地域よりも「子ども発達センター・放課後等デイサービス・児童発達支援サービス」の割合が低かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は「スーパーやお店（お買い物など）」「子ども発達センター・放課後等デイサービス・児童発達支援サービス」「公園」の割合が低かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が 0～2 個の場合、他の状況よりも「子ども発達センター・放課後等デイサービス・児童発達支援サービス」の割合が低かった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	スーパーやお店（お買い物など）	子ども発達センター・放課後等デイサービス	公園	塾や習いごと	病院（リハビリや訓練を含む）	友だちの家	図書館	子どもセンター・子どもクラブ	学童保育クラブ	冒険遊び場	放課後子ども教室事業「まちとも」	市民センター・コミュニティセンター	その他	無回答	
全体	977	61.5	56.5	36.9	31.1	21.7	8.5	8.3	6.7	6.4	4.4	4.3	1.2	12.3	0.3	
本人の年齢別	0～2歳	23	69.6	60.9	65.2	0.0	30.4	0.0	13.0	34.8	0.0	8.7	0.0	13.0	13.0	0.0
	3～5歳	245	82.4	45.3	64.1	20.4	20.0	8.2	11.0	9.0	0.0	9.4	0.0	1.6	13.5	0.0
	6～8歳	193	59.1	73.6	42.5	41.5	17.1	10.4	8.8	3.6	22.8	4.1	15.5	0.5	7.3	0.0
	9～11歳	185	47.6	74.6	29.7	42.7	27.6	9.7	6.5	4.3	9.2	4.9	4.3	0.5	9.2	0.5
	12～14歳	157	52.2	47.8	20.4	38.2	19.1	7.0	7.0	8.9	0.6	0.6	1.9	0.6	12.1	0.0
	15～17歳	166	56.0	41.6	10.2	20.5	24.1	7.2	6.6	3.6	0.0	0.0	0.6	1.2	20.5	1.2
地域別	町田地域	224	61.6	56.3	38.4	32.6	20.1	8.0	8.0	7.1	4.9	4.9	0.9	12.9	0.0	
	忠生地域	178	60.1	60.1	30.9	26.4	24.2	6.7	7.9	5.6	6.7	3.4	0.6	15.7	0.6	
	南地域	290	59.7	59.0	36.2	36.9	21.7	9.7	9.0	4.5	7.9	2.1	6.2	1.7	12.8	0.0
	鶴川地域	153	64.7	47.7	40.5	29.4	20.9	9.8	13.1	10.5	5.9	7.8	2.0	2.0	9.2	0.7
	堺地域	125	63.2	57.6	40.0	24.0	23.2	6.4	2.4	8.0	4.8	6.4	3.2	0.8	9.6	0.8
障害種別	身体	123	57.7	40.7	22.8	33.3	55.3	7.3	8.1	4.9	3.3	2.4	4.1	0.8	8.9	0.8
	知的	413	61.3	65.6	25.4	16.2	26.4	4.8	4.6	3.6	5.1	2.4	1.0	0.7	14.5	0.5
	精神	62	54.8	37.1	12.9	32.3	25.8	6.5	11.3	3.2	6.5	3.2	3.2	0.0	22.6	0.0
	自立	28	57.1	50.0	3.6	21.4	35.7	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0
	難病	17	52.9	52.9	17.6	5.9	35.3	0.0	5.9	11.8	11.8	5.9	5.9	0.0	11.8	0.0
	高次脳機能障害	2	100.0	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達	657	60.7	61.9	38.7	33.3	19.5	9.7	8.4	7.2	7.5	5.0	4.3	1.2	11.9	0.2
	医療的ケアを受けている	69	56.5	71.0	21.7	20.3	53.6	5.8	5.8	7.2	1.4	5.8	1.4	2.9	13.0	0.0
	視覚障害	9	33.3	44.4	11.1	22.2	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
	聴覚障害	35	62.9	20.0	28.6	54.3	37.1	5.7	17.1	5.7	0.0	0.0	5.7	0.0	5.7	2.9
	重度心身障害	123	55.3	74.0	22.8	11.4	51.2	1.6	5.7	1.6	1.6	0.8	0.0	0.0	10.6	0.0
世帯構成別	ひとり親世帯	117	52.1	50.4	26.5	35.0	19.7	7.7	7.7	3.4	11.1	2.6	1.7	0.9	15.4	0.0
	核家族世帯	750	62.0	57.6	38.8	30.1	20.8	8.5	8.8	7.6	6.0	4.7	4.8	1.5	12.0	0.3
	三世帯世帯	96	67.7	56.3	35.4	35.4	29.2	9.4	6.3	3.1	5.2	5.2	2.1	0.0	11.5	1.0
サービス	利用している	827	61.9	66.3	39.4	30.6	22.9	7.6	9.1	6.5	7.6	5.0	4.7	1.0	10.9	0.4
	利用していない	141	60.3	0.7	19.9	34.0	14.9	13.5	3.5	7.1	0.0	0.7	2.1	2.8	20.6	0.0
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	531	55.0	49.3	31.5	45.6	15.4	12.2	8.3	7.5	8.1	4.1	6.8	1.3	11.7	0.6
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	367	70.8	65.9	46.0	15.8	23.4	3.8	9.3	5.7	5.4	4.9	1.6	1.1	11.4	0.0
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	79	62.0	60.8	31.6	5.1	55.7	5.1	3.8	5.1	0.0	3.8	0.0	1.3	20.3	0.0

(%)

③ 新型コロナウイルスによる子どもの外出状況の変化

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 25. 新型コロナウイルスの流行により、お子さまの外出状況に変化はありましたか。

【○は一つだけ】

新型コロナウイルスの流行による子どもの外出状況の変化について、全体でみると「外出機会が減った」は60.3%、「外出機会が増えた」は1.0%、「変化はない」が38.3%であった。

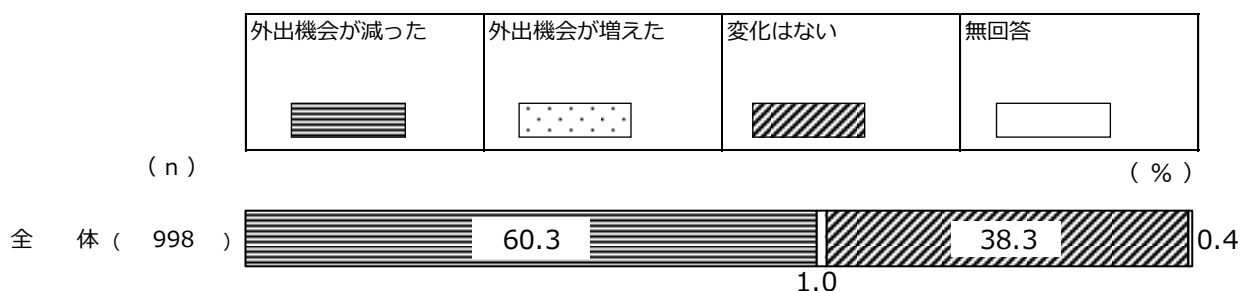
地域別にみると、『忠生地域』は他の地域よりも「外出機会が減った」の割合が低かった。

障害種別にみると、『聴覚障害』は他の種別よりも「外出機会が減った」の割合が高かった。

世帯構成別にみると、『核家族世帯』は『ひとり親世帯』よりも「外出機会が減った」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「外出機会が減った」の割合が高かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回 答 数	外 出 機 会 が 減 っ た	外 出 機 会 が 増 え た	変 化 は な い	無 回 答
全体	998	60.3	1.0	38.3	0.4
本人の年齢別					
0～2歳	24	58.3	0.0	37.5	4.2
3～5歳	247	61.9	1.2	36.4	0.4
6～8歳	195	61.0	2.1	36.4	0.5
9～11歳	189	62.4	1.1	36.0	0.5
12～14歳	161	59.0	0.0	41.0	0.0
15～17歳	174	56.9	0.6	42.5	0.0
地域別					
町田地域	227	60.8	1.8	37.4	0.0
忠生地域	182	54.4	0.5	44.5	0.5
南地域	297	62.6	0.3	36.7	0.3
鶴川地域	157	58.0	0.6	41.4	0.0
堺地域	128	66.4	2.3	29.7	1.6
障害種別					
身体	127	65.4	0.8	32.3	1.6
知的	422	58.8	0.9	40.0	0.2
精神	64	50.0	0.0	50.0	0.0
自立	31	58.1	3.2	38.7	0.0
難病	17	47.1	0.0	47.1	5.9
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0
発達	672	62.2	1.5	36.0	0.3
医療的ケアを受けている	73	67.1	0.0	30.1	2.7
視覚障害	9	66.7	0.0	33.3	0.0
聴覚障害	35	68.6	0.0	28.6	2.9
重度心身障害	126	64.3	1.6	33.3	0.8
世帯構成別					
ひとり親世帯	120	55.8	0.0	43.3	0.8
核家族世帯	765	61.6	1.3	36.7	0.4
三世帯世帯	98	57.1	0.0	42.9	0.0
サービス					
利用している	839	61.4	1.2	37.1	0.4
利用していない	147	56.5	0.0	43.5	0.0
自立状況別					
「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	57.2	0.9	41.5	0.4
「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	64.5	1.3	34.1	0.0
「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	61.7	0.0	35.8	2.5

④ 子どもの外出や社会参加における不安や心配の有無

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 26. お子さまの外出や社会参加について不安や心配はありますか。【○は一つだけ】

子どもの外出や社会参加における不安や心配の有無について、全体で見ると、不安や心配が「ある」は79.5%、「ない」は19.9%であった。

年齢別にみると、『3～5歳』は「ある」の割合が他の年齢よりも低かった。

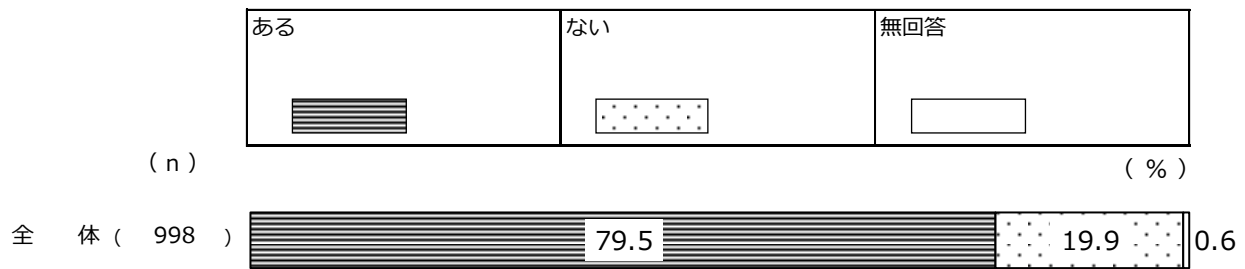
地域別にみると、『町田地域』『南地域』は他の地域よりも「ある」の割合が高かった。

障害種別にみると、『精神』『聴覚障害』は他の種別よりも「ある」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「ある」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が0～2個の場合、他の状況よりも「ある」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

		回 答 数	あ る	な い	無 回 答
全体		998	79.5	19.9	0.6
本人の 年齢別	0～2歳	24	87.5	12.5	0.0
	3～5歳	247	70.9	28.7	0.4
	6～8歳	195	81.0	17.9	1.0
	9～11歳	189	86.8	12.7	0.5
	12～14歳	161	81.4	18.6	0.0
	15～17歳	174	79.3	19.5	1.1
地域別	町田地域	227	82.4	16.7	0.9
	忠生地域	182	79.1	19.8	1.1
	南地域	297	82.5	17.2	0.3
	鶴川地域	157	73.9	26.1	0.0
	堺地域	128	75.8	23.4	0.8
障害種別	身体	127	81.9	18.1	0.0
	知的	422	86.7	13.0	0.2
	精神	64	75.0	21.9	3.1
	自立	31	83.9	16.1	0.0
	難病	17	82.4	17.6	0.0
	高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0
	発達	672	80.8	18.8	0.4
	医療的ケアを受けている	73	82.2	15.1	2.7
	視覚障害	9	88.9	11.1	0.0
	聴覚障害	35	77.1	22.9	0.0
重度心身障害	126	88.1	11.9	0.0	
世帯 構成別	ひとり親世帯	120	80.0	20.0	0.0
	核家族世帯	765	79.3	19.9	0.8
	三世帯世帯	98	77.6	22.4	0.0
サ ー ビ ス	利用している	839	80.9	18.6	0.5
	利用していない	147	71.4	27.9	0.7
自 立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	75.0	24.0	0.9
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	85.5	14.2	0.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	81.5	18.5	0.0

## ⑤ 外出や社会参加における不安や心配事の具体的な内容

【問 26 で「1. ある」を選んだ方にお伺いいたします】

問 27. 不安や心配なことについて具体的に教えてください。【ご自由にお書きください】

自由意見	691 件
コミュニケーション能力・他者との交流	246 件
外出時に不安や心配なことがある	174 件
今後の社会参加・生活に関して	132 件
進学や就職に関して	88 件
障がいに関する理解が乏しい・不当な扱いを受けることがある	87 件
事故や事件に巻き込まれないか	69 件
イレギュラーや困り事が起きた際の対処に関して	53 件
意思表示ができるか	33 件
適切なサービスや支援を受けられるか	25 件
漠然とした不安・心配なことがある	20 件
金銭管理に関して	16 件
体調管理に関して	15 件
その他	42 件

※ 1つの意見が複数のカテゴリーに該当することがあり、各カテゴリーの意見の合計と自由意見の件数が一致しない場合があります。

## 自由意見 (一部抜粋)

## 【コミュニケーション能力・他者との交流】

- 言葉がなかなか出てこないの、会話でのコミュニケーションが難しいです。 集団生活での指示をきちんと聞けるのか、自分の思っていることを上手に伝えられるのか、不安なことはたくさんあります。
- 他害行為があるので、理解していない人が関わると危害を加えないか心配。暴れる事がある。
- こだわりがあるので、思い通りにいかないと機嫌が悪くなり、人や物にあたる事がある。放課後等デイサービスでも同様な事があると心苦しくなる。
- 他人への他害、他人の前でも不潔行為をするなど、他人が嫌がる事をしてしまう事。
- 他人と意思疎通を図るのが苦手で、自分の意にそぐわないことが起こると癇癪を起こしてしまう。
- 言葉がうまく出ないため、慣れていない人にイライラさせてしまう事がある。
- 先日一人で外出時、駅で宗教の勧誘にあった。言葉での意思疎通が難しいところがあるので、うまく断れない。
- コミュニケーションがうまくとれないので、必要な事を聞けず、人から質問されても返答できない。
- 一人で十分なコミュニケーションがとれるか、不安。
- 言葉が不明瞭な部分があり、来年度の小学校でお友達ができるか心配。

## 【外出時に不安や心配なことがある】

- まだ一人で出かけることができない。本人も出かけたがらない。



- 学校以外はひとりで外出することは安全性や識別的に難しい。留守番も30分以上は難しい。
- 一人で外出すると特性が強くなってしまい社会に迷惑がかかり、本人も必然的につらい気持ちになってしまう。
- 子供用車椅子に乗っていて、外出時は車移動が必須なので、駐車場の有無、場所など事前の確認が必要。
- てんかんの持病があり、外出先で発作を起こすことがあるので不安がある。体が大きくなってきて、痙攣持ちなので暴れると押さえるのが大変になる。
- 聴覚過敏などの特性があること、また外出時は完全サポートが必要なため現在行ける場所が限られている。
- 車椅子での移動が可能か持ち込みでの飲食が出来るか等、事前に調べたり聞いたりしなければいけない。
- 外出には介助が必要となり、バギーや車椅子を使用する場合には、公共交通機関の利用などでかなり神経を使います。バリアフリー設備の有無だけでなく、ちょっとした段差や道幅や傾斜など移動に難しさを感じる事が多々あります。

#### 【今後の社会参加・生活に関して】

- 日本の社会ではうまく居場所を見つけられない可能性を感じます。
- 社会生活がしていけるか。自分達の死後、きちんと生活していけるか。
- 親がいなくなったら、理解者がいないので、生活できるか心配。
- 高校生までは、児童デイサービスや学校等で相談が出来るが、卒業後どこに相談して良いかが分からない。また、本人の居場所が無い。
- 卒業後、一般社会と関わりを持つ生活ができるか。親がいなくなった後に世話や見守りを誰がするのか。
- 自立に向けてどのように向き合っていくべきか、考える事はある。
- この先、適した居場所を見つけてあげられるか心配です。

#### 【進学や就職に関して】

- 周りと比べると基礎学力が低いのでついていけるかが心配
- 現在オンラインでの通信高校で授業を受けていて、卒業後は、大学進学は考えていない。病児が元々体力に限りがあるので、外での作業や就職が厳しい。なので、この先が不安です。
- わからないことやできないことがあるとパニックになるため、就職が難しいのではないかと思う。
- 就職活動の際、障害の理解をしてくれる職場が探せるかどうか。
- 注意欠陥障害がひどいので、職業を選ぶこと。障害者枠での就職になると収入が極端に低い。

#### 【障がいに関する理解が乏しい・不当な扱いを受けることがある】

- 軽度であるがために、理解が得られず放置されやすい。ただの変わった子どもという認識で他の子との差別・区別されやすい。
- 障がい特性が理解されにくく、共有しにくい。
- 公園など、周りの子供達に障害児の行動を理解されにくい為、ちょっとした嫌がらせにあうこともある。
- 親が甘やかしている、躰ができていない等思われがち。
- 周囲の理解不足により適切な処遇を受けられない恐れがあること。

⑥ 子どもの積極的な社会参加に大切なこと

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 28. お子さまが、地域や社会に積極的に参加できるようにするために、大切なことは何だと思いますか。 【あてはまるもの全てに○】

子どもの積極的な社会参加に大切なことについて、全体でみると「どの子どもにも分け隔てなく接してくれる大人の存在」が 65.1%で最も高く、次いで「共に遊んだり学んだりする友だちやサポートしてくれる先輩などの存在」が 56.3%であるが前回調査より減少した。

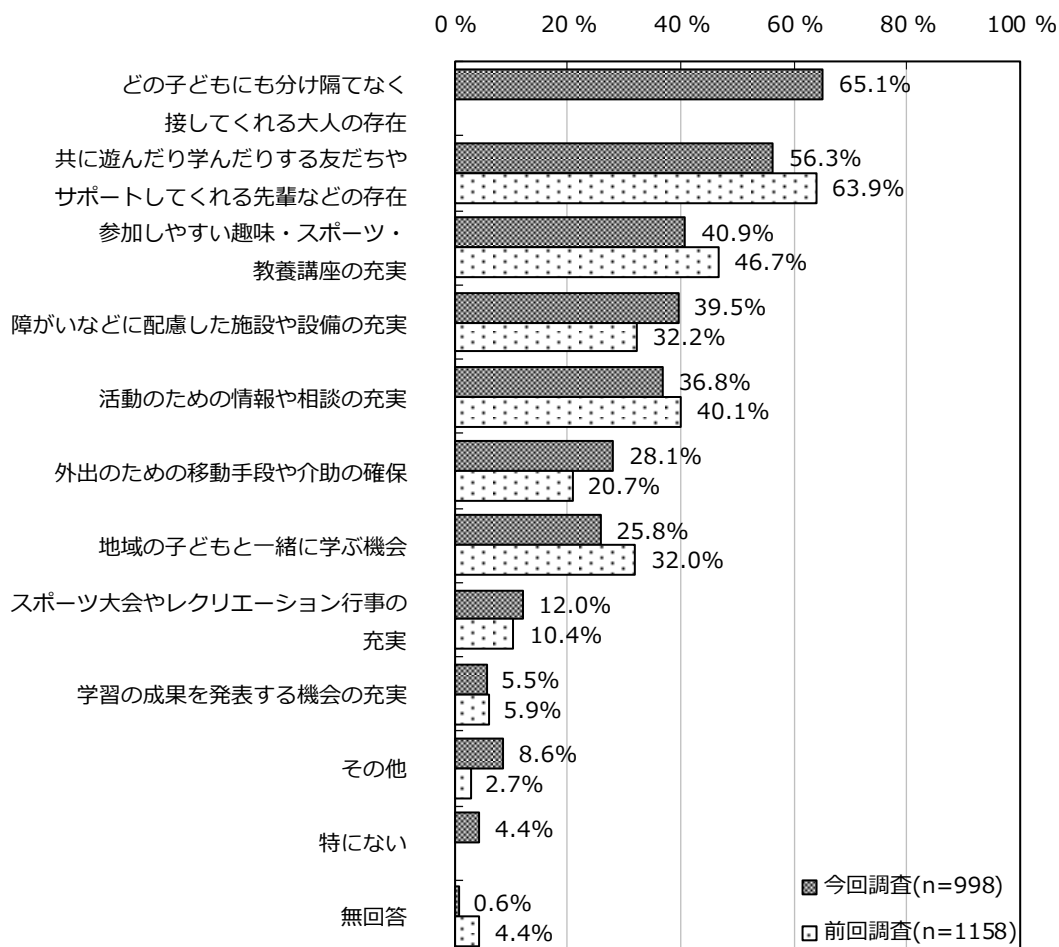
年齢別にみると、『15～17 歳』は他の年齢よりも「どの子どもにも分け隔てなく接してくれる大人の存在」の割合が低かった。

地域別にみると、『忠生地域』は他の地域よりも「どの子どもにも分け隔てなく接してくれる大人の存在」の割合が高かった。

障害種別にみると、『精神』は他の種別よりも「共に遊んだり学んだりする友だちやサポートしてくれる先輩などの存在」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど「障がいなどに配慮した施設や設備の充実」「外出のための移動手段や介助の確保」の割合が高かった。

【前回調査との比較】



※今回調査より「どの子どもにも分け隔てなく接してくれる大人の存在」「特にない」の選択肢を追加。

【クロス集計】

		回答数	大人の存在	どの子どもにも分け隔てなく接してくれる	共に遊んだり学んだりする友だちやサポーター	充実	参加しやすい趣味・スポーツ・教養講座の充実	障がいなどに配慮した施設や設備の充実	活動のための情報や相談の充実	外出のための移動手段や介助の確保	地域の子どもと一緒に学ぶ機会	スポーツ大会やレクリエーション行事の充実	学習の成果を発表する機会の充実	その他	特にな	無回答
全体		998	65.1	56.3	40.9	39.5	36.8	28.1	25.8	12.0	5.5	8.6	4.4	0.6	(%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	70.8	41.7	45.8	50.0	54.2	37.5	50.0	20.8	4.2	8.3	0.0	4.2		
	3～5歳	247	68.0	56.3	36.8	34.8	41.3	24.3	35.2	9.7	7.7	7.3	4.5	1.2		
	6～8歳	195	65.6	56.9	45.1	36.4	33.8	24.1	29.7	10.8	6.2	9.7	2.1	0.0		
	9～11歳	189	63.5	55.0	42.9	46.0	40.2	32.3	30.2	13.8	6.3	10.1	4.8	1.1		
	12～14歳	161	70.8	55.3	41.0	42.2	29.8	32.9	19.3	11.2	3.7	8.7	2.5	0.0		
	15～17歳	174	55.7	59.2	39.1	39.1	34.5	27.6	5.7	13.8	2.9	8.0	9.2	0.0		
地域別	町田地域	227	63.9	55.5	40.1	39.2	38.3	30.0	25.1	13.2	8.4	7.0	4.8	0.9		
	忠生地域	182	70.3	58.2	40.7	40.1	38.5	31.9	24.7	13.7	3.3	11.0	4.4	0.5		
	南地域	297	63.6	56.6	43.8	39.7	33.7	29.3	29.6	11.1	5.7	9.1	2.7	0.3		
	鶴川地域	157	67.5	54.8	32.5	40.8	34.4	17.8	22.3	8.9	5.1	8.9	5.1	1.3		
	堺地域	128	60.2	57.0	46.1	37.5	41.4	28.9	24.2	13.3	3.9	6.3	7.0	0.0		
障害種別	身体	127	58.3	45.7	30.7	59.1	37.8	47.2	23.6	11.0	3.1	9.4	6.3	0.8		
	知的	422	62.6	48.8	41.5	53.6	36.5	41.7	21.1	16.1	5.2	7.8	3.6	0.2		
	精神	64	65.6	64.1	37.5	32.8	35.9	28.1	12.5	6.3	7.8	9.4	6.3	0.0		
	自立	31	58.1	51.6	29.0	38.7	38.7	41.9	3.2	6.5	0.0	9.7	9.7	0.0		
	難病	17	70.6	47.1	41.2	76.5	58.8	41.2	29.4	11.8	0.0	11.8	0.0	0.0		
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	発達	672	66.7	58.0	43.5	39.0	39.1	28.4	26.8	12.4	6.5	9.1	3.4	0.7		
	医療的ケアを受けている	73	61.6	56.2	42.5	53.4	46.6	42.5	32.9	11.0	8.2	5.5	2.7	0.0		
	視覚障害	9	44.4	33.3	44.4	77.8	44.4	55.6	11.1	0.0	0.0	22.2	11.1	0.0		
	聴覚障害	35	54.3	45.7	25.7	45.7	37.1	25.7	22.9	8.6	2.9	5.7	14.3	0.0		
重度心身障害	126	63.5	41.3	35.7	69.8	42.1	70.6	25.4	17.5	4.8	10.3	1.6	0.0			
世帯構成別	ひとり親世帯	120	60.8	56.7	40.0	29.2	33.3	26.7	25.0	10.0	4.2	8.3	5.8	0.0		
	核家族世帯	765	65.6	56.1	40.4	40.4	36.2	28.1	25.8	11.2	5.9	8.9	4.4	0.8		
	三世帯世帯	98	67.3	55.1	43.9	45.9	44.9	28.6	26.5	17.3	5.1	7.1	3.1	0.0		
サービス	利用している	839	65.7	57.0	41.5	41.8	38.1	30.9	27.5	12.4	5.7	9.1	3.3	0.6		
	利用していない	147	61.9	53.1	36.1	25.9	25.9	12.2	15.0	8.2	4.8	6.8	10.2	0.7		
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	62.9	61.5	42.4	27.3	30.8	13.9	23.1	11.4	5.3	8.8	5.5	0.6		
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	69.4	52.2	41.1	50.8	44.9	40.3	29.0	12.4	5.9	7.0	3.5	0.8		
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	60.5	40.7	29.6	69.1	39.5	66.7	28.4	14.8	4.9	14.8	1.2	0.0		

⑦ 近所の人々の中に障がいがある子ども・家族を理解し、受け入れてくれる人の有無

問 29. お住いの近所の人々の中に、障がいがある子どもやその家族を理解し、受け入れてくれる人はいますか。 【○は一つだけ】

近所の人々の中に障がいがある子ども・家族を理解し、受け入れてくれる人の有無について、「いる」が38.6%、「いない」が15.3%、「わからない・答えられない」が45.6%であった。

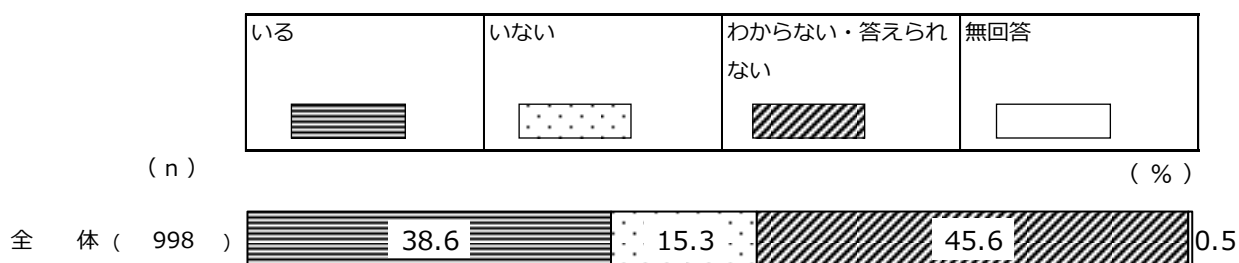
年齢別にみると、『15～17歳』は他の年齢よりも「いない」の割合が高かった。

地域別にみると、『南地域』は他の地域よりも「いる」の割合が低かった。

障害種別にみると、『精神』は他の種別よりも「いる」の割合が低かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は他の世帯よりも「いない」の割合が高かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

		回 答 数	い る	い な い	わ か ら な い ・ 答 え ら れ な い	無 回 答
全体		998	38.6	15.3	45.6	0.5
本人の 年齢 別	0～2歳	24	29.2	12.5	58.3	0.0
	3～5歳	247	36.4	13.8	48.6	1.2
	6～8歳	195	41.5	12.3	45.1	1.0
	9～11歳	189	41.3	15.9	42.9	0.0
	12～14歳	161	34.8	17.4	47.8	0.0
	15～17歳	174	40.8	18.4	40.8	0.0
地域 別	町田地域	227	41.4	16.7	41.4	0.4
	忠生地域	182	40.7	12.6	46.7	0.0
	南地域	297	33.0	16.5	49.8	0.7
	鶴川地域	157	37.6	13.4	48.4	0.6
	堺地域	128	45.3	15.6	38.3	0.8
障害 種別	身体	127	48.8	14.2	36.2	0.8
	知的	422	40.3	16.6	42.7	0.5
	精神	64	28.1	18.8	51.6	1.6
	自立	31	35.5	19.4	45.2	0.0
	難病	17	52.9	5.9	41.2	0.0
	高次脳機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0
	発達	672	39.0	15.6	44.8	0.6
	医療的ケアを受けている	73	38.4	20.5	39.7	1.4
	視覚障害	9	11.1	11.1	77.8	0.0
	聴覚障害	35	54.3	2.9	42.9	0.0
	重度心身障害	126	45.2	19.0	35.7	0.0
世帯 構成 別	ひとり親世帯	120	37.5	20.0	42.5	0.0
	核家族世帯	765	38.7	14.4	46.5	0.4
	三世帯世帯	98	37.8	16.3	43.9	2.0
サ ー ビ ス	利用している	839	38.7	15.0	45.8	0.5
	利用していない	147	36.7	16.3	46.9	0.0
自 立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	40.0	13.8	45.9	0.4
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	36.0	16.9	46.2	0.8
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	40.7	18.5	40.7	0.0

## 5. 利用している支援やサービスについて

### ① 現在利用中の支援や福祉サービスについて

問 30. 現在利用している支援や福祉サービスについて、あてはまるものを全てお選びください。  
 ※なお、子ども発達センターの相談、親子通園、グループ指導などをご利用の方は「1」を、週5日通園・週1日併行通園をご利用の方は「2」をお選びください。【あてはまるもの全てに○】

現在利用中の支援や福祉サービスについて、全体でみると「放課後等デイサービス」が48.2%と最も高く、次いで「児童発達支援」が20.5%とそれぞれ前回調査よりも増加した。

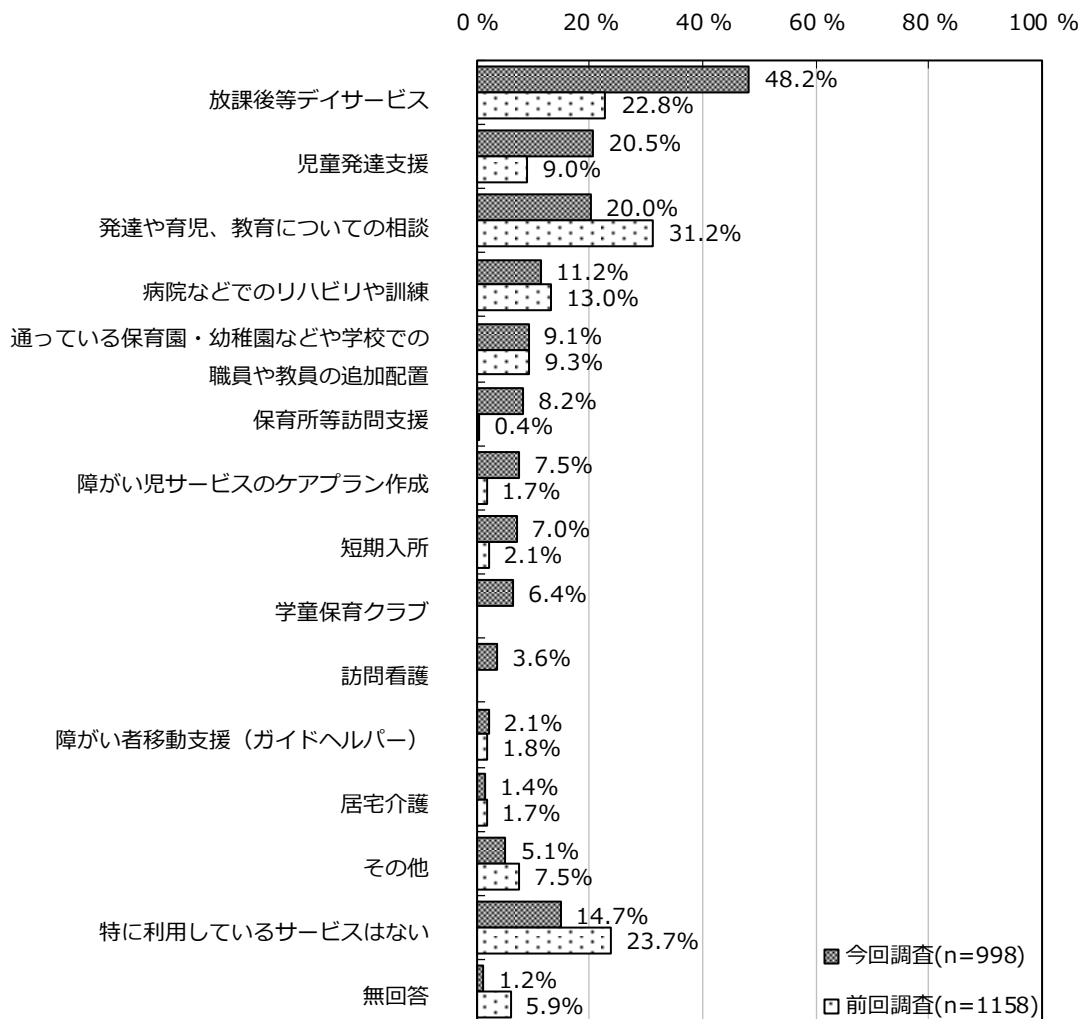
年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「発達や育児、教育についての相談」の割合が低くなる傾向がみられた。

地域別にみると、『鶴川地域』は他の地域よりも「放課後デイサービス」の割合が低かった。

障害種別にみると、『聴覚障害』は他の種別よりも「放課後デイサービス」の割合が低かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど「病院などでのリハビリや訓練」の割合が高くなる傾向がみられた。

【前回調査との比較】



※今回調査より調査対象者に「受給者証を所持している児童とその保護者」追加。選択肢に「学童保育クラブ」「訪問看護」追加。

【クロス集計】

	回答数	放課後等デイサービス	児童発達支援	発達や育児、教育についての相談	病院などでのリハビリや訓練	職員や教員の追加配置	通っている保育園・幼稚園などや学校での保育所等訪問支援	障がい児サービスのケアプラン作成	短期入所	学童保育クラブ	訪問看護	障がい者移動支援（ガイドヘルパー）	居宅介護	その他	特に利用しているサービスはない	無回答
全体	998	48.2	20.5	20.0	11.2	9.1	8.2	7.5	7.0	6.4	3.6	2.1	1.4	5.1	14.7	1.2
本人の年齢別	0～2歳	24	0.0	41.7	66.7	16.7	8.3	8.3	4.2	4.2	0.0	20.8	0.0	4.2	4.2	0.0
	3～5歳	247	3.6	60.3	40.1	9.7	26.3	15.8	2.4	1.2	0.0	4.9	0.0	0.4	2.4	1.2
	6～8歳	195	76.9	9.7	17.4	11.8	6.2	14.9	9.2	2.1	21.5	4.1	0.5	1.0	8.2	4.6
	9～11歳	189	79.9	7.9	15.3	14.3	3.2	4.8	11.6	12.7	10.6	3.7	2.1	2.1	5.3	5.8
	12～14歳	161	59.0	5.0	6.2	8.7	2.5	1.2	8.1	12.4	0.6	1.9	3.1	1.9	6.8	28.6
	15～17歳	174	42.0	2.3	6.3	11.5	1.1	0.6	8.6	10.3	0.0	0.6	6.3	1.7	4.0	42.5
地域別	町田地域	227	45.8	24.7	21.1	11.5	11.0	9.3	7.9	7.9	5.7	4.4	0.9	2.2	3.1	13.7
	忠生地域	182	54.4	12.6	17.0	9.3	9.9	4.4	9.9	8.8	5.5	2.2	3.3	0.5	6.0	16.5
	南地域	297	51.9	23.9	23.2	14.1	7.4	11.8	7.7	7.1	8.8	4.7	2.4	1.7	5.4	10.1
	鶴川地域	157	40.8	17.8	15.3	8.3	9.6	6.4	6.4	5.1	5.1	3.8	3.2	1.3	7.0	21.7
	堺地域	128	44.5	21.1	21.1	10.9	8.6	6.3	4.7	5.5	3.9	1.6	0.8	0.8	4.7	15.6
障害種別	身体	127	36.2	12.6	11.0	46.5	12.6	1.6	14.2	12.6	3.9	18.1	4.7	10.2	8.7	22.8
	知的	422	63.0	14.0	13.3	15.2	5.9	6.2	14.2	14.5	6.6	5.2	4.3	3.6	17.1	
	精神	64	40.6	6.3	10.9	12.5	1.6	10.9	6.3	6.3	7.8	4.7	1.6	0.0	1.6	
	自立	31	41.9	0.0	12.9	16.1	0.0	3.2	6.5	16.1	0.0	6.5	9.7	0.0	3.2	
	難病	17	41.2	17.6	17.6	35.3	23.5	0.0	17.6	17.6	17.6	23.5	0.0	5.9	5.9	
	高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
	発達	672	54.2	21.3	21.4	9.4	9.2	9.1	7.3	7.0	7.1	3.3	1.6	0.9	4.6	
	医療的ケアを受けている	73	53.4	21.9	16.4	30.1	8.2	1.4	19.2	20.5	1.4	31.5	2.7	11.0	12.3	
	視覚障害	9	22.2	11.1	22.2	55.6	0.0	0.0	44.4	11.1	0.0	33.3	0.0	22.2	11.1	
	聴覚障害	35	14.3	11.4	2.9	40.0	11.4	0.0	17.1	8.6	2.9	11.4	0.0	5.7	11.4	
重度心身障害	126	70.6	15.9	10.3	38.1	8.7	0.8	31.0	33.3	2.4	12.7	7.1	11.1	6.3		
世帯構成別	ひとり親世帯	120	45.0	15.0	10.8	11.7	3.3	8.3	5.8	10.0	10.8	5.8	2.5	2.5	4.2	
	核家族世帯	765	49.2	22.1	21.2	11.5	9.9	8.4	8.1	6.9	5.9	2.9	1.8	1.3	4.8	
	三世帯世帯	98	45.9	17.3	21.4	9.2	11.2	8.2	4.1	4.1	6.1	7.1	4.1	1.0		
サービス	利用している	839	57.3	24.4	23.8	13.3	10.8	9.8	8.9	8.3	7.6	4.3	2.5	1.7	6.1	
	利用していない	147	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	49.5	10.1	15.2	6.6	2.9	6.2	2.8	2.9	7.5	1.5	0.9	0.0		
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	47.6	31.2	26.9	11.6	17.2	12.4	10.8	9.7	5.9	2.4	3.0	0.0		
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	42.0	42.0	21.0	40.7	13.6	2.5	24.7	22.2	1.2	23.5	6.2	17.3		

② 児童発達支援または放課後等デイサービスの事業所を選ぶときに重視する点

【問 30 で「2. 児童発達支援」または「3. 放課後等デイサービス」を選択した方にお伺いいたします】

問 31. 児童発達支援または放課後等デイサービスの事業所を選ぶ際に、重視される点がありますか。あてはまるものを全てお選びください。 【あてはまるもの全てに○】

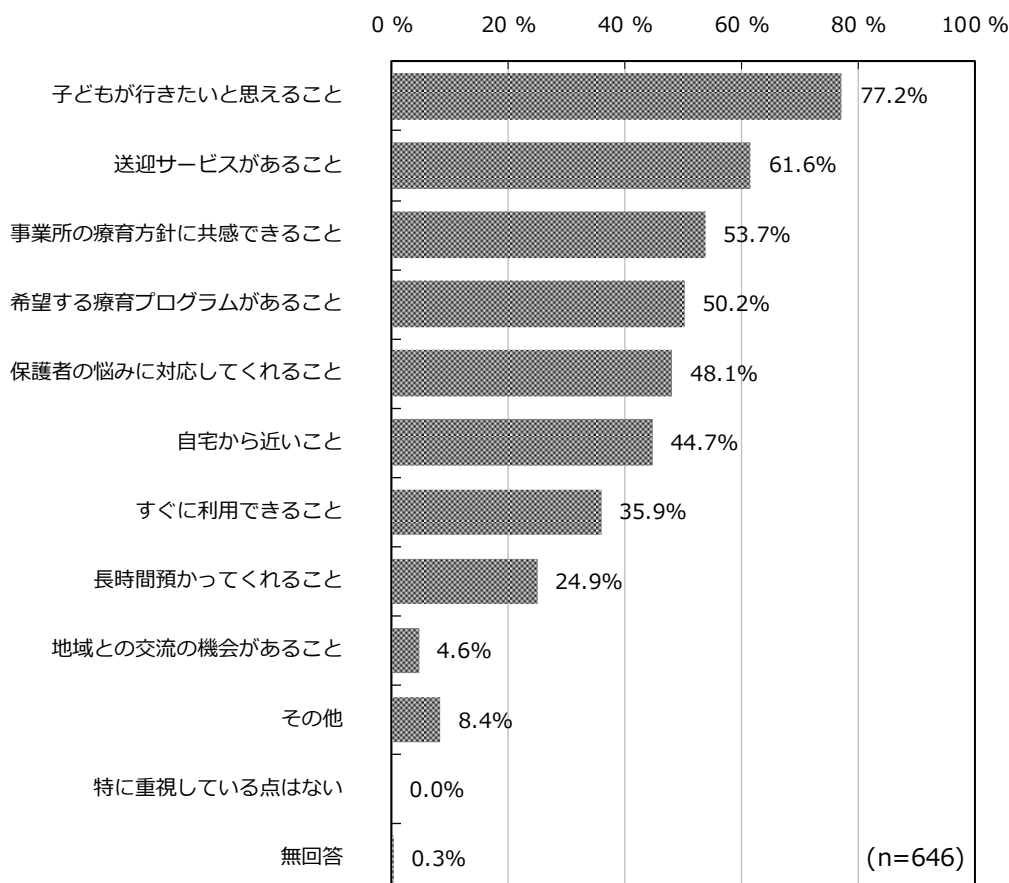
児童発達支援または放課後等デイサービスの事業所を選ぶときに重視する点について、全体で見ると「子どもが行きたいと思えること」が 77.2%と最も高く、次いで「送迎サービスがあること」が 61.6%、「事業所の療育方針に共感できること」が 53.7%であった。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「保護者の悩みに対応してくれること」「自宅から近いこと」の割合は低くなる傾向がみられた。

地域別にみると、『忠生地域』『鶴川地域』は他の地域よりも「送迎サービスがあること」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど「送迎サービスがあること」の割合が高くなる傾向がみられた。

【単純集計】





【クロス集計】

	回答数	子どもが行きたいと思えること	送迎サービスがあること	事業所の療育方針に共感できること	希望する療育プログラムがあること	保護者の悩みに対応してくれること	自宅から近いこと	すぐに利用できること	長時間預かってもらえること	地域との交流の機会があること	その他	特に重視している点はない	無回答
全体	646	77.2	61.6	53.7	50.2	48.1	44.7	35.9	24.9	4.6	8.4	0.0	0.3
本人の年齢別	0～2歳	10	40.0	30.0	50.0	60.0	70.0	80.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3～5歳	152	70.4	38.2	56.6	57.2	51.3	59.2	46.1	4.6	9.9	0.0	0.0
	6～8歳	158	81.0	68.4	60.1	55.7	48.1	49.4	38.0	24.1	3.2	7.0	0.0
	9～11歳	153	81.7	76.5	47.7	49.7	49.0	34.6	28.8	30.7	3.9	10.5	0.0
	12～14歳	96	79.2	69.8	51.0	39.6	46.9	35.4	34.4	33.3	4.2	8.3	0.0
	15～17歳	74	77.0	58.1	52.7	36.5	39.2	33.8	21.6	14.9	10.8	5.4	0.0
地域別	町田地域	151	79.5	54.3	51.0	47.0	43.7	46.4	35.8	23.8	1.3	9.3	0.0
	忠生地域	117	79.5	74.4	53.8	47.9	48.7	36.8	32.5	28.2	4.3	6.8	0.0
	南地域	206	74.3	55.3	58.7	51.9	51.0	50.5	37.4	24.3	3.9	8.7	0.0
	鶴川地域	87	79.3	70.1	47.1	51.7	46.0	37.9	31.0	28.7	8.0	8.0	0.0
	堺地域	82	75.6	63.4	54.9	52.4	50.0	45.1	43.9	20.7	9.8	8.5	0.0
障害種別	身体	58	62.1	77.6	44.8	37.9	48.3	37.9	25.9	32.8	5.2	17.2	0.0
	知的	304	75.3	79.3	54.9	43.4	45.4	39.1	30.3	34.2	5.3	10.9	0.0
	精神	26	84.6	65.4	34.6	46.2	61.5	26.9	30.8	30.8	3.8	3.8	0.0
	自立	13	76.9	61.5	38.5	30.8	53.8	61.5	23.1	23.1	7.7	7.7	0.0
	難病	10	60.0	70.0	50.0	30.0	60.0	40.0	50.0	50.0	10.0	10.0	0.0
	高次脳機能障害	2	100.0	50.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	発達	474	79.1	62.9	54.2	51.9	48.3	44.1	37.1	24.9	3.6	7.6	0.0
	医療的ケアを受けている	52	71.2	71.2	44.2	36.5	40.4	51.9	34.6	44.2	1.9	13.5	0.0
	視覚障害	3	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0
	聴覚障害	8	50.0	75.0	50.0	37.5	50.0	50.0	37.5	37.5	0.0	12.5	0.0
重度心身障害	104	65.4	85.6	56.7	35.6	47.1	33.7	32.7	46.2	8.7	15.4	0.0	
世帯構成別	ひとり親世帯	67	79.1	62.7	43.3	40.3	41.8	41.8	40.3	29.9	7.5	9.0	0.0
	核家族世帯	516	76.4	59.5	55.0	51.2	47.9	45.2	36.4	24.8	4.7	8.5	0.0
	三世帯世帯	56	83.9	80.4	55.4	50.0	57.1	48.2	26.8	21.4	1.8	5.4	0.0
サービス	利用している	646	77.2	61.6	53.7	50.2	48.1	44.7	35.9	24.9	4.6	8.4	0.0
	利用していない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立状況	「全部介助」が必要な動作が0～2個	306	81.7	55.6	49.0	52.9	47.1	40.8	33.0	17.0	4.6	5.2	0.0
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	276	78.3	65.6	59.1	48.6	51.1	48.9	38.4	29.7	4.0	9.8	0.0
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	64	51.6	73.4	53.1	43.8	40.6	45.3	39.1	42.2	7.8	17.2	0.0

③ 支援や福祉サービスに関する情報の入手先

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 32. 支援や福祉サービスに関する情報をどこから得ていますか。あてはまるものを全てお選びください。【あてはまるもの全てに○】

支援や福祉サービスに関する情報の入手先について、全体で見ると「家族や友人・知人」が41.4%と最も高く、次いで「ホームページやアプリなど」が38.9%、「在籍している保育園・幼稚園などや学校」が32.3%であった。「子ども発達センター」は26.1%であった。

年齢別にみると、本人の年齢が若いほど「ホームページやアプリなど」の割合が高くなる傾向がみられた。

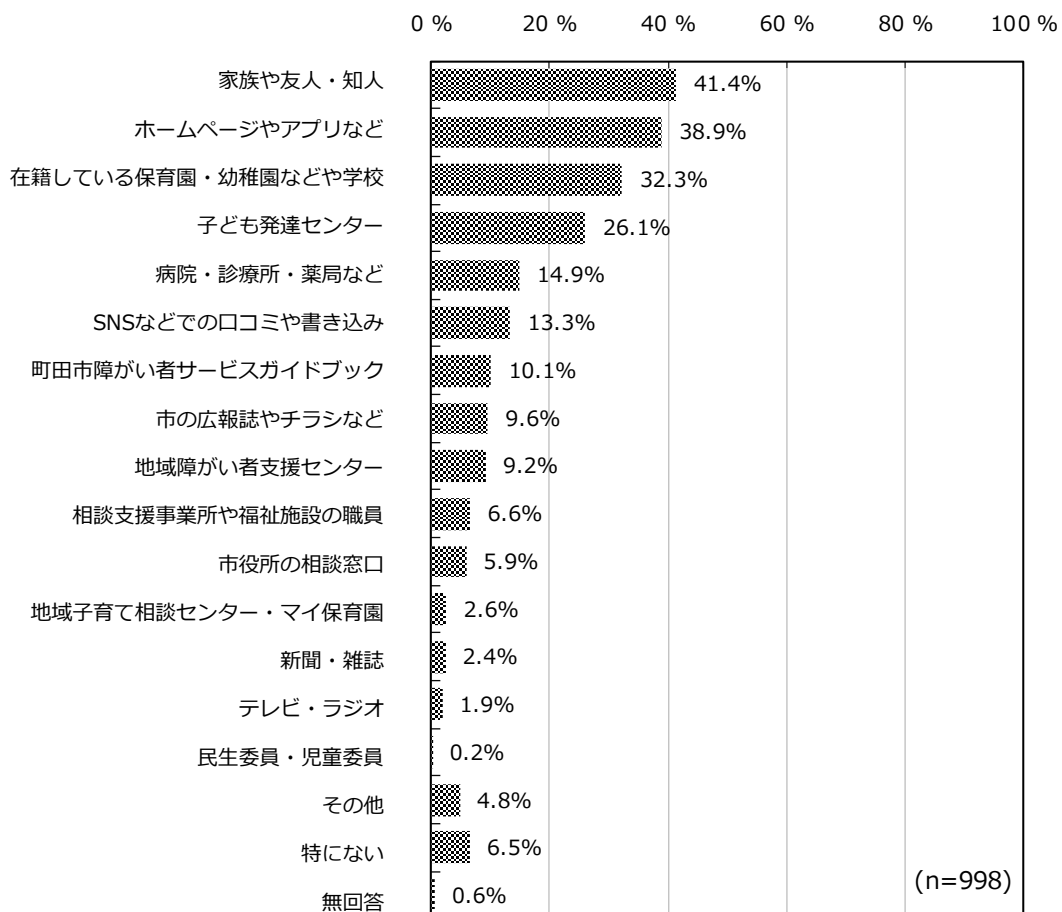
地域別にみると、『南地域』は他の地域よりも「在籍している保育園・幼稚園などや学校」の割合が低かった。

障害種別にみると、『精神』『難病』は他の種別よりも「在籍している保育園・幼稚園などや学校」の割合が低かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は他の世帯よりも「家族や友人・知人」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用していない』は『利用している』よりも「特にない」の割合が高かった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	家族や友人・知人	ホームページやアプリなど	在籍している保育園・幼稚園などや学校	子ども発達センター	病院・診療所・薬局など	SNSなどでの口コミや書き込み	町田市障がい者サービスガイドブック	市の広報誌やチラシなど	地域障がい者支援センター	相談支援事業所や福祉施設の職員	市役所の相談窓口	地域子育て相談センター・マイ保育園	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	民生委員・児童委員	その他	特にない	無回答	
全体	998	41.4	38.9	32.3	26.1	14.9	13.3	10.1	9.6	9.2	6.6	5.9	2.6	2.4	1.9	0.2	4.8	6.5	0.6	
本人の年齢別	0～2歳	24	29.2	62.5	20.8	29.2	33.3	12.5	0.0	0.0	8.3	4.2	12.5	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	3～5歳	247	27.5	43.7	30.4	56.3	13.0	17.4	6.5	6.5	6.1	4.0	7.7	4.9	2.0	1.6	0.0	4.9	3.2	0.4
	6～8歳	195	46.7	46.2	25.6	35.4	16.4	18.5	8.2	8.2	8.7	3.6	5.6	1.5	0.0	1.0	0.0	5.1	4.1	0.5
	9～11歳	189	49.2	34.9	30.2	16.9	16.4	11.1	10.6	9.0	10.6	8.5	5.3	2.6	1.1	2.1	0.0	5.3	8.5	1.1
	12～14歳	161	46.6	34.8	39.1	6.2	9.9	6.8	13.0	10.6	14.3	9.3	6.8	1.2	2.5	1.2	0.0	5.0	6.2	0.6
	15～17歳	174	43.1	29.3	40.2	1.7	17.8	8.0	14.4	17.2	9.8	9.2	3.4	0.6	7.5	3.4	1.1	4.0	12.6	0.6
地域別	町田地域	227	38.8	41.0	36.6	25.1	14.5	10.1	11.9	10.1	5.3	6.2	4.0	1.8	2.2	1.8	0.9	6.2	4.4	0.4
	忠生地域	182	44.5	32.4	36.3	22.0	17.6	14.8	9.9	13.2	12.6	7.1	8.2	1.6	3.3	2.7	0.0	3.8	9.3	0.0
	南地域	297	42.4	39.7	24.6	31.0	15.2	15.8	9.1	7.1	7.4	6.7	7.4	3.4	2.4	1.0	0.0	3.0	5.4	1.0
	鶴川地域	157	37.6	36.9	38.2	27.4	13.4	12.7	12.1	8.9	14.0	8.3	6.4	3.2	1.3	2.5	0.0	5.7	8.9	0.6
	堺地域	128	43.8	44.5	28.9	21.1	13.3	11.7	7.8	10.2	8.6	3.9	1.6	3.1	2.3	1.6	0.0	7.0	5.5	0.8
障害種別	身体	127	41.7	33.1	28.3	9.4	37.8	9.4	19.7	7.9	14.2	12.6	4.7	0.8	1.6	1.6	0.0	6.3	8.7	0.8
	知的	422	55.5	29.6	41.7	17.1	15.9	7.3	17.1	11.6	13.5	11.1	7.1	0.5	2.1	1.9	0.2	5.7	6.2	0.9
	精神	64	34.4	45.3	18.8	7.8	26.6	18.8	10.9	7.8	6.3	3.1	7.8	3.1	7.8	4.7	0.0	4.7	12.5	0.0
	自立	31	45.2	25.8	25.8	3.2	22.6	9.7	19.4	12.9	6.5	6.5	6.5	3.2	6.5	3.2	3.2	0.0	9.7	0.0
	難病	17	76.5	23.5	17.6	11.8	41.2	23.5	11.8	11.8	5.9	17.6	0.0	0.0	5.9	5.9	0.0	5.9	5.9	0.0
	高次脳機能障害	2	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	42.3	40.6	32.4	28.0	15.2	14.1	9.8	9.7	9.4	6.4	6.0	3.3	2.4	2.2	0.1	4.6	5.4	0.4
	医療的ケアを受けている	73	38.4	30.1	27.4	16.4	31.5	20.5	9.6	8.2	8.2	13.7	5.5	1.4	2.7	2.7	0.0	9.6	11.0	0.0
	視覚障害	9	55.6	33.3	55.6	11.1	33.3	11.1	11.1	0.0	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
	聴覚障害	35	37.1	37.1	34.3	0.0	34.3	2.9	14.3	14.3	8.6	8.6	2.9	2.9	2.9	2.9	0.0	5.7	8.6	2.9
	重度心身障害	126	62.7	25.4	46.8	15.1	28.6	7.1	27.0	12.7	19.8	25.4	10.3	0.0	2.4	1.6	0.0	5.6	2.4	0.0
世帯構成別	ひとり親世帯	120	35.0	35.8	32.5	17.5	15.8	12.5	11.7	8.3	10.0	8.3	6.7	2.5	2.5	1.7	1.7	7.5	11.7	0.0
	核家族世帯	765	42.0	39.5	32.7	27.3	13.9	13.6	9.5	9.4	8.8	6.5	5.9	2.5	1.8	1.8	0.0	4.6	5.5	0.5
	三世帯世帯	98	44.9	36.7	28.6	27.6	20.4	10.2	11.2	13.3	10.2	4.1	6.1	3.1	6.1	2.0	0.0	3.1	8.2	2.0
サービス	利用している	839	44.9	40.0	33.3	30.0	15.9	14.2	11.0	9.8	9.9	7.7	6.1	2.9	1.8	1.5	0.1	4.8	4.1	0.2
	利用していない	147	23.1	33.3	27.9	3.4	9.5	8.8	6.1	9.5	4.8	0.0	4.8	0.7	6.1	3.4	0.7	4.8	19.0	1.4
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	35.8	39.4	29.2	18.5	12.8	13.2	6.1	10.5	7.3	3.1	4.4	2.4	2.6	1.5	0.4	4.8	9.4	0.9
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	47.3	39.5	36.3	37.1	14.5	13.2	12.1	9.1	10.2	7.5	7.0	2.7	1.9	2.4	0.0	4.3	3.2	0.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	51.9	32.1	34.6	25.9	30.9	14.8	28.4	6.2	17.3	25.9	11.1	3.7	3.7	2.5	0.0	7.4	2.5	0.0

(%)

④ 障害児通所受給者証の所持状況

問 33. お子さまは、「障害児通所受給者証」をお持ちですか。 【○は一つだけ】

障害児通所受給者証の所持状況について、今回調査は「持っている」が69.6%、「持っていない」が29.8%であり、前回調査よりも「持っている」の割合が増加した。

年齢別にみると、『6～8歳』『9～11歳』は他の年齢よりも「持っている」の割合が高かった。

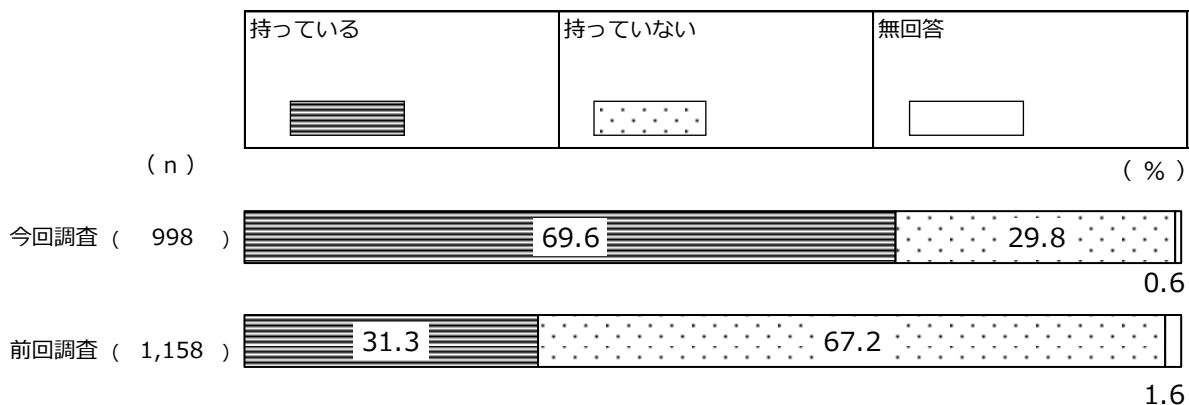
地域別にみると、『鶴川地域』は他の地域よりも「持っている」の割合が低かった。

障害種別にみると、『精神』『聴覚障害』は他の種別よりも「持っている」の割合が低かった。

世帯構成別にみると、『核家族世帯』は他の世帯よりも「持っている」の割合が高かった。

自立状況にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど「持っている」の割合が高くなる傾向がみられた。

【前回調査との比較】



【クロス集計】

		回 答 数	持 っ て い る	持 っ て い な い	無 回 答
全体		998	69.6	29.8	0.6 (%)
本 人 の 年 齢 別	0～2歳	24	50.0	50.0	0.0
	3～5歳	247	62.3	36.4	1.2
	6～8歳	195	83.1	16.9	0.0
	9～11歳	189	84.7	14.8	0.5
	12～14歳	161	70.2	29.2	0.6
	15～17歳	174	51.1	48.3	0.6
地 域 別	町田地域	227	71.8	28.2	0.0
	忠生地域	182	70.9	29.1	0.0
	南地域	297	71.0	27.9	1.0
	鶴川地域	157	58.0	40.1	1.9
	堺地域	128	75.0	25.0	0.0
障 害 種 別	身体	127	52.8	46.5	0.8
	知的	422	76.3	23.0	0.7
	精神	64	46.9	53.1	0.0
	自立	31	58.1	41.9	0.0
	難病	17	64.7	35.3	0.0
	高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0
	発達	672	77.1	22.2	0.7
	医療的ケアを受けている	73	78.1	21.9	0.0
	視覚障害	9	66.7	33.3	0.0
	聴覚障害	35	31.4	65.7	2.9
	重度心身障害	126	84.9	15.1	0.0
世 帯 構 成 別	ひとり親世帯	120	66.7	33.3	0.0
	核家族世帯	765	70.5	28.9	0.7
	三世帯世帯	98	67.3	31.6	1.0
サ ー ビ ス	利用している	839	78.2	21.5	0.4
	利用していない	147	23.8	75.5	0.7
自 立 状 況 別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	62.4	36.9	0.7
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	76.1	23.7	0.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	88.9	9.9	1.2

⑤ 障害児通所支援サービスの満足度

【問 33 で「1. 持っている」を選択した方にお伺いいたします】  
 問 34. 現在利用している障害児通所支援サービスの満足度をお選びください。【○は一つだけ】

障害児通所支援サービスの満足度について、今回調査は「満足している」が 48.1%であり、前回調査よりも「満足している」の割合が増加した。

年齢別にみると、『3～5歳』は他の年齢よりも「満足している」の割合が高かった。

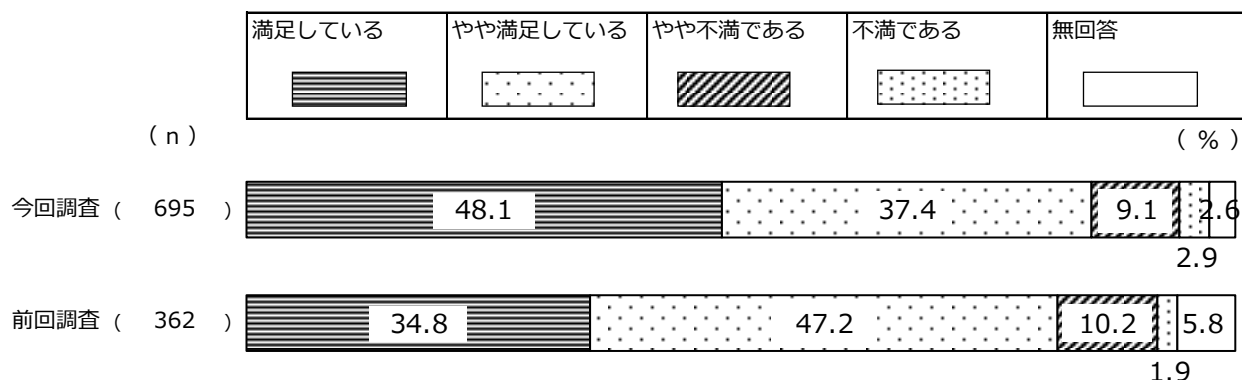
地域別にみると、『南地域』は他の地域よりも「満足している」の割合が低かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は『核家族世帯』よりも「満足している」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「満足している」の割合が高かった。

自立状況にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど「満足している」の割合が高くなる傾向がみられた。

【前回調査との比較】



【クロス集計】

	回答数	満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	無回答	
全体	695	48.1	37.4	9.1	2.9	2.6 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	12	41.7	50.0	8.3	0.0	0.0
	3～5歳	154	62.3	31.8	4.5	0.6	0.6
	6～8歳	162	45.1	38.9	9.9	4.3	1.9
	9～11歳	160	41.3	41.9	10.6	5.0	1.3
	12～14歳	113	44.2	38.9	8.8	3.5	4.4
	15～17歳	89	48.3	32.6	12.4	0.0	6.7
地域別	町田地域	163	51.5	34.4	9.2	3.1	1.8
	忠生地域	129	53.5	37.2	4.7	3.1	1.6
	南地域	211	42.7	41.7	10.0	2.4	3.3
	鶴川地域	91	49.5	36.3	11.0	1.1	2.2
	堺地域	96	46.9	35.4	9.4	5.2	3.1
障害種別	身体	67	44.8	43.3	9.0	3.0	0.0
	知的	322	46.9	38.5	10.6	2.2	1.9
	精神	30	43.3	50.0	6.7	0.0	0.0
	自立	18	61.1	27.8	5.6	0.0	5.6
	難病	11	63.6	27.3	9.1	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	発達	518	46.9	38.4	8.9	3.1	2.7
	医療的ケアを受けている	57	42.1	45.6	5.3	5.3	1.8
	視覚障害	6	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0
	聴覚障害	11	54.5	36.4	9.1	0.0	0.0
重度心身障害	107	51.4	35.5	9.3	3.7	0.0	
世帯構成別	ひとり親世帯	80	46.3	33.8	8.8	6.3	5.0
	核家族世帯	539	48.2	38.8	8.5	2.2	2.2
	三世帯世帯	66	50.0	33.3	10.6	4.5	1.5
サービス	利用している	656	49.7	38.6	8.4	2.3	1.1
	利用していない	35	20.0	20.0	17.1	14.3	28.6
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	340	46.8	35.0	9.7	4.4	4.1
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	283	48.1	41.7	8.1	1.1	1.1
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	72	54.2	31.9	9.7	2.8	1.4

⑥ ケアプラン作成状況

問 35. サービス等利用計画（ケアプラン）の作成について、あてはまるものをお選びください。  
【○は一つだけ】

ケアプラン作成状況について、今回調査は「相談支援事業所で作成した」が 72.9%と最も高く、前回調査より増加した。次いで「保護者がセルフプランを作成した」が 7.5%であり、前回調査よりも減少した。

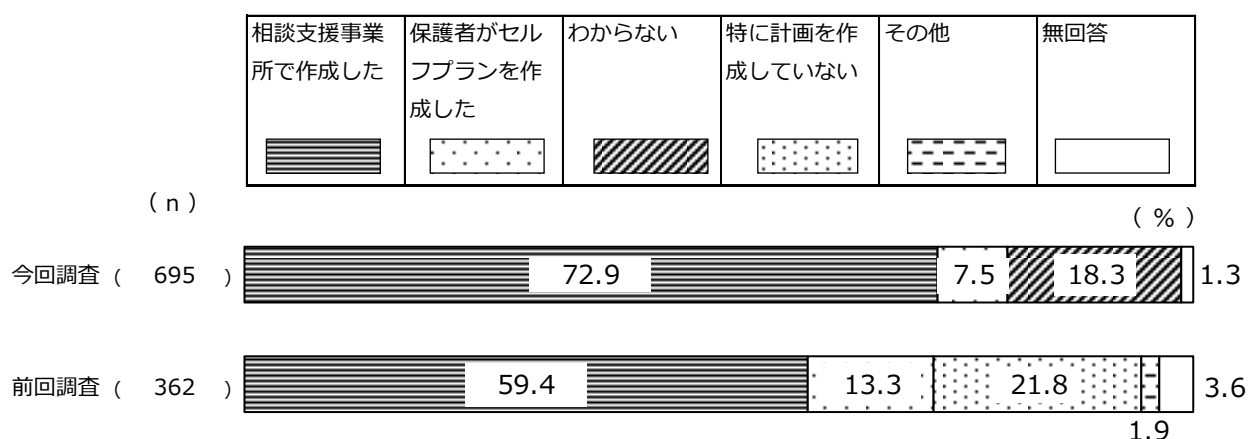
本人の年齢別にみると、『3～5歳』は他の年齢よりも「相談支援事業所で作成した」の割合が高かった。

地域別にみると、『堺地域』は他の地域よりも「相談支援事業所で作成した」の割合が高かった。

障害種別にみると、『精神』は他の種別よりも「保護者がセルフプランを作成した」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「相談支援事業所で作成した」の割合が高かった。

【前回調査との比較】



※前回調査では「特に計画を作成していない」「その他」の選択肢があり、「わからない」の選択肢がなかった。今回調査では「わからない」の選択肢を追加し、「特に計画を作成していない」「その他」の選択肢を削除した。（「相談支援事業所で作成した」「保護者がセルフプランを作成した」は変更なし）



## 【クロス集計】

	回 答 数	相 談 支 援 事 業 所 で 作 成 し た	保 護 者 が セ ル フ プ ラ ン を 作 成 し た	わ か ら な い	無 回 答
全体	695	72.9	7.5	18.3	1.3
本人の年齢別					
0～2歳	12	58.3	25.0	16.7	0.0
3～5歳	154	82.5	3.2	13.6	0.6
6～8歳	162	80.2	8.0	10.5	1.2
9～11歳	160	75.6	7.5	16.9	0.0
12～14歳	113	61.9	10.6	24.8	2.7
15～17歳	89	56.2	7.9	32.6	3.4
地域別					
町田地域	163	73.6	8.6	17.2	0.6
忠生地域	129	68.2	7.0	24.8	0.0
南地域	211	72.5	5.7	19.4	2.4
鶴川地域	91	71.4	11.0	15.4	2.2
堺地域	96	82.3	6.3	10.4	1.0
障害種別					
身体	67	64.2	7.5	26.9	1.5
知的	322	70.5	6.5	21.7	1.2
精神	30	60.0	23.3	16.7	0.0
自立	18	61.1	5.6	27.8	5.6
難病	11	63.6	0.0	36.4	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0
発達	518	73.9	8.5	16.2	1.4
医療的ケアを受けている	57	73.7	7.0	17.5	1.8
視覚障害	6	66.7	0.0	33.3	0.0
聴覚障害	11	81.8	0.0	18.2	0.0
重度心身障害	107	72.9	8.4	17.8	0.9
世帯構成別					
ひとり親世帯	80	70.0	3.8	26.3	0.0
核家族世帯	539	73.3	8.3	16.9	1.5
三世帯世帯	66	71.2	4.5	22.7	1.5
サービス					
利用している	656	74.2	7.9	17.2	0.6
利用していない	35	45.7	0.0	40.0	14.3
自立状況別					
「全部介助」が必要な動作が0～2個	340	70.9	7.6	19.4	2.1
「全部介助」が必要な動作が3～6個	283	75.3	7.8	16.3	0.7
「全部介助」が必要な動作が7～10個	72	73.6	5.6	20.8	0.0

⑦ 相談支援事業者によるサービス等利用計画の満足度

【問 35 で「1. 相談支援事業所で作成した」を選択した方にお伺いいたします】  
 問 36. 現在の相談支援事業者によるサービス等利用計画の満足度についてお選びください。  
 【○は一つだけ】

現在の相談支援事業者によるサービス等利用計画の満足度について、今回調査は「満足している」が 60.2%であり、前回調査よりも「満足している」の割合が増加した。

年齢別にみると、『3～5 歳』は他の年齢よりも「満足している」の割合が高かった。

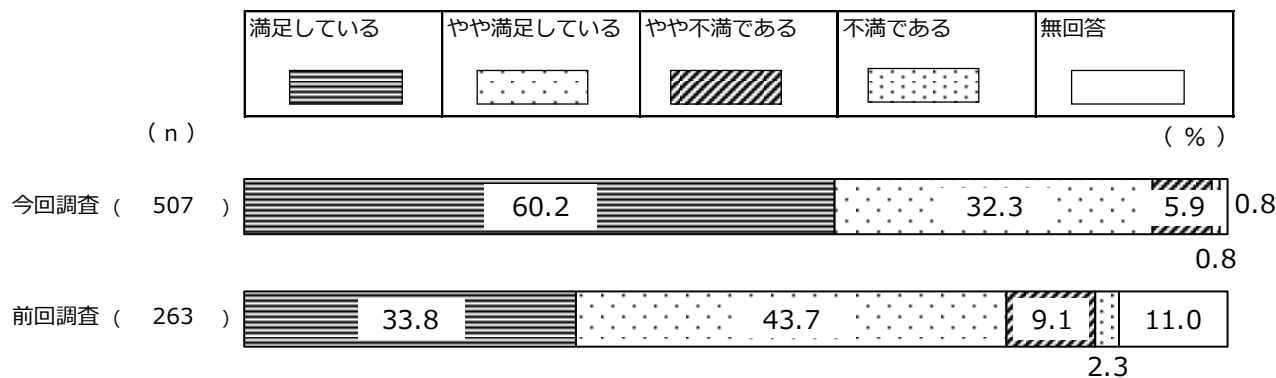
地域別にみると、『南地域』は他の地域よりも「満足している」の割合が低かった。

障害種別にみると、『医療的ケアを受けている』は他の種別よりも「満足している」の割合が低かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は他の世帯よりも「満足している」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「満足している」の割合が高かった。

【前回調査との比較】



## 【クロス集計】

	回答数	満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	無回答	
全体	507	60.2	32.3	5.9	0.8	0.8 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	7	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0
	3～5歳	127	70.9	26.8	2.4	0.0	0.0
	6～8歳	130	57.7	36.9	4.6	0.8	0.0
	9～11歳	121	53.7	32.2	11.6	1.7	0.8
	12～14歳	70	60.0	31.4	5.7	1.4	1.4
	15～17歳	50	56.0	34.0	6.0	0.0	4.0
地域別	町田地域	120	61.7	30.0	7.5	0.8	0.0
	忠生地域	88	67.0	25.0	5.7	2.3	0.0
	南地域	153	52.9	37.9	7.2	0.7	1.3
	鶴川地域	65	61.5	32.3	6.2	0.0	0.0
	堺地域	79	63.3	34.2	0.0	0.0	2.5
障害種別	身体	43	74.4	23.3	2.3	0.0	0.0
	知的	227	59.0	32.6	6.6	0.9	0.9
	精神	18	50.0	44.4	5.6	0.0	0.0
	自立	11	54.5	36.4	9.1	0.0	0.0
	難病	7	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達	383	60.3	31.6	6.3	1.0	0.8
	医療的ケアを受けている	42	52.4	38.1	4.8	4.8	0.0
	視覚障害	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚障害	9	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
重度心身障害	78	64.1	32.1	2.6	1.3	0.0	
世帯構成別	ひとり親世帯	56	53.6	37.5	3.6	5.4	0.0
	核家族世帯	395	61.3	32.4	5.3	0.3	0.8
	三世帯世帯	47	57.4	27.7	12.8	0.0	2.1
サービス	利用している	487	61.2	32.4	5.3	0.6	0.4
	利用していない	16	31.3	37.5	18.8	6.3	6.3
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	241	59.3	30.7	7.9	0.8	1.2
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	213	59.6	34.7	4.2	0.9	0.5
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	53	66.0	30.2	3.8	0.0	0.0

⑧ 福祉サービスを利用するときに困ったこと

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 37. 福祉サービスを利用するときに、困ったことがあればお選びください。

【あてはまるもの全てに○】

福祉サービスを利用するときに困ったこととして、全体でみると「どの事業者が良いのかわからない（事業者の情報が不十分）」が最も高く45.1%、次いで「どんなサービスがあるのかわからなかった」が42.1%であった。「特に困ったことはない」は24.2%であった。

年齢別にみると、『15～17 歳』は他の年齢よりも「どの事業者が良いのかわからない（事業者の情報が不十分）」の割合が低かった。

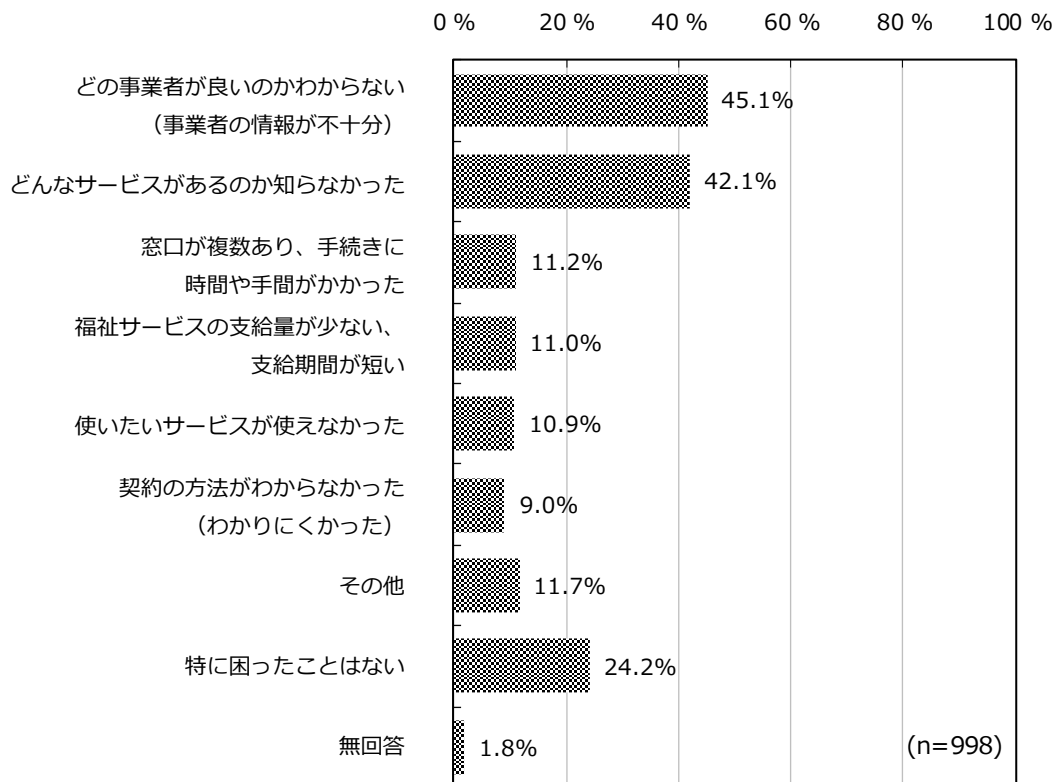
障害種別にみると、『聴覚障害』は他の種別よりも「どの事業者が良いのかわからない（事業者の情報が不十分）」の割合が低かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は他の世帯よりも「どの事業者が良いのかわからない（事業者の情報が不十分）」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「どの事業者が良いのかわからない（事業者の情報が不十分）」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が 0～2 個の場合、他の状況よりも「どの事業者が良いのかわからない（事業者の情報が不十分）」の割合が低かった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	どの情報が不十分か	どんなサービスがあるのか知らない(事業者)	窓口が複数あり、手続きに時間や手間がかかった	が短い	福祉サービスの支給量が少ない、支給期間	使いたいサービスが使えなかった	契約の方法がわからなかった(わかりにくかった)	その他	特に困ったことはない	無回答
全体	998	45.1	42.1	11.2	11.0	10.9	9.0	11.7	24.2	1.8	(%)
本人の年齢別	0～2歳	24	58.3	54.2	16.7	12.5	0.0	25.0	20.8	12.5	0.0
	3～5歳	247	42.1	41.7	15.0	8.1	8.9	8.9	9.7	33.2	1.6
	6～8歳	195	56.4	44.1	12.8	10.3	9.7	13.3	13.8	14.4	1.0
	9～11歳	189	50.3	46.6	8.5	13.2	14.3	9.0	11.1	19.6	1.6
	12～14歳	161	39.8	37.3	11.2	15.5	12.4	7.5	14.9	24.2	3.1
	15～17歳	174	34.5	37.4	6.9	9.8	11.5	4.0	8.6	29.3	2.3
地域別	町田地域	227	43.6	41.0	12.8	10.6	13.2	6.6	11.5	26.0	1.3
	忠生地域	182	43.4	38.5	7.1	8.8	8.8	6.6	8.8	31.9	4.4
	南地域	297	49.2	44.1	12.8	13.5	11.8	10.1	13.1	20.2	0.7
	鶴川地域	157	41.4	45.2	11.5	11.5	6.4	9.6	14.6	20.4	1.9
	堺地域	128	46.9	39.1	10.9	9.4	14.1	14.1	10.2	25.0	0.8
障害種別	身体	127	40.9	41.7	9.4	9.4	10.2	3.1	13.4	21.3	3.1
	知的	422	45.7	41.7	10.2	15.9	12.6	7.3	11.6	22.7	1.7
	精神	64	34.4	45.3	12.5	15.6	20.3	6.3	9.4	20.3	3.1
	自立	31	41.9	45.2	3.2	16.1	12.9	3.2	16.1	19.4	3.2
	難病	17	41.2	47.1	17.6	5.9	5.9	0.0	11.8	17.6	11.8
	高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	発達	672	47.6	43.2	11.9	11.2	11.8	10.0	12.2	21.7	1.9
	医療的ケアを受けている	73	47.9	49.3	11.0	12.3	16.4	8.2	16.4	13.7	4.1
	視覚障害	9	44.4	33.3	0.0	11.1	0.0	11.1	22.2	22.2	0.0
	聴覚障害	35	17.1	34.3	17.1	14.3	5.7	0.0	11.4	34.3	2.9
	重度心身障害	126	54.8	38.1	10.3	24.6	15.9	4.0	7.9	14.3	1.6
世帯構成別	ひとり親世帯	120	36.7	40.8	14.2	11.7	13.3	9.2	13.3	23.3	1.7
	核家族世帯	765	46.4	42.0	10.5	10.6	10.7	8.8	11.5	24.2	1.8
	三世帯世帯	98	44.9	43.9	13.3	12.2	10.2	10.2	11.2	26.5	1.0
サービス	利用している	839	49.3	43.3	11.9	12.4	10.7	9.9	11.7	22.6	1.2
	利用していない	147	22.4	36.7	8.2	4.1	10.9	4.8	12.2	32.7	3.4
自立状況	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	37.8	40.6	10.6	6.6	10.1	9.2	11.6	27.3	2.2
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	53.8	43.8	12.4	16.4	12.1	9.4	12.4	21.2	1.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	54.3	44.4	9.9	16.0	11.1	6.2	9.9	17.3	1.2

⑨ 高校卒業後に利用したい福祉サービス

【お子さまが高校生以上の方にお伺いいたします】

問 38. 高校卒業後に利用したい福祉サービスについて、あてはまるものをお選びください。

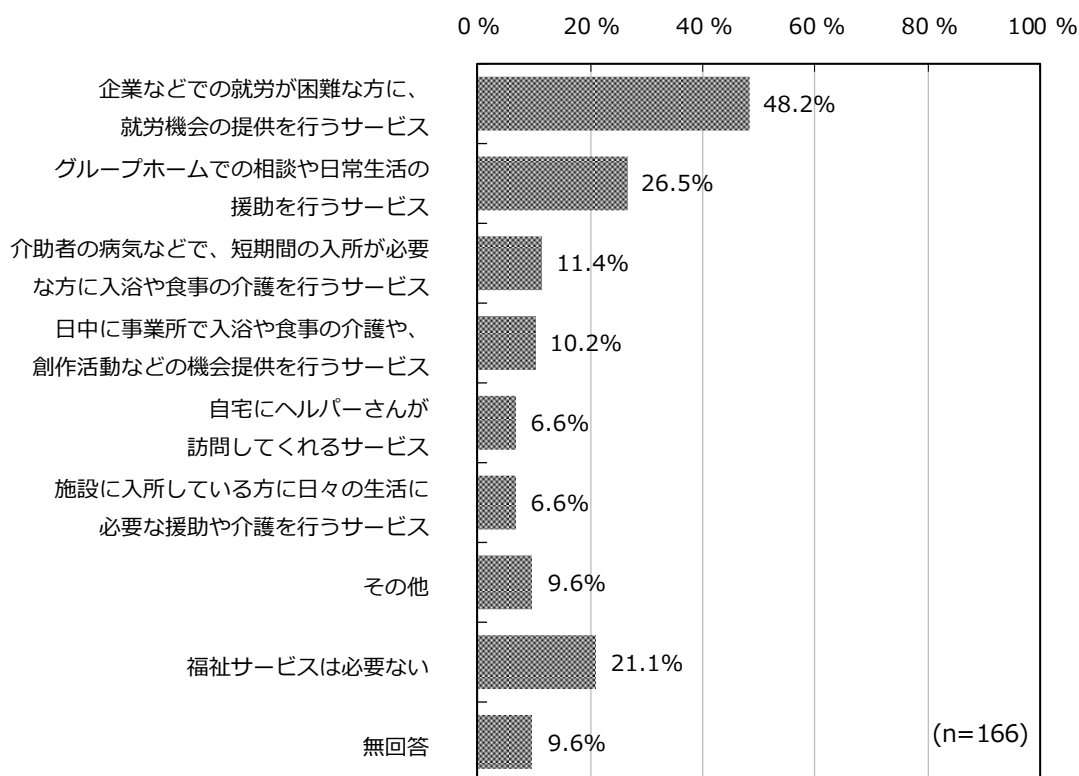
【あてはまるもの全てに○】

高校卒業後に利用したい福祉サービスについて、全体で見ると「企業などでの就労が困難な方に、就労機会の提供を行うサービス」が 48.2%と最も高く、次いで「グループホームでの相談や日常生活の援助を行うサービス」が 26.5%であった。

地域別にみると、『鶴川地域』は他の地域よりも「企業などでの就労が困難な方に、就労機会の提供を行うサービス」の割合が低かった。

サービス利用状況別にみると、『利用していない』は『利用している』よりも「福祉サービスは必要ない」の割合が高かった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	企業の提供を行うサービス	グループホームでの就業が困難な方に、就業機会	介護者の病気などで、短期間の介護や日常生活の援助	活動などの機会提供を行うサービス	日中に事業所で入浴や食事の介護や、創作	自宅にヘルパーさんが訪問してくれるサービス	施設や介護を行うサービス	施入所している方に日々の生活に必要な	その他	福祉サービスは必要ない	無回答
全体	166	48.2	26.5	11.4	10.2	6.6	6.6	9.6	21.1	9.6	(%)	
本人の年齢別	0～2歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	3～5歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	6～8歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	9～11歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	12～14歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	15～17歳	163	47.9	26.4	11.7	10.4	6.7	6.7	9.8	20.9	9.8	
地域別	町田地域	35	48.6	34.3	14.3	11.4	11.4	2.9	5.7	17.1	11.4	
	忠生地域	40	47.5	22.5	7.5	15.0	7.5	7.5	20.0	17.5	7.5	
	南地域	40	55.0	30.0	17.5	12.5	7.5	12.5	7.5	17.5	7.5	
	鶴川地域	31	38.7	29.0	3.2	3.2	3.2	6.5	3.2	29.0	9.7	
	堺地域	18	50.0	11.1	16.7	5.6	0.0	0.0	11.1	27.8	16.7	
障害種別	身体	30	36.7	10.0	13.3	6.7	10.0	6.7	13.3	26.7	13.3	
	知的	109	44.0	34.9	16.5	14.7	7.3	10.1	11.9	19.3	9.2	
	精神	27	48.1	25.9	11.1	3.7	11.1	7.4	7.4	18.5	11.1	
	自立	26	50.0	38.5	15.4	15.4	15.4	11.5	3.8	15.4	11.5	
	難病	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
	発達	97	54.6	24.7	11.3	10.3	7.2	7.2	10.3	14.4	9.3	
	医療的ケアを受けている	11	81.8	27.3	9.1	18.2	18.2	9.1	0.0	0.0	9.1	
	視覚障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
	聴覚障害	10	50.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	40.0	0.0	
重度心身障害	22	22.7	45.5	36.4	45.5	9.1	22.7	22.7	9.1	0.0		
世帯構成別	ひとり親世帯	29	51.7	20.7	6.9	10.3	3.4	6.9	6.9	24.1	10.3	
	核家族世帯	115	50.4	28.7	13.0	9.6	7.8	6.1	11.3	18.3	8.7	
	三世帯世帯	19	36.8	21.1	10.5	15.8	5.3	5.3	5.3	26.3	15.8	
サービス	利用している	91	53.8	40.7	18.7	14.3	8.8	11.0	13.2	6.6	8.8	
	利用していない	71	40.8	8.5	2.8	5.6	2.8	1.4	5.6	39.4	11.3	
自立状況	「全部介助」が必要な動作が0～2個	129	52.7	18.6	0.8	1.6	2.3	2.3	7.0	26.4	11.6	
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	32	37.5	56.3	43.8	40.6	15.6	15.6	21.9	0.0	3.1	
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	5	0.0	40.0	80.0	40.0	60.0	60.0	0.0	20.0	0.0	

## 6. 調査問共通設問

---

### ① 今後の町田市の障がい児施策優先度（全体）

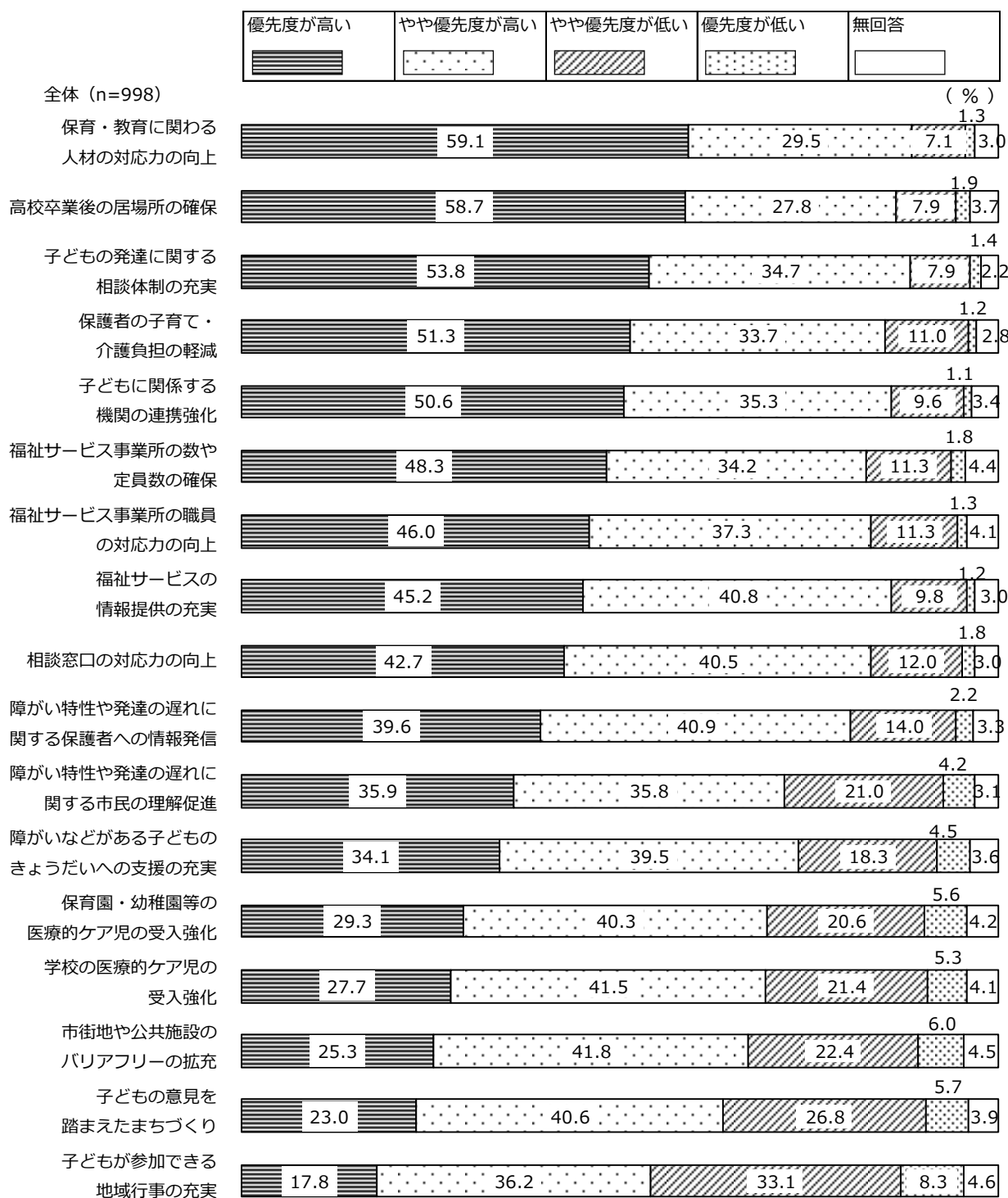
【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

-----  
今後の町田市の障がい児施策として、「優先度が高い」施策は「保育・教育に関わる人材の対応力の向上」が 59.1%と最も高く、次いで「高校卒業後の居場所の確保」が 58.7%であった。  
-----



【単純集計（全項目）】



※項目名は、調査票提示順ではなく「優先度が高い」の割合が高い順に並び替え

② 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (福祉サービスの情報提供の充実)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

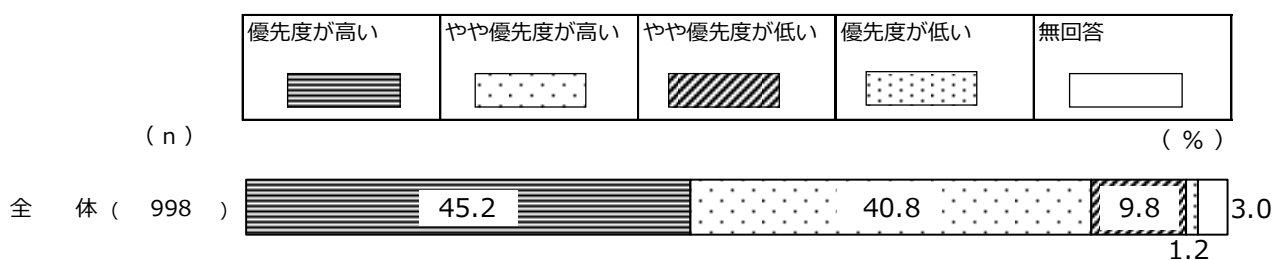
問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

「福祉サービスの情報提供の充実」の施策について、全体でみると「優先度が高い」が 45.2%、「やや優先度が高い」が 40.8%であった。

地域別にみると、『堺地域』は他の地域よりも「優先度が高い」が低かった。

クロス集計結果でも、傾向の違いはみられなかった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	45.2	40.8	9.8	1.2	3.0 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	50.0	41.7	4.2	0.0	4.2
	3～5歳	247	42.5	42.9	9.7	1.6	3.2
	6～8歳	195	45.6	42.6	8.7	1.5	1.5
	9～11歳	189	50.3	36.5	9.5	1.1	2.6
	12～14歳	161	42.2	46.0	6.8	0.6	4.3
	15～17歳	174	44.3	36.8	14.4	1.1	3.4
地域別	町田地域	227	47.6	40.1	8.8	0.9	2.6
	忠生地域	182	43.4	40.7	11.0	0.0	4.9
	南地域	297	47.1	37.4	9.8	2.0	3.7
	鶴川地域	157	51.0	37.6	8.9	0.6	1.9
	堺地域	128	33.6	53.1	10.2	2.3	0.8
障害種別	身体	127	48.0	36.2	11.8	0.8	3.1
	知的	422	44.1	42.4	10.9	0.7	1.9
	精神	64	51.6	32.8	9.4	0.0	6.3
	自立	31	48.4	25.8	19.4	0.0	6.5
	難病	17	41.2	41.2	11.8	0.0	5.9
	高次脳機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	発達	672	45.7	41.2	8.8	1.3	3.0
	医療的ケアを受けている	73	41.1	41.1	15.1	1.4	1.4
	視覚障害	9	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	聴覚障害	35	48.6	28.6	20.0	0.0	2.9
重度心身障害	126	51.6	34.1	12.7	0.0	1.6	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	42.5	43.3	9.2	2.5	2.5
	核家族世帯	765	45.6	40.0	9.8	1.2	3.4
	三世帯世帯	98	46.9	40.8	11.2	0.0	1.0
サービス	利用している	839	44.9	41.5	9.8	1.2	2.6
	利用していない	147	46.3	38.1	9.5	1.4	4.8
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	44.0	41.8	9.5	1.3	3.3
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	46.0	39.5	9.9	1.3	3.2
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	49.4	39.5	11.1	0.0	0.0

③ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (子どもの発達に関する相談体制の充実)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

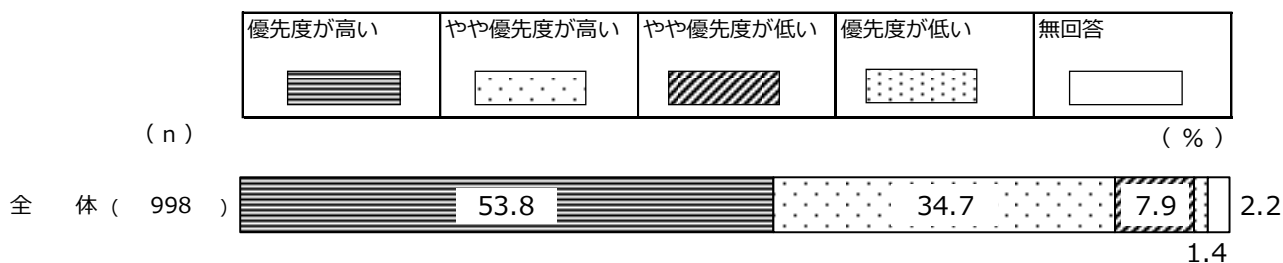
「子どもの発達に関する相談体制の充実」の施策について、全体で見ると「優先度が高い」が53.8%、「やや優先度が高い」が34.7%であった。

年齢別にみると、『15～17歳』は他の年齢よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

障害種別にみると、『精神』『発達』は他の種別よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が7～10個の場合、他の状況よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	53.8	34.7	7.9	1.4	2.2 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	66.7	29.2	4.2	0.0	0.0
	3～5歳	247	57.9	32.4	6.1	1.2	2.4
	6～8歳	195	60.0	32.8	5.1	1.5	0.5
	9～11歳	189	53.4	35.4	7.9	1.6	1.6
	12～14歳	161	48.4	37.9	8.1	1.2	4.3
	15～17歳	174	44.8	36.8	13.8	1.7	2.9
地域別	町田地域	227	54.2	33.0	8.4	1.8	2.6
	忠生地域	182	51.6	37.9	7.7	0.5	2.2
	南地域	297	55.6	33.7	6.1	2.4	2.4
	鶴川地域	157	55.4	33.8	7.6	1.3	1.9
	堺地域	128	51.6	35.2	11.7	0.0	1.6
障害種別	身体	127	41.7	39.4	11.8	2.4	4.7
	知的	422	45.3	41.0	10.4	1.7	1.7
	精神	64	56.3	26.6	14.1	0.0	3.1
	自立	31	48.4	35.5	12.9	0.0	3.2
	難病	17	47.1	29.4	17.6	0.0	5.9
	高次脳機能障害	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	55.4	35.0	6.5	1.3	1.8
	医療的ケアを受けている	73	45.2	37.0	12.3	2.7	2.7
	視覚障害	9	22.2	22.2	55.6	0.0	0.0
	聴覚障害	35	51.4	28.6	11.4	2.9	5.7
重度心身障害	126	40.5	42.9	11.9	2.4	2.4	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	49.2	35.8	10.0	3.3	1.7
	核家族世帯	765	54.0	35.0	7.5	1.0	2.5
	三世帯世帯	98	54.1	33.7	9.2	2.0	1.0
サービス	利用している	839	53.8	35.5	7.6	1.4	1.7
	利用していない	147	56.5	29.3	8.8	1.4	4.1
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	54.5	34.5	7.2	0.7	3.1
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	55.9	33.6	7.3	2.2	1.1
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	39.5	40.7	16.0	2.5	1.2

④ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
(相談窓口の対応力の向上)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

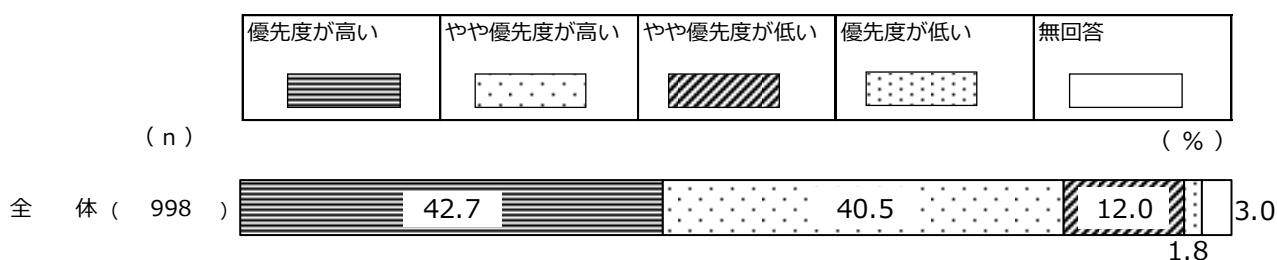
問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

「相談窓口の対応力の向上」の施策について、全体で見ると「優先度が高い」が42.7%、「やや優先度が高い」が40.5%であった。

年齢別にみると、『6～8歳』は他の年齢よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

地域別にみると、『堺地域』は他の地域よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	42.7	40.5	12.0	1.8	3.0 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	62.5	33.3	4.2	0.0	0.0
	3～5歳	247	40.9	40.5	13.4	2.4	2.8
	6～8歳	195	36.9	45.1	12.3	3.6	2.1
	9～11歳	189	45.0	37.0	14.3	1.6	2.1
	12～14歳	161	46.0	42.9	6.2	0.6	4.3
	15～17歳	174	42.5	38.5	13.8	0.6	4.6
地域別	町田地域	227	41.9	41.4	11.9	1.8	3.1
	忠生地域	182	45.1	36.3	13.7	0.5	4.4
	南地域	297	41.8	39.4	13.1	2.4	3.4
	鶴川地域	157	47.8	39.5	8.9	1.9	1.9
	堺地域	128	36.7	48.4	10.9	2.3	1.6
障害種別	身体	127	47.2	39.4	7.9	1.6	3.9
	知的	422	41.9	43.1	11.4	1.4	2.1
	精神	64	43.8	31.3	18.8	1.6	4.7
	自立	31	41.9	38.7	12.9	0.0	6.5
	難病	17	35.3	47.1	5.9	5.9	5.9
	高次脳機能障害	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	42.1	40.5	12.4	1.9	3.1
	医療的ケアを受けている	73	46.6	39.7	11.0	1.4	1.4
	視覚障害	9	66.7	11.1	22.2	0.0	0.0
	聴覚障害	35	51.4	31.4	11.4	0.0	5.7
重度心身障害	126	49.2	38.1	10.3	1.6	0.8	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	45.8	39.2	11.7	1.7	1.7
	核家族世帯	765	42.2	40.4	12.0	2.1	3.3
	三世帯世帯	98	40.8	42.9	13.3	0.0	3.1
サービス	利用している	839	42.8	40.0	12.8	1.9	2.5
	利用していない	147	42.2	43.5	8.2	1.4	4.8
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	41.8	41.8	11.0	1.8	3.5
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	42.7	38.4	14.2	1.6	3.0
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	48.1	40.7	8.6	2.5	0.0

⑤ 今後の町田市の障がい児施策優先度

(障がい特性や発達の遅れに関する市民の理解促進)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

「障がい特性や発達の遅れに関する市民の理解促進」の施策について、全体で見ると「優先度が高い」が35.9%、「やや優先度が高い」が35.8%であった。

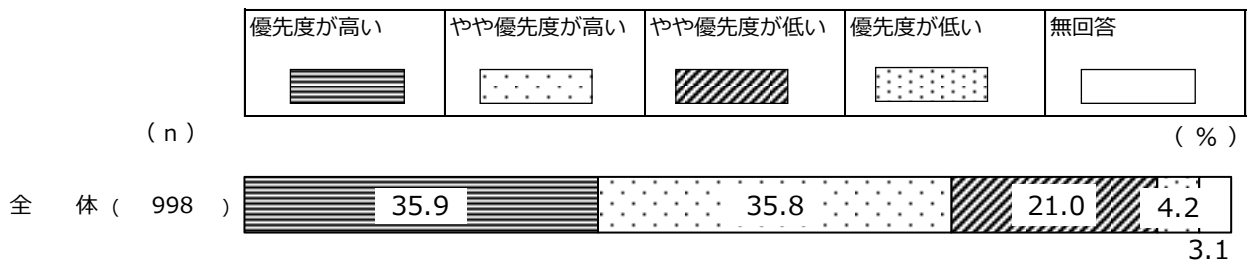
年齢別にみると、『3～5歳』は他の年齢よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

障害種別にみると、『自立』は他の種別よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が少ないほど「優先度が高い」の割合が高くなる傾向がみられた。

【単純集計】





## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	35.9	35.8	21.0	4.2	3.1 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	45.8	29.2	20.8	4.2	0.0
	3～5歳	247	29.6	38.1	25.1	4.0	3.2
	6～8歳	195	32.3	34.9	24.1	7.7	1.0
	9～11歳	189	38.6	34.9	19.0	3.7	3.7
	12～14歳	161	44.1	34.8	15.5	0.6	5.0
	15～17歳	174	36.8	36.8	18.4	4.6	3.4
地域別	町田地域	227	33.9	38.3	19.4	4.4	4.0
	忠生地域	182	37.9	30.8	24.2	3.8	3.3
	南地域	297	38.7	31.3	21.9	5.1	3.0
	鶴川地域	157	33.8	42.0	17.2	3.8	3.2
	堺地域	128	33.6	39.8	22.7	2.3	1.6
障害種別	身体	127	33.1	38.6	18.9	5.5	3.9
	知的	422	37.2	34.1	21.8	3.6	3.3
	精神	64	40.6	32.8	20.3	4.7	1.6
	自立	31	45.2	22.6	22.6	3.2	6.5
	難病	17	35.3	35.3	17.6	5.9	5.9
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	発達	672	36.5	35.0	21.7	4.2	2.7
	医療的ケアを受けている	73	30.1	30.1	26.0	9.6	4.1
	視覚障害	9	0.0	88.9	11.1	0.0	0.0
	聴覚障害	35	28.6	37.1	22.9	8.6	2.9
重度心身障害	126	35.7	35.7	22.2	4.8	1.6	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	39.2	34.2	17.5	7.5	1.7
	核家族世帯	765	34.8	35.3	22.6	3.7	3.7
	三世帯世帯	98	39.8	38.8	15.3	5.1	1.0
サービス	利用している	839	35.2	34.8	22.5	4.5	3.0
	利用していない	147	41.5	40.8	12.9	2.7	2.0
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	37.8	37.1	18.3	3.3	3.5
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	34.4	32.8	23.9	5.9	3.0
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	29.6	40.7	25.9	2.5	1.2

⑥ 今後の町田市の障がい児施策優先度

(障がい特性や発達の遅れに関する保護者への情報発信)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

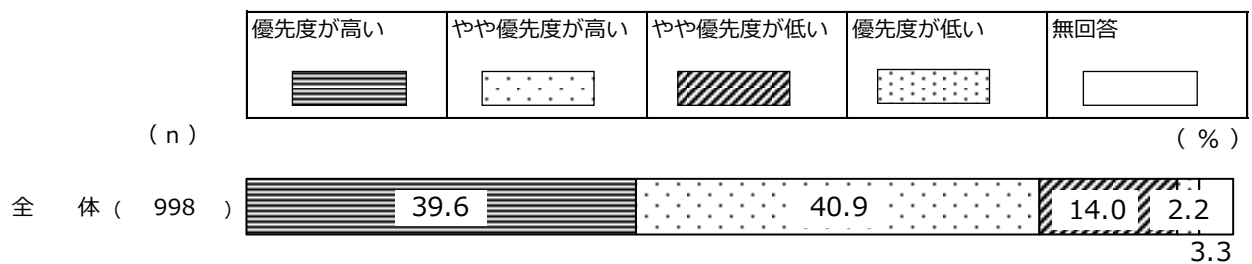
問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

「障がい特性や発達の遅れに関する保護者への情報発信」の施策について、全体で見ると「優先度が高い」が 39.6%、「やや優先度が高い」が 40.9%であった。

年齢別にみると、『15～17 歳』は他の年齢よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

障害種別にみると、『聴覚障害』は他の種別よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	39.6	40.9	14.0	2.2	3.3 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	45.8	45.8	8.3	0.0	0.0
	3～5歳	247	43.7	36.8	14.2	2.0	3.2
	6～8歳	195	37.4	43.1	14.4	2.1	3.1
	9～11歳	189	40.7	39.7	15.3	2.1	2.1
	12～14歳	161	39.8	41.6	13.0	0.6	5.0
	15～17歳	174	33.9	43.7	14.4	4.0	4.0
地域別	町田地域	227	41.4	38.8	14.1	2.6	3.1
	忠生地域	182	39.0	38.5	16.5	2.2	3.8
	南地域	297	39.4	42.8	12.5	1.7	3.7
	鶴川地域	157	41.4	42.0	12.1	1.9	2.5
	堺地域	128	36.7	40.6	17.2	2.3	3.1
障害種別	身体	127	31.5	39.4	18.9	5.5	4.7
	知的	422	35.1	41.0	17.8	2.8	3.3
	精神	64	42.2	42.2	9.4	1.6	4.7
	自立	31	35.5	35.5	16.1	3.2	9.7
	難病	17	41.2	47.1	5.9	0.0	5.9
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	40.8	41.4	13.1	2.2	2.5
	医療的ケアを受けている	73	31.5	34.2	23.3	8.2	2.7
	視覚障害	9	11.1	44.4	44.4	0.0	0.0
	聴覚障害	35	28.6	31.4	31.4	2.9	5.7
	重度心身障害	126	35.7	38.1	19.8	3.2	3.2
世帯構成別	ひとり親世帯	120	37.5	40.8	14.2	3.3	4.2
	核家族世帯	765	40.8	40.3	13.6	2.0	3.4
	三世帯世帯	98	33.7	42.9	18.4	3.1	2.0
サービス	利用している	839	40.5	40.2	14.3	2.1	2.9
	利用していない	147	35.4	44.2	13.6	2.7	4.1
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	40.6	42.9	11.6	1.1	3.9
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	38.4	39.0	16.7	3.5	2.4
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	38.3	35.8	18.5	3.7	3.7

⑦ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (保育・教育に関わる人材の対応力の向上)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

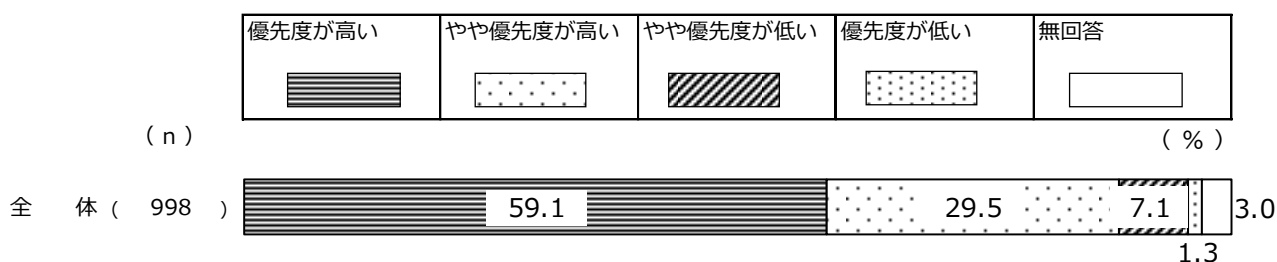
問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

「保育・教育に関わる人材の対応力の向上」の施策について、全体でみると「優先度が高い」が59.1%、「やや優先度が高い」が29.5%であった。

年齢別にみると、『15～17歳』は他の年齢よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

障害種別にみると、『聴覚障害』は他の種別よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	59.1	29.5	7.1	1.3	3.0 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	66.7	29.2	4.2	0.0	0.0
	3～5歳	247	57.9	30.0	7.3	2.0	2.8
	6～8歳	195	64.6	25.6	7.2	1.5	1.0
	9～11歳	189	64.0	24.9	6.3	1.6	3.2
	12～14歳	161	57.1	33.5	4.3	0.6	4.3
	15～17歳	174	50.6	33.9	10.9	0.0	4.6
地域別	町田地域	227	58.6	30.8	7.0	0.9	2.6
	忠生地域	182	57.7	26.9	11.0	1.1	3.3
	南地域	297	59.6	29.0	5.7	2.0	3.7
	鶴川地域	157	58.6	30.6	7.0	0.6	3.2
	堺地域	128	64.1	28.1	5.5	0.8	1.6
障害種別	身体	127	52.8	33.9	7.1	0.8	5.5
	知的	422	54.7	33.4	8.1	0.7	3.1
	精神	64	60.9	18.8	15.6	3.1	1.6
	自立	31	51.6	25.8	19.4	0.0	3.2
	難病	17	52.9	41.2	5.9	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	61.8	28.4	6.3	1.2	2.4
	医療的ケアを受けている	73	65.8	17.8	8.2	2.7	5.5
	視覚障害	9	66.7	11.1	22.2	0.0	0.0
	聴覚障害	35	45.7	37.1	11.4	0.0	5.7
	重度心身障害	126	53.2	35.7	5.6	1.6	4.0
世帯構成別	ひとり親世帯	120	54.2	32.5	7.5	3.3	2.5
	核家族世帯	765	60.0	28.6	7.1	1.0	3.3
	三世帯世帯	98	60.2	28.6	8.2	1.0	2.0
サービス	利用している	839	60.0	29.3	6.6	1.4	2.7
	利用していない	147	56.5	29.9	9.5	0.7	3.4
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	58.9	29.7	7.2	0.9	3.3
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	60.8	28.0	6.7	1.9	2.7
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	53.1	34.6	8.6	1.2	2.5

⑧ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (保育園・幼稚園などの医療的ケア児の受入強化)

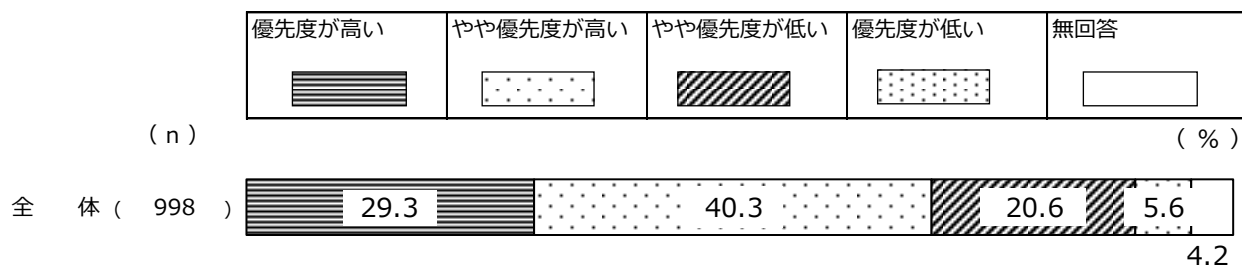
【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【〇はそれぞれに一つずつ】

「保育園・幼稚園などの医療的ケア児の受入強化」の施策について、全体で見ると「優先度が高い」が29.3%、「やや優先度が高い」が40.3%であった。

地域別にみると、『忠生地域』は他の地域よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	29.3	40.3	20.6	5.6	4.2 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	50.0	20.8	25.0	4.2	0.0
	3～5歳	247	31.6	41.3	18.6	5.3	3.2
	6～8歳	195	27.2	43.1	22.1	6.7	1.0
	9～11歳	189	30.7	36.5	20.6	7.9	4.2
	12～14歳	161	27.3	41.6	21.1	3.7	6.2
	15～17歳	174	26.4	40.2	20.7	4.6	8.0
地域別	町田地域	227	30.8	36.6	22.0	6.6	4.0
	忠生地域	182	36.3	35.2	19.2	5.5	3.8
	南地域	297	29.0	40.7	19.9	5.4	5.1
	鶴川地域	157	22.9	47.1	19.1	6.4	4.5
	堺地域	128	25.8	43.0	24.2	3.9	3.1
障害種別	身体	127	37.0	37.0	15.7	4.7	5.5
	知的	422	28.7	40.5	20.6	6.2	4.0
	精神	64	28.1	37.5	23.4	7.8	3.1
	自立	31	29.0	29.0	22.6	6.5	12.9
	難病	17	58.8	35.3	0.0	5.9	0.0
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	29.3	40.5	20.4	6.1	3.7
	医療的ケアを受けている	73	37.0	30.1	15.1	9.6	8.2
	視覚障害	9	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	聴覚障害	35	28.6	34.3	22.9	5.7	8.6
	重度心身障害	126	32.5	35.7	25.4	4.0	2.4
世帯構成別	ひとり親世帯	120	29.2	43.3	17.5	6.7	3.3
	核家族世帯	765	29.3	39.5	21.3	5.2	4.7
	三世帯世帯	98	31.6	38.8	20.4	7.1	2.0
サイバース	利用している	839	30.3	39.1	21.3	5.7	3.6
	利用していない	147	25.2	45.6	18.4	4.8	6.1
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	29.4	39.3	20.9	5.1	5.3
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	28.2	42.2	19.9	6.5	3.2
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	33.3	38.3	22.2	4.9	1.2

⑨ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (学校の医療的ケア児の受入強化)

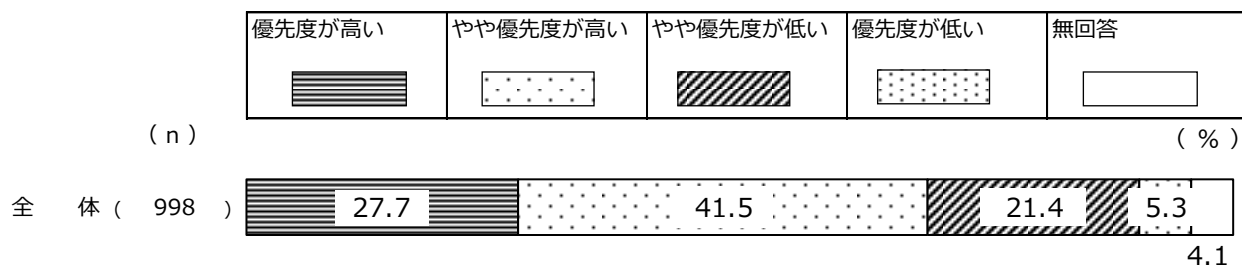
【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【〇はそれぞれに一つずつ】

「学校の医療的ケア児の受入強化」の施策について、全体でみると「優先度が高い」が 27.7%、「やや優先度が高い」が 41.5%であった。

地域別にみると、『忠生地域』は他の地域よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

【単純集計】





## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	27.7	41.5	21.4	5.3	4.1 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	54.2	20.8	20.8	4.2	0.0
	3～5歳	247	29.1	43.7	19.4	3.6	4.0
	6～8歳	195	25.6	41.5	25.6	5.6	1.5
	9～11歳	189	29.1	34.4	23.3	8.5	4.8
	12～14歳	161	26.7	44.7	19.9	3.7	5.0
	15～17歳	174	24.1	44.8	19.0	5.7	6.3
地域別	町田地域	227	28.2	39.6	22.0	6.2	4.0
	忠生地域	182	34.1	36.8	18.1	6.0	4.9
	南地域	297	28.3	40.1	21.5	5.4	4.7
	鶴川地域	157	19.7	51.6	21.0	4.5	3.2
	堺地域	128	26.6	40.6	25.8	3.9	3.1
障害種別	身体	127	37.8	39.4	14.2	5.5	3.1
	知的	422	26.5	43.8	19.4	6.2	4.0
	精神	64	25.0	39.1	21.9	7.8	6.3
	自立	31	22.6	32.3	29.0	6.5	9.7
	難病	17	58.8	35.3	5.9	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	発達	672	27.1	41.5	21.7	5.5	4.2
	医療的ケアを受けている	73	35.6	39.7	16.4	4.1	4.1
	視覚障害	9	22.2	44.4	33.3	0.0	0.0
	聴覚障害	35	34.3	37.1	20.0	2.9	5.7
重度心身障害	126	31.7	45.2	18.3	4.0	0.8	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	29.2	40.8	20.0	6.7	3.3
	核家族世帯	765	27.5	41.6	21.8	4.6	4.6
	三世帯世帯	98	29.6	38.8	20.4	9.2	2.0
サービス	利用している	839	27.9	40.9	22.3	5.4	3.6
	利用していない	147	27.9	44.2	17.7	4.8	5.4
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	26.6	40.4	23.3	4.8	5.0
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	28.5	42.5	18.8	6.5	3.8
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	30.9	44.4	21.0	3.7	0.0

⑩ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (福祉サービス事業所の数や定員数の確保)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

「福祉サービス事業所の数や定員数の確保」の施策について、全体でみると「優先度が高い」が48.3%、「やや優先度が高い」が34.2%であった。

年齢別にみると、『15～17歳』は他の年齢よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

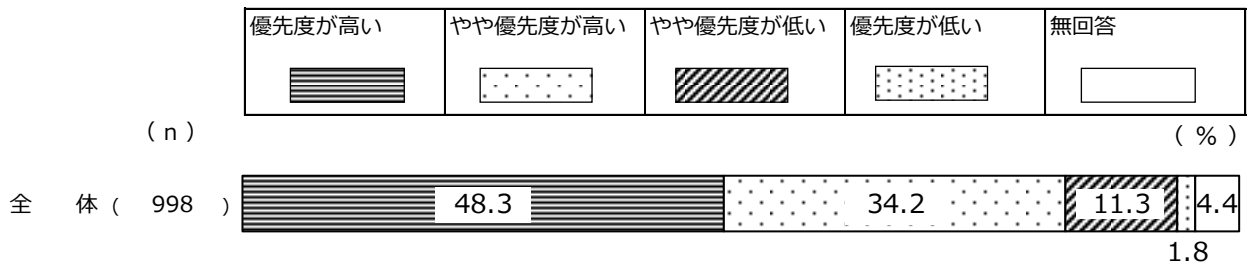
地域別にみると、『南地域』は他の地域よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

障害種別にみると、『重度心身障害』は他の種別よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど、「優先度が高い」の割合が高くなる傾向がみられた。

【単純集計】



【クロス集計】

		回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答
全体		998	48.3	34.2	11.3	1.8	4.4 (%)
本人の年齢別	0～2歳	24	58.3	20.8	16.7	0.0	4.2
	3～5歳	247	45.3	38.9	10.9	0.8	4.0
	6～8歳	195	53.3	30.3	9.2	3.1	4.1
	9～11歳	189	47.1	34.9	11.6	2.1	4.2
	12～14歳	161	54.7	31.1	9.3	0.6	4.3
	15～17歳	174	42.0	35.1	14.4	2.9	5.7
地域別	町田地域	227	49.8	30.8	14.1	1.3	4.0
	忠生地域	182	42.3	33.5	15.4	1.1	7.7
	南地域	297	54.2	33.0	7.1	2.0	3.7
	鶴川地域	157	45.2	38.2	11.5	2.5	2.5
	堺地域	128	45.3	37.5	10.2	2.3	4.7
障害種別	身体	127	53.5	24.4	13.4	3.1	5.5
	知的	422	53.6	32.2	9.0	1.4	3.8
	精神	64	39.1	31.3	21.9	4.7	3.1
	自立	31	38.7	41.9	3.2	6.5	9.7
	難病	17	47.1	17.6	23.5	0.0	11.8
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	49.7	34.5	9.5	1.9	4.3
	医療的ケアを受けている	73	46.6	34.2	9.6	4.1	5.5
	視覚障害	9	55.6	22.2	22.2	0.0	0.0
	聴覚障害	35	42.9	20.0	25.7	8.6	2.9
重度心身障害	126	69.0	21.4	6.3	0.0	3.2	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	45.0	30.8	11.7	5.8	6.7
	核家族世帯	765	49.5	34.5	10.8	1.2	3.9
	三世帯世帯	98	43.9	32.7	15.3	2.0	6.1
サイバース	利用している	839	50.5	33.3	10.5	1.5	4.2
	利用していない	147	37.4	39.5	15.0	3.4	4.8
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	44.0	35.6	13.6	2.2	4.6
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	50.0	34.9	8.6	1.6	4.8
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	69.1	21.0	8.6	0.0	1.2

⑪ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (福祉サービス事業所の職員の対応力の向上)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

「福祉サービス事業所の職員の対応力の向上」の施策について、全体でみると「優先度が高い」が46.0%、「やや優先度が高い」が37.3%であった。

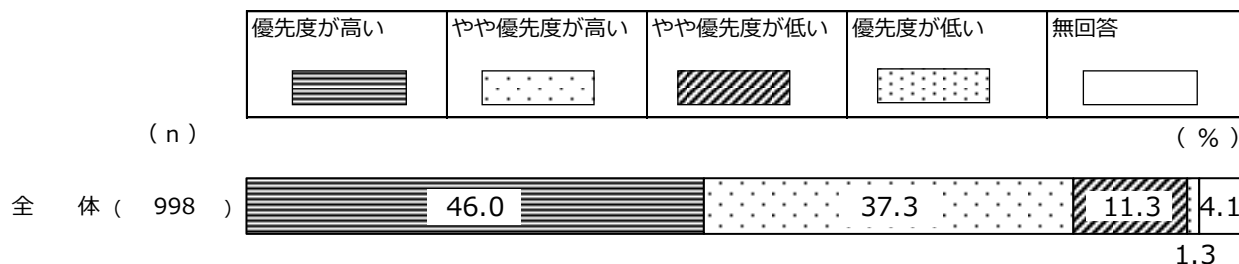
年齢別にみると、『3～5歳』は他の年齢よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

障害種別にみると、『重度心身障害』は他の種別よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど、「優先度が高い」の割合が高くなる傾向がみられた。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	46.0	37.3	11.3	1.3	4.1 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	50.0	37.5	12.5	0.0	0.0
	3～5歳	247	39.7	40.5	12.6	2.0	5.3
	6～8歳	195	51.3	35.9	9.7	2.6	0.5
	9～11歳	189	49.2	33.3	12.7	0.5	4.2
	12～14歳	161	46.6	39.8	6.8	0.6	6.2
	15～17歳	174	44.8	36.2	13.2	0.6	5.2
地域別	町田地域	227	44.5	37.0	12.3	2.2	4.0
	忠生地域	182	49.5	33.0	11.5	0.5	5.5
	南地域	297	44.8	39.1	10.1	1.7	4.4
	鶴川地域	157	47.8	36.9	10.8	1.3	3.2
	堺地域	128	45.3	39.8	11.7	0.0	3.1
障害種別	身体	127	48.0	33.1	10.2	1.6	7.1
	知的	422	47.4	39.8	8.3	1.2	3.3
	精神	64	46.9	29.7	18.8	1.6	3.1
	自立	31	45.2	29.0	16.1	0.0	9.7
	難病	17	35.3	35.3	11.8	0.0	17.6
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	47.2	37.6	10.4	1.0	3.7
	医療的ケアを受けている	73	41.1	32.9	19.2	2.7	4.1
	視覚障害	9	55.6	33.3	0.0	0.0	11.1
	聴覚障害	35	40.0	28.6	20.0	2.9	8.6
重度心身障害	126	54.0	36.5	4.8	1.6	3.2	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	45.0	35.0	11.7	2.5	5.8
	核家族世帯	765	46.3	37.1	11.4	1.2	4.1
	三世帯世帯	98	44.9	39.8	11.2	1.0	3.1
サービス	利用している	839	47.3	36.8	10.8	1.2	3.8
	利用していない	147	40.8	38.1	14.3	2.0	4.8
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	44.2	36.7	13.8	0.6	4.8
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	47.3	37.6	9.4	1.9	3.8
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	51.9	39.5	3.7	3.7	1.2

⑫ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (子どもに関する機関の連携強化)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

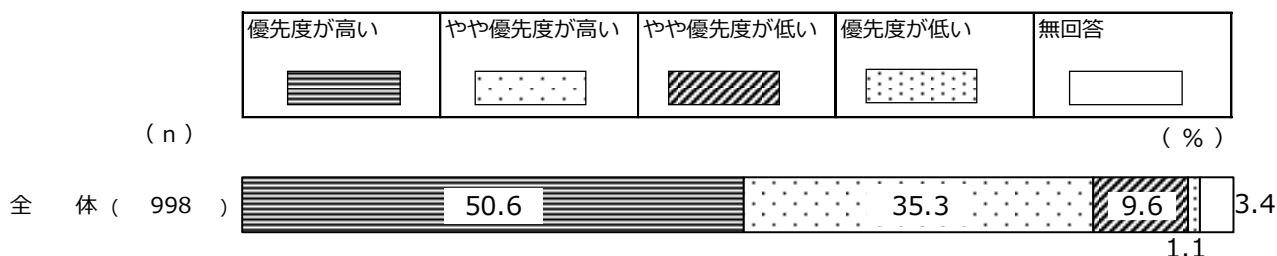
「子どもに関する機関の連携強化」の施策について、全体で見ると「優先度が高い」が50.6%、「やや優先度が高い」が35.3%であった。

年齢別にみると、『15～17歳』は他の年齢よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

障害種別にみると、『精神』『発達』は他の種別よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が少ないほど、「優先度が高い」の割合が高くなる傾向がみられた。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	50.6	35.3	9.6	1.1	3.4 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	58.3	37.5	4.2	0.0	0.0
	3～5歳	247	49.4	36.8	10.1	1.2	2.4
	6～8歳	195	55.9	31.8	9.2	1.0	2.1
	9～11歳	189	57.1	29.1	9.5	1.6	2.6
	12～14歳	161	50.3	33.5	8.1	0.6	7.5
	15～17歳	174	39.7	43.7	11.5	1.1	4.0
地域別	町田地域	227	53.3	33.0	8.4	0.9	4.4
	忠生地域	182	47.3	35.7	10.4	1.1	5.5
	南地域	297	52.5	34.3	8.1	2.0	3.0
	鶴川地域	157	49.7	38.2	10.2	0.0	1.9
	堺地域	128	48.4	35.9	13.3	0.8	1.6
障害種別	身体	127	43.3	36.2	13.4	1.6	5.5
	知的	422	44.3	39.1	11.8	1.4	3.3
	精神	64	51.6	42.2	3.1	0.0	3.1
	自立	31	45.2	45.2	6.5	0.0	3.2
	難病	17	47.1	17.6	29.4	0.0	5.9
	高次脳機能障害	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	53.0	33.6	9.5	1.0	2.8
	医療的ケアを受けている	73	47.9	34.2	13.7	1.4	2.7
	視覚障害	9	44.4	33.3	22.2	0.0	0.0
	聴覚障害	35	42.9	37.1	14.3	0.0	5.7
	重度心身障害	126	42.9	38.9	11.9	1.6	4.8
世帯構成別	ひとり親世帯	120	50.8	35.8	7.5	2.5	3.3
	核家族世帯	765	50.5	34.9	9.9	0.9	3.8
	三世帯世帯	98	50.0	37.8	10.2	1.0	1.0
サービス	利用している	839	51.5	34.2	10.1	1.1	3.1
	利用していない	147	49.0	38.8	6.8	1.4	4.1
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	53.8	33.4	8.3	0.6	4.0
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	47.8	36.8	10.5	1.9	3.0
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	42.0	40.7	14.8	1.2	1.2

⑬ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (高校卒業後の居場所の確保)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

「高校卒業後の居場所の確保」の施策について、全体で見ると「優先度が高い」が58.7%、「やや優先度が高い」が27.8%であった。

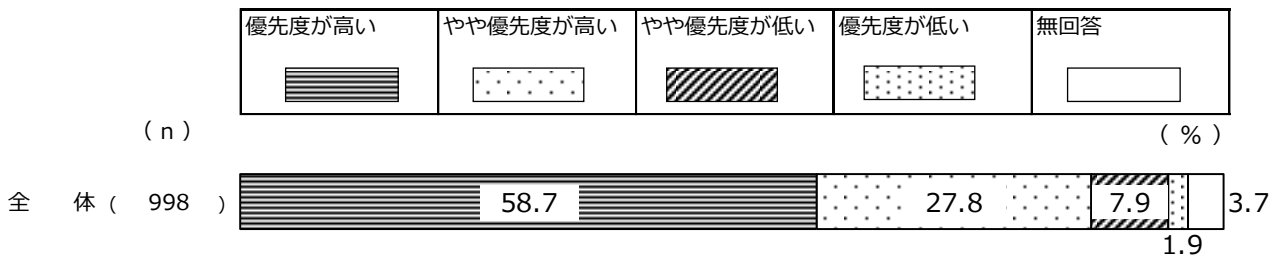
年齢別にみると、『12～14歳』は他の年齢よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

地域別にみると、『忠生地域』は他の地域よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

障害種別にみると、『重度心身障害』は他の種別よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど、「優先度が高い」の割合が高くなる傾向がみられた。

【単純集計】





## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	58.7	27.8	7.9	1.9	3.7 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	45.8	37.5	8.3	0.0	8.3
	3～5歳	247	43.7	40.5	10.1	2.0	3.6
	6～8歳	195	56.4	29.7	8.2	2.1	3.6
	9～11歳	189	66.7	18.5	7.9	2.6	4.2
	12～14歳	161	72.0	16.8	6.2	0.6	4.3
	15～17歳	174	64.4	25.9	5.2	2.3	2.3
地域別	町田地域	227	60.4	26.0	8.4	2.2	3.1
	忠生地域	182	64.8	18.7	10.4	1.1	4.9
	南地域	297	56.6	33.0	4.0	2.4	4.0
	鶴川地域	157	54.8	29.9	10.2	1.9	3.2
	堺地域	128	57.8	28.9	8.6	1.6	3.1
障害種別	身体	127	65.4	22.8	7.9	0.8	3.1
	知的	422	72.5	19.2	4.0	1.9	2.4
	精神	64	60.9	26.6	7.8	1.6	3.1
	自立	31	67.7	16.1	9.7	6.5	0.0
	難病	17	58.8	29.4	5.9	0.0	5.9
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	59.5	26.2	8.0	2.1	4.2
	医療的ケアを受けている	73	63.0	19.2	11.0	4.1	2.7
	視覚障害	9	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	聴覚障害	35	45.7	31.4	20.0	0.0	2.9
	重度心身障害	126	83.3	11.9	2.4	0.8	1.6
世帯構成別	ひとり親世帯	120	62.5	25.0	5.8	3.3	3.3
	核家族世帯	765	57.3	28.4	8.4	1.8	4.2
	三世帯世帯	98	63.3	27.6	7.1	1.0	1.0
サービス	利用している	839	59.4	27.1	8.1	1.9	3.6
	利用していない	147	57.1	31.3	6.1	2.0	3.4
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	54.7	29.9	9.4	1.8	4.2
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	60.5	26.6	7.0	2.4	3.5
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	77.8	18.5	2.5	0.0	1.2

⑭ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (保護者の子育て・介護負担の軽減)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

「保護者の子育て・介護負担の軽減」の施策について、全体で見ると「優先度が高い」が51.3%、「やや優先度が高い」が33.7%であった。

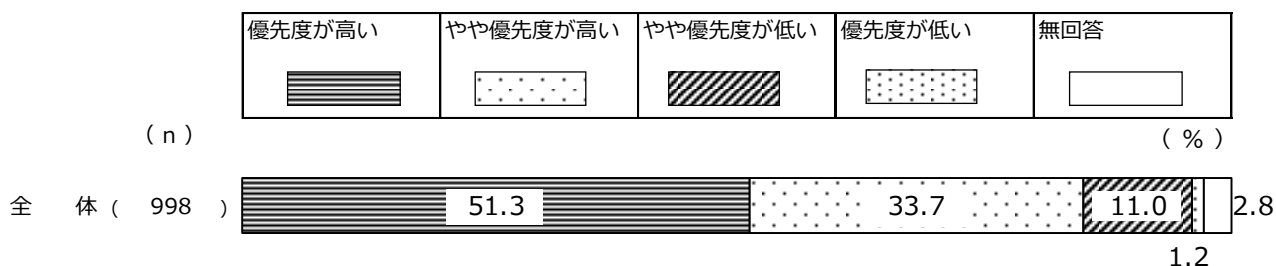
年齢別にみると、『15～17歳』は他の年齢よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

地域別にみると、『鶴川地域』は他の地域よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

障害種別にみると、『難病』は他の種別よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が多いほど、「優先度が高い」の割合が高くなる傾向がみられた。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答
全体	998	51.3	33.7	11.0	1.2	2.8 (%)
本人の年齢別	0～2歳	24	70.8	29.2	0.0	0.0
	3～5歳	247	51.4	35.2	10.1	0.4
	6～8歳	195	53.3	31.8	10.3	3.1
	9～11歳	189	52.9	31.2	12.7	1.6
	12～14歳	161	50.3	36.6	8.7	0.0
	15～17歳	174	45.4	35.1	13.8	1.1
地域別	町田地域	227	49.8	37.0	10.1	0.9
	忠生地域	182	50.0	34.1	11.5	1.6
	南地域	297	52.2	34.0	9.1	1.3
	鶴川地域	157	56.1	30.6	10.8	0.6
	堺地域	128	47.7	32.0	14.8	1.6
障害種別	身体	127	62.2	29.1	3.1	0.8
	知的	422	51.2	35.8	9.7	1.2
	精神	64	53.1	25.0	15.6	3.1
	自立	31	58.1	19.4	16.1	0.0
	難病	17	29.4	47.1	11.8	5.9
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0
	発達	672	52.2	32.4	11.8	1.3
	医療的ケアを受けている	73	52.1	27.4	15.1	2.7
	視覚障害	9	66.7	33.3	0.0	0.0
	聴覚障害	35	48.6	40.0	2.9	2.9
	重度心身障害	126	61.1	30.2	5.6	0.0
世帯構成別	ひとり親世帯	120	47.5	36.7	8.3	3.3
	核家族世帯	765	52.4	32.7	11.2	0.8
	三世帯世帯	98	48.0	37.8	11.2	2.0
サービス	利用している	839	51.5	33.6	11.3	1.2
	利用していない	147	51.0	34.7	9.5	1.4
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	48.4	34.5	12.3	1.3
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	52.7	32.5	11.0	1.3
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	64.2	33.3	2.5	0.0

⑮ 今後の町田市の障がい児施策優先度

(障がいなどがある子どものきょうだいへの支援の充実)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

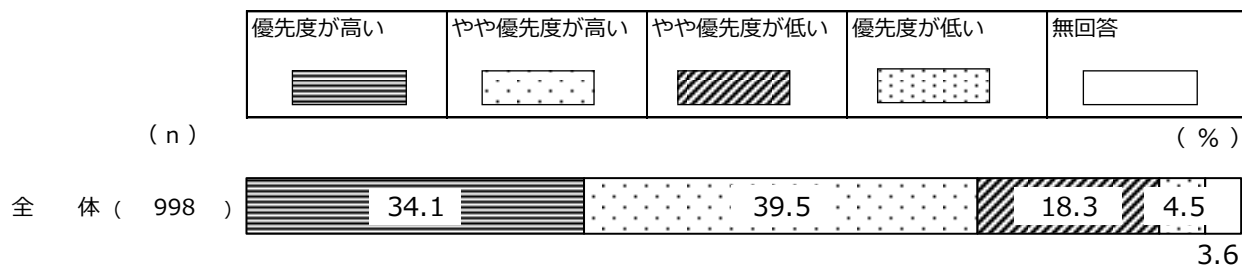
「障がいなどがある子どものきょうだいへの支援の充実」の施策について、全体で見ると「優先度が高い」が 34.1%、「やや優先度が高い」が 39.5%であった。

年齢別にみると、『3～5歳』は他の年齢よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

地域別にみると、『堺地域』は他の地域よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

障害種別にみると、『聴覚障害』は他の種別よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	34.1	39.5	18.3	4.5	3.6 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	33.3	41.7	16.7	0.0	8.3
	3～5歳	247	29.1	44.5	19.4	3.6	3.2
	6～8歳	195	37.9	36.9	18.5	4.1	2.6
	9～11歳	189	34.9	37.0	18.0	5.8	4.2
	12～14歳	161	37.9	37.3	16.8	5.0	3.1
	15～17歳	174	32.2	40.2	17.8	5.2	4.6
地域別	町田地域	227	33.9	41.9	16.3	4.8	3.1
	忠生地域	182	34.6	37.9	18.7	4.4	4.4
	南地域	297	37.4	35.0	18.9	4.0	4.7
	鶴川地域	157	31.8	45.2	16.6	4.5	1.9
	堺地域	128	28.1	41.4	21.9	5.5	3.1
障害種別	身体	127	40.9	34.6	17.3	3.9	3.1
	知的	422	37.2	40.5	15.4	4.7	2.1
	精神	64	35.9	37.5	20.3	3.1	3.1
	自立	31	51.6	22.6	22.6	0.0	3.2
	難病	17	35.3	23.5	23.5	11.8	5.9
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	34.2	38.8	18.6	4.6	3.7
	医療的ケアを受けている	73	39.7	24.7	27.4	6.8	1.4
	視覚障害	9	22.2	44.4	22.2	11.1	0.0
	聴覚障害	35	25.7	48.6	20.0	2.9	2.9
	重度心身障害	126	44.4	33.3	15.1	5.6	1.6
世帯構成別	ひとり親世帯	120	37.5	40.8	14.2	5.0	2.5
	核家族世帯	765	34.9	39.1	17.9	4.3	3.8
	三世帯世帯	98	24.5	42.9	22.4	6.1	4.1
サービス	利用している	839	34.0	39.3	18.8	4.6	3.2
	利用していない	147	36.1	40.8	15.6	4.1	3.4
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	35.0	37.4	18.3	4.6	4.6
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	30.9	43.0	18.5	4.6	3.0
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	42.0	37.0	17.3	3.7	0.0

⑩ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (子どもが参加できる地域行事の充実)

【改めて全ての方にお伺いいたします】  
 問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

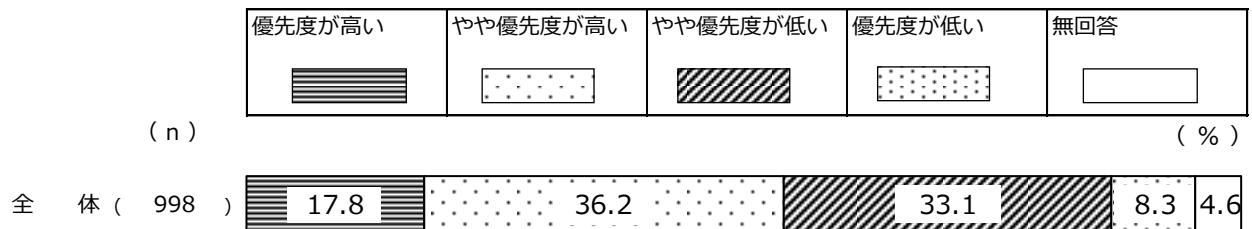
「子どもが参加できる地域行事の充実」の施策について、全体で見ると「優先度が高い」が17.8%、「やや優先度が高い」が36.2%であった。

年齢別にみると、『12～14歳』は他の年齢よりも「やや優先度が高い」の割合が高かった。

地域別にみると、『堺地域』は他の地域よりも「やや優先度が高い」の割合が高かった。

障害種別にみると、『聴覚障害』は他の種別よりも「やや優先度が高い」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答
全体	998	17.8	36.2	33.1	8.3	4.6
本人の年齢別						
0～2歳	24	25.0	37.5	29.2	8.3	0.0
3～5歳	247	17.0	33.2	38.9	6.1	4.9
6～8歳	195	18.5	36.4	31.3	10.3	3.6
9～11歳	189	20.1	34.4	32.3	10.1	3.2
12～14歳	161	15.5	43.5	26.7	8.7	5.6
15～17歳	174	16.7	35.6	33.3	7.5	6.9
地域別						
町田地域	227	19.4	33.0	35.2	7.0	5.3
忠生地域	182	18.7	34.1	31.3	9.3	6.6
南地域	297	19.2	35.7	33.0	8.1	4.0
鶴川地域	157	14.6	37.6	36.3	8.9	2.5
堺地域	128	14.8	44.5	27.3	8.6	4.7
障害種別						
身体	127	18.1	35.4	32.3	8.7	5.5
知的	422	19.0	36.3	32.7	8.5	3.6
精神	64	15.6	37.5	39.1	4.7	3.1
自立	31	19.4	35.5	32.3	6.5	6.5
難病	17	11.8	35.3	35.3	11.8	5.9
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
発達	672	17.3	37.4	32.4	8.3	4.6
医療的ケアを受けている	73	15.1	34.2	32.9	13.7	4.1
視覚障害	9	0.0	33.3	55.6	11.1	0.0
聴覚障害	35	20.0	28.6	37.1	8.6	5.7
重度心身障害	126	19.8	34.1	32.5	10.3	3.2
世帯構成別						
ひとり親世帯	120	17.5	34.2	34.2	10.8	3.3
核家族世帯	765	18.2	36.7	32.3	7.7	5.1
三世帯世帯	98	15.3	33.7	37.8	10.2	3.1
サービス						
利用している	839	17.6	35.5	34.3	8.7	3.8
利用していない	147	19.0	40.8	26.5	6.8	6.8
自立状況別						
「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	19.1	38.9	30.1	6.6	5.3
「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	16.9	32.8	35.8	10.5	4.0
「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	13.6	33.3	40.7	9.9	2.5

⑰ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (市街地や公共施設のバリアフリーの拡充)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

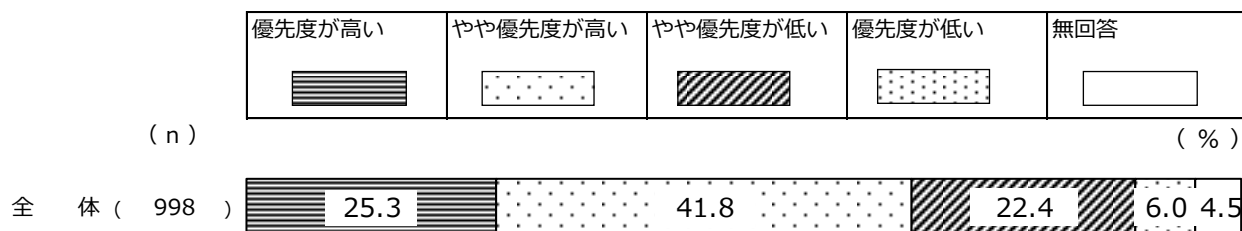
「市街地や公共施設のバリアフリーの拡充」の施策について、全体でみると「優先度が高い」が25.3%、「やや優先度が高い」が41.8%であった。

地域別にみると、『町田地域』は他の地域よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

障害種別にみると、『身体』『聴覚障害』は他の種別よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が7～10個の場合、他の状況よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

【単純集計】





【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	25.3	41.8	22.4	6.0	4.5 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	33.3	41.7	20.8	4.2	0.0
	3～5歳	247	26.3	38.5	24.7	6.1	4.5
	6～8歳	195	21.5	45.6	24.1	6.7	2.1
	9～11歳	189	25.9	38.6	23.8	7.4	4.2
	12～14歳	161	24.2	46.0	18.6	4.3	6.8
	15～17歳	174	27.0	42.0	19.0	5.7	6.3
地域別	町田地域	227	30.0	37.0	23.8	4.4	4.8
	忠生地域	182	23.6	42.9	22.0	6.0	5.5
	南地域	297	25.6	40.7	21.5	7.1	5.1
	鶴川地域	157	24.2	45.2	22.3	5.1	3.2
	堺地域	128	21.1	46.1	22.7	7.0	3.1
障害種別	身体	127	40.2	43.3	7.9	4.7	3.9
	知的	422	24.2	44.8	20.4	6.6	4.0
	精神	64	17.2	42.2	26.6	6.3	7.8
	自立	31	25.8	32.3	22.6	6.5	12.9
	難病	17	23.5	64.7	11.8	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	発達	672	24.3	42.7	22.8	6.5	3.7
	医療的ケアを受けている	73	24.7	43.8	19.2	9.6	2.7
	視覚障害	9	22.2	55.6	11.1	11.1	0.0
	聴覚障害	35	37.1	40.0	14.3	2.9	5.7
重度心身障害	126	32.5	45.2	15.9	4.0	2.4	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	24.2	40.8	22.5	9.2	3.3
	核家族世帯	765	26.5	42.1	21.2	5.4	4.8
	三世帯世帯	98	18.4	40.8	28.6	8.2	4.1
サービス	利用している	839	24.8	42.1	23.1	6.2	3.8
	利用していない	147	29.9	40.8	17.7	5.4	6.1
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	25.1	41.8	22.8	4.8	5.5
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	22.8	42.2	22.6	8.6	3.8
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	37.0	39.5	19.8	2.5	1.2

⑱ 今後の町田市の障がい児施策優先度  
 (子どもの意見を踏まえたまちづくり)

【改めて全ての方にお伺いいたします】

問 39. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【○はそれぞれに一つずつ】

「子どもの意見を踏まえたまちづくり」の施策について、全体で見ると「優先度が高い」が23.0%、「やや優先度が高い」が40.6%であった。

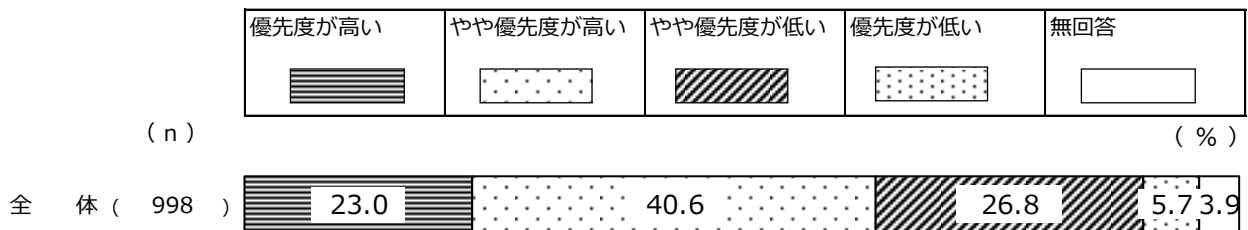
年齢別にみると、『9～11歳』は他の年齢よりも「やや優先度が高い」の割合が低かった。

地域別にみると、『鶴川地域』は他の地域よりも「やや優先度が高い」の割合が高かった。

障害種別にみると、『難病』は他の種別よりも「優先度が高い」の割合が高かった。

サービス利用状況別にみると、『利用している』は『利用していない』よりも「優先度が高い」の割合が低かった。

【単純集計】



## 【クロス集計】

	回答数	優先度が高い	やや優先度が高い	やや優先度が低い	優先度が低い	無回答	
全体	998	23.0	40.6	26.8	5.7	3.9 (%)	
本人の年齢別	0～2歳	24	12.5	54.2	33.3	0.0	0.0
	3～5歳	247	21.5	41.3	29.1	5.3	2.8
	6～8歳	195	27.2	40.0	25.1	6.2	1.5
	9～11歳	189	24.3	35.4	29.1	6.9	4.2
	12～14歳	161	21.7	40.4	23.6	6.8	7.5
	15～17歳	174	21.3	45.4	23.6	4.6	5.2
地域別	町田地域	227	23.3	38.8	26.9	7.0	4.0
	忠生地域	182	24.2	37.4	28.6	4.9	4.9
	南地域	297	23.6	41.4	26.3	5.4	3.4
	鶴川地域	157	22.3	43.9	24.2	5.1	4.5
	堺地域	128	21.1	42.2	28.1	5.5	3.1
障害種別	身体	127	27.6	40.9	22.8	3.9	4.7
	知的	422	22.7	41.2	26.3	6.2	3.6
	精神	64	25.0	43.8	20.3	7.8	3.1
	自立	31	19.4	41.9	29.0	6.5	3.2
	難病	17	35.3	29.4	23.5	5.9	5.9
	高次脳機能障害	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	発達	672	21.6	41.1	27.5	6.4	3.4
	医療的ケアを受けている	73	19.2	38.4	27.4	11.0	4.1
	視覚障害	9	11.1	66.7	11.1	11.1	0.0
	聴覚障害	35	22.9	42.9	22.9	5.7	5.7
重度心身障害	126	22.2	43.7	27.8	4.8	1.6	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	23.3	37.5	30.8	6.7	1.7
	核家族世帯	765	23.4	41.6	25.2	5.6	4.2
	三世帯世帯	98	17.3	38.8	33.7	6.1	4.1
サービス	利用している	839	22.1	40.4	28.2	6.1	3.2
	利用していない	147	30.6	42.9	17.0	4.1	5.4
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	25.1	39.6	25.7	5.0	4.6
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	21.2	41.1	26.6	7.5	3.5
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	17.3	44.4	34.6	2.5	1.2

⑱ 複合化後の子ども発達センターに求めること

問 40. 「子ども発達センター」は、2028 年度以降に現在の「教育センター」（町田市木曽東 3-1-3）の敷地内に設置を予定している複合施設（（仮称）子ども・子育てサポート等複合施設）へ移転する予定です。複合化された後の「子ども発達センター」に求めるものについてあてはまるものすべてをお選びください。【あてはまるもの全てに○】  
 ※運営は民間活力の導入を予定しています。

複合化後の子ども発達センターに求めることについて、全体で見ると「職員・スタッフが充実していること」が最も高く 75.4%であり、次いで「施設へのアクセスがしやすく、駐車場が確保されていること」で 71.8%であった。

年齢別にみると、『12～14 歳』は他の年齢よりも「複合施設内で他のサービスとの連携が図れていること」の割合が低かった。

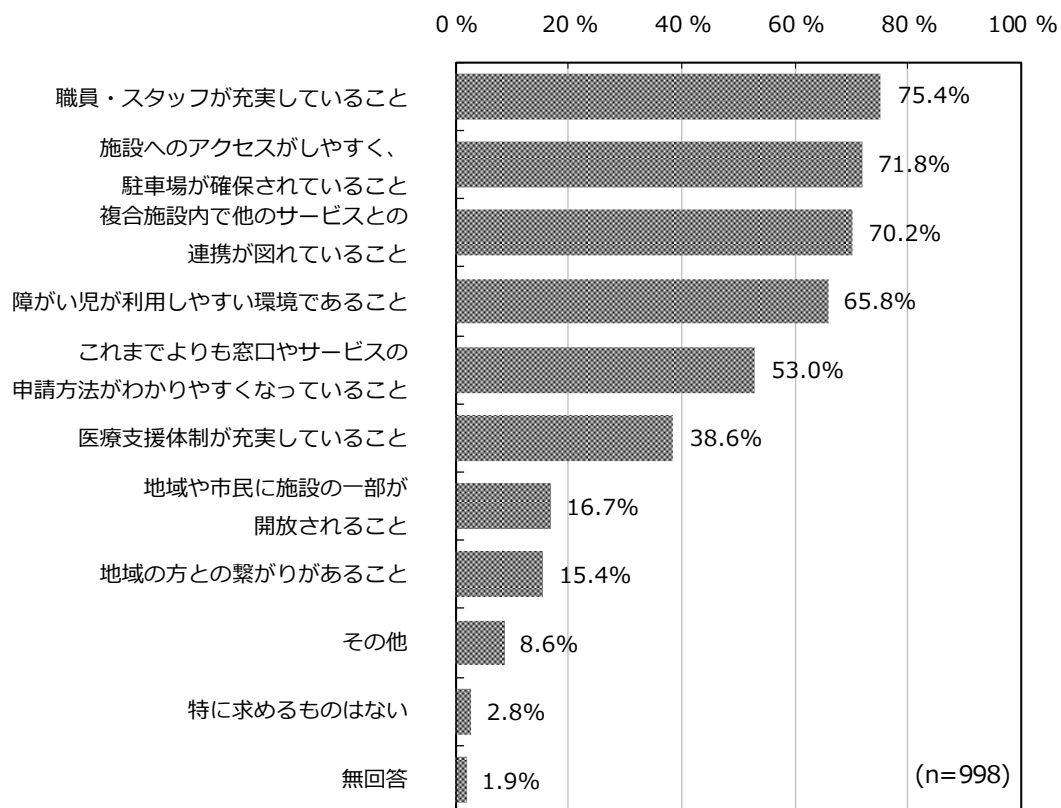
地域別にみると、『南地域』は他の地域よりも「施設へのアクセスがしやすく、駐車場が確保されていること」の割合が高かった。

障害種別にみると、『知的』『発達』は他の種別よりも「医療支援体制が充実していること」の割合が低かった。

世帯構成別にみると、『ひとり親世帯』は他の世帯よりも「医療支援体制が充実していること」の割合が高かった。

自立状況別にみると、「全部介助」が必要な動作が 7～10 個である場合、それ以外よりも「医療支援体制が充実していること」の割合が高かった。

【単純集計】



【クロス集計】

	回答数	職員・スタッフが充実していること	施設へのアクセスがしやすいこと、駐車場が確保されていること	複合施設内で他のサービスの連携が図れていること	障がい児が利用しやすい環境であること	がわかりやすくなっていること	これまでも窓口やサービスの申請方法	医療支援体制が充実していること	地域や市民に施設の一部が開放されること	地域の方との繋がりがあること	その他	特に求めるものはない	無回答
全体	998	75.4	71.8	70.2	65.8	53.0	38.6	16.7	15.4	8.6	2.8	1.9	
本人の年齢別	0～2歳	24	75.0	70.8	83.3	62.5	66.7	58.3	12.5	16.7	25.0	0.0	0.0
	3～5歳	247	81.0	77.7	75.3	65.2	54.7	40.9	18.2	16.2	8.1	2.0	1.6
	6～8歳	195	80.5	75.4	71.8	68.2	58.5	34.4	12.8	13.3	9.7	2.1	1.5
	9～11歳	189	73.5	73.0	74.1	65.6	51.9	36.5	16.4	14.3	9.0	0.5	1.1
	12～14歳	161	67.1	68.9	60.2	64.0	50.9	36.0	19.9	15.5	9.9	5.0	2.5
	15～17歳	174	71.8	62.1	65.5	67.8	46.0	42.5	17.2	17.2	4.6	4.6	2.9
地域別	町田地域	227	73.6	64.3	71.4	68.3	54.2	40.1	17.6	18.1	11.5	2.2	1.3
	忠生地域	182	74.2	66.5	72.5	69.8	54.9	41.8	18.7	17.6	9.9	3.8	2.7
	南地域	297	79.5	82.5	69.4	66.7	52.2	38.7	17.2	14.5	7.4	2.0	0.7
	鶴川地域	157	73.2	74.5	68.2	60.5	48.4	33.1	14.6	11.5	7.6	3.2	4.5
	堺地域	128	75.0	65.6	70.3	60.9	57.0	39.1	14.1	14.8	5.5	3.1	0.8
障害種別	身体	127	65.4	72.4	66.1	74.8	44.9	54.3	15.0	18.1	5.5	5.5	2.4
	知的	422	74.2	69.2	67.1	69.0	51.4	36.0	16.6	14.7	9.7	4.0	1.9
	精神	64	75.0	68.8	60.9	64.1	59.4	48.4	15.6	18.8	4.7	1.6	1.6
	自立	31	71.0	45.2	64.5	71.0	45.2	41.9	16.1	19.4	6.5	3.2	0.0
	難病	17	76.5	76.5	82.4	88.2	52.9	70.6	17.6	23.5	5.9	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	発達	672	76.5	72.3	72.3	67.7	54.6	38.5	17.7	16.2	9.2	2.2	2.1
	医療的ケアを受けている	73	71.2	68.5	65.8	65.8	50.7	56.2	16.4	21.9	8.2	2.7	1.4
	視覚障害	9	55.6	66.7	55.6	66.7	44.4	55.6	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0
	聴覚障害	35	60.0	60.0	60.0	65.7	45.7	54.3	20.0	20.0	5.7	5.7	2.9
重度心身障害	126	75.4	73.0	71.4	77.0	54.8	47.6	17.5	18.3	9.5	4.8	1.6	
世帯構成別	ひとり親世帯	120	65.0	69.2	54.2	66.7	55.0	45.0	15.0	16.7	7.5	7.5	5.0
	核家族世帯	765	76.9	72.5	71.8	65.4	51.8	37.6	17.1	15.7	9.0	2.2	1.3
	三世帯世帯	98	75.5	69.4	74.5	65.3	61.2	38.8	11.2	10.2	6.1	2.0	3.1
サービス	利用している	839	77.8	74.4	72.7	68.5	53.9	38.7	17.0	15.5	9.4	2.1	1.5
	利用していない	147	63.9	59.9	57.8	53.7	50.3	39.5	15.6	16.3	4.1	5.4	2.7
自立状況別	「全部介助」が必要な動作が0～2個	545	71.7	68.3	66.1	61.1	50.6	36.3	15.6	16.0	6.8	3.3	2.6
	「全部介助」が必要な動作が3～6個	372	79.3	76.1	75.8	70.7	55.9	38.2	18.8	13.4	9.7	1.9	0.8
	「全部介助」が必要な動作が7～10個	81	81.5	76.5	72.8	75.3	55.6	55.6	14.8	21.0	16.0	3.7	2.5

## 7. 子どものより良い生活に必要なことやご意見・ご要望

問 41. お子さまのよりよい生活に必要なことやご意見・ご要望などがありましたらご自由にご記入ください。【自由回答】

自由意見	460 件
福祉サービスについて	269 件
学校について	162 件
行政について（手続きなど）	87 件
障がい者差別・理解の促進について	59 件
相談先について	57 件
医療機関について	34 件
まちづくり全般について	31 件
移動や交通機関について	28 件
暮らしについて	27 件
幼稚園・保育園について	20 件
自分の子どもについて	18 件
余暇活動について	16 件
就労について	14 件
アンケートについて	6 件
その他	47 件

※ 1つの意見が複数のカテゴリーに該当することがあり、各カテゴリーの意見の合計と自由意見の件数が一致しない場合があります。

### 自由意見（一部抜粋）

#### 【福祉サービスについて】

- 全ての障がい者が、福祉サービスを等しく受けられる事を望みます。
- 希望する支援が希望通りに受けられる事。
- 福祉サービスの空きがなく、空き待ちのため利用できない制度ばかりで、全く意味がないと思います。
- レスパイト先の確保・充実が必要
- 親が共働きですので子どもを安心して長時間預けられる場所が欲しいです。
- 土日に利用できるデイサービスの施設が少ない。 定時制の高校に通っているのに、平日に利用できない。
- 高校3年生までは放課後デイサービスが利用できますが、高校卒業後、就労すると早く帰宅することになります。町田市でも、就労後のデイサービス利用が出来ることを願っています。
- 卒業後も同じデイサービスに通えるようになってほしい。
- 高校卒業後の生活の充実のために利用できる生活介護事業所の増設等を強く希望します。
- 高校卒業後、社会に出る時に困らないような支援が続くことを期待します。

#### 【学校について】

- 教室でじっとしてられない時の学校内での居場所が保健室しかありません。空いている教室

に支援の先生 1～2 人くらいいて、そういう子達が安全に過ごせる場所があるとありがたいと思います。

- 特別支援学級から進学できる高校がもっと増えて欲しい。
- 支援学校をもっと増やしてほしい。行かせようと思っても遠くて難しい。
- 支援学級に行かなくても子どもに合った学習のサポートが受けられると学習意欲が高まるのではと思います。高い学習費を出して個別対応の勉強方法しかないのが現状なので。
- 学校のサポートが不十分な気がする。担任だけでフォローは難しいと思うので専用のサポート担当者を配置すべき。
- 通常学級の教員も特別支援の勉強が必要だと感じる。特別支援は障害があるないに関わらず、全ての子どもに通用する支援であることを知るべき。
- サポートルームの利用が、今後どうなっていくのか、不安に思う。
- サポートルームも保護者が希望したら参加できるようにしてもらいたいです。サポートルーム判定が出ないと、通常級か特別支援学級かの両極端な選択肢しかないのです。

#### 【行政について（手続きなど）】

- 手続きの簡素化が必要。異なるサービスを受ける度に手続きを電話でやり直すのはどうかと思う。横の連携をして欲しい。土日も対応して欲しい。
- 町田市役所障がい福祉課の待ち時間を考えてほしい。市役所だけでなく、市民センターでもできることを増やしてほしい。
- 子ども発達支援センターで受給者証を発行していただきましたが、情報がない中で道標になるような案内が特になかったため、この先どの時期にどんなことをしたら良いのか分からず、いまだに不安があります。
- 何でも相談出来る市役所の体質を構築すること、具体的には障がい者が困った時に相談しやすい窓口を現実的に設けること。
- 障害者扶養手当などを年収関係なく支給すること。年収の目安も毎年上がるべき。

#### 【障がい者差別・理解の促進について】

- ご近所には子どもの障がいについて理解していただいているので問題ないが一步離れた場所に行くと、やはり障がいについて理解がまだされていない事を感じてしまう。障がいについて理解している大人はまだ少ない。
- 障がいに対する理解が広まり、特性のある子どもに対して寛容な社会であることを望みます。
- どのような障がいがあってもありのままを受け入れてくれる社会体制ができると嬉しいです。そのためには障がいがある側にも理解してもらえるような発信が必要だと思われるので、そのような場があるといいなと思います。
- 発達障害のある子どもへの理解を深めて対応出来る環境が整うと良いと思いました。

#### 【相談先について】

- 時期に応じた相談窓口がある事。サポート対応の親身さがあると助かります。
- 相談する所があるのは良いが、色々な生活スタイルの中での柔軟な対応・提案などをしてくれる人材がいると良いと思います。
- 保護者よりも、障がい者本人が辛いと思う。少しでも本人が軽減できるようにして欲しい。今も親身になって聞いてくれる所ばかりなので、助かっている。